



～ 誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり ～

 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

# 平成30年度 シンクタンク事業 調査報告書

## 目 次

I	社協シンクタンク事業について .....	1
II	事業の柱【中期計画：5年間】 .....	1
III	平成 30 年度実施事業 .....	2
1	平成 30 年度『福祉に関わる団体支援者アンケート』調査 .....	5
	（1）福祉に関わる民生委員児童委員アンケート調査報告 .....	7
	（2）福祉に関わるボランティア登録団体アンケート調査報告 .....	31
2	第 3 次黒部市地域福祉活動計画策定に向けて地域福祉に関する現状と課題に ついての調査 .....	63
	（1）第 3 次黒部市地域福祉活動計画策定委員会におけるワーキング実施報告 ..	65
	（2）地域福祉に関する現状と課題についてのワーキング実施報告 .....	71
	（3）地域福祉に関する現状と課題についてのヒアリング調査報告 .....	75
3	平成 30 年度 黒部市社会福祉法人連合会『ふくしの暮らしアンケート』調査報告	99
IV	第 3 次黒部市地域福祉活動計画 .....	111
V	平成 31（2019）年度 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 事業計画 .....	157

## I 社協シンクタンク事業について

### 1 社協シンクタンクの位置づけ

社会福祉協議会の役割である地域福祉に関する調査・研究機能をより高めるために、情報の集積、分析、研究、事業化への企画立案を行うものである。

「人（ヒト）」・「物（モノ）」・「資金（カネ）」をより効果的に活かすために、中長期のスパンで「時（トキ）」と「情報（過去・未来）」の概念を加えた、将来の地域福祉の将来像を探っていくことが目的である。

### ○シンクタンクとは

シンクタンクとは、政治、経済、科学技術など、幅広い分野にわたる課題や事象を対象とした調査・研究を行い、結果を発表したり解決策を提示したりする研究機関。think tank という言葉通り、頭脳集団などと表現されることもある。

## II 事業の柱【中期計画：5年間】

### 1 「人（ヒト）」・・・担い手、人材育成

- (1) 黒部市内での人材育成に関する調査分析
- (2) 各種研修に一貫した人材育成プランをもとに見直しと修正を行う。

### 2 「物（モノ）」・・・事業、政策

- (1) 第9回全国校区・小地域福祉活動サミットの開催並びに開催後の社会的インパクトの評価
- (2) 地域福祉、地域包括ケアの拠点となる場の整備計画  
(=「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」)

### 3 「資金（カネ）」・・・地域福祉財源、共同募金、社協自主財源

- (1) 事業計画と資金計画（ファンドレイジングプラン）の整合性  
資金計画は、行政補助に限らず、民間助成金や地域福祉財源である共同募金の強化、活用しながら必要とされる事業へ必要な資金を投資できる環境を整備していく。

### 4 「情報（過去・未来）」・・・情報の蓄積、分析、研究

- (1) 小地域福祉活動研究会の設置  
平成27年11月のサミット開催に向けての前後を含めた3年間、小地域での福祉活動にスポットを当てた研究会を設置する。市町村・県社協職員や福祉関係、NPO、企業、行政など分野を問わず興味関心がある方を募る。また、外部有識者を交え分析と研究を

高める。

(2) 地域福祉調査

地区単位で行われている地域活動の過去から現在までの情報を収集し整理する。また将来の人口動向や社会変化などを予測しながら地域の将来像を探っていく。そのデータは研究会等で分析・研究したものを市民に公開していく。

5 「時（トキ）」・・・中長期ビジョン、事業計画の立案

(1) 社協基盤強化計画

黒部市社会福祉大会決議からなる中期ビジョン、単年度事業計画までの一貫性。それに基づく社協の基盤強化計画への落とし込みを行う。

III 平成 30 年度実施事業

1 平成 30 年度『福祉に関わる団体支援者アンケート』調査

(1) 福祉に関わる民生委員児童委員アンケート

○調査期間

平成 30 年 7 月 5 日～平成 30 年 8 月 6 日

○調査対象

黒部市内の民生委員児童委員 113 名

○調査分析方法

(調査方法)

アンケート調査

(実施方法)

各地区会長に依頼し、全民生委員児童委員に配布し回収

(回収)

回収数—108 枚 (回収率 : 95.6%)

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

(2) 福祉に関わるボランティア登録団体アンケート

○調査期間

平成 30 年 7 月 20 日～平成 30 年 8 月 2 日

○調査対象

黒部市内ボランティア登録団体 60 団体



○調査分析方法

(調査方法)

アンケート調査

(実施方法)

市内ボランティア団体（60 団体）へ送付し、本会へ返送

(回収)

回収数—38 枚（回収率：63.3%）

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

2 第3次黒部市地域福祉動計画策定に向けて地域福祉に関する現状と課題についての調査

(1) 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会におけるワーキング

○実施期間

平成 30 年 5 月 11 日、8 月 6 日、9 月 20 日

○調査対象

第3次黒部市地域福祉動計画策定委員 15 名

○調査分析方法

(調査方法)

グループワーク（4 人～6 人程度のグループに分かれワーキングを実施）

(実施方法)

福祉関係団体、分野別に委嘱された委員の方々を中心に行う。

テーマ別に個人ワーク、グループワークと手段を変え実施

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

(2) 地域福祉に関する現状と課題についてのワーキング

○調査期間

①平成 30 年 6 月 13 日 ②平成 30 年 7 月 24 日

○調査対象

①市内ボランティア登録団体代表者 36 名

②黒部市社会福祉協議会職員 21 名

○調査分析方法

(調査方法)

グループワーク（4 人～6 人程度のグループに分かれワーキングを実施）

(実施方法)

地域支援・生活支援に携わるボランティア団体及び社協職員を中心に行う。

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

(3) 地域福祉に関する現状と課題についてのヒアリング調査

○調査期間

平成 30 年 3 月 26 日～平成 30 年 10 月 2 日

○調査対象

地区社会福祉協議会 16 地区、地縁型ボランティア団体 16 地区  
次世代、少数派、移住者の方々を中心に調査

○調査分析方法

(調査方法)

ヒアリング調査 (1 人～6 人程度のグループに対し、約 30 分)

(実施方法)

現在市内を中心に活動している全 16 地区社協、各団体に呼びかける。  
聞き手1名、記録1名(最低人数)を配置し、ヒアリングを行う。

(回収)

実施総数 35 箇所 (対象 83 名)

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

3 黒部市社会法人連合会『ふくしの暮らしアンケート』調査

○調査期間

平成 30 年 12 月 15 日

○調査対象

黒部市社会福祉連合会主催「ふくし丸ごと相談会」来場者

○調査分析方法

(調査方法)

アンケート調査

(実施方法)

ふくし丸ごと合同相談会 (黒部市福祉センター年越しまつり) 開催に合わせ、  
来場者にアンケートを依頼し、相談員と共に回答してもらう。

(回収)

回収数—100 枚

○実施主体

黒部市社会福祉法人連合会事務局 (社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会)

平成 30 年度  
『福祉に関わる団体支援者アンケート』  
調査報告書

この調査は、第3次黒部市地域福祉活動計画策定に向けての基礎調査として福祉に関わる民生委員児童委員並びにボランティア登録団体への意識調査を行うものである。

- 1 「福祉に関わる民生委員児童委員アンケート」調査報告
- 2 「福祉に関わるボランティア登録団体アンケート」調査報告
- 3 資料：アンケートフォーマット

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



「福祉に関わる民生委員児童委員アンケート」  
調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



## 1 調査目的

黒部市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指し、黒部市の福祉環境の充実、向上に向けた「第3次地域福祉活動計画」を策定するため、各年代層やさまざまな立場の方々の意見・提案をいただいているが、本調査については黒部市内の民生委員児童委員を対象に、地域生活や地域との関わり、福祉の充実などに対する意見を調査し、将来の地域づくりの参考とすることを目的としている。

## 2 調査対象

黒部市民生委員児童委員 113名

## 3 調査期間

平成30年7月5日～平成30年8月6日

## 4 アンケート調査方法

民児協理事協議会(7月5日)開催時に、各地区会長に依頼し、全民生委員児童委員に配布し、回答してもらう。

## 5 回収結果

今回のアンケート調査では、民生委員児童委員全113名中108名より回答を得ることができた。

対象者数	回答者数	有効回答率
113名	108名	95.6%

対象者数と回答者数にやや差異はあるが、回答率は95.6%と高く、今回の調査結果に対し、大きな影響をもたらすことはないと考ええる。

## 6 調査結果まとめ

### <属性>

#### 1. 性別

委員構成比は、男性35.2%、女性64.8%であった。

#### 2. 年代

60代が59.3%と全体の6割を占め、次いで70代が23.1%、50代が11.1%、40代が6.5%であった。20代、30代の若い世代、80歳以上の高齢世代の委員はいなかった。

### 3. 住んでいる地区

委員は地区毎に規定数が決められているため、地区で区分した場合、回答比に当然ばらつきはあるが、どの地区からも9～10割の回答が得られ、各地区の現状について満遍なく回答が得られていると考える。

### 4. 職業

無職が30.6%と全体の3割を占め、元職は会社員と公務員が多かった。その他、主婦が25.0%、パート・アルバイトが19.4%、会社員が10.2%、自営業が7.4%、農業が6.5%であった。問2の年代比からみても、定年後の方が多いたことがうかがえる。

<民生委員・児童委員活動について>

### 5. 現在の任期

「1期目」が59.3%と全体の6割を占め、「2期目」が20.4%、「3期目」が9.3%、「4期目以上」が11.1%であった。継続者が少なく、1期で交替している地区が多いことがうかがえる。

### 6. 民生児童委員になられた経緯

「知り合いから勧められた」が45.4%と全体の5割を占め、「その他」と回答している31.5%の方も、町内会(長)や自治振興会(長)から頼まれたという回答が多かった。その他、「順番だった」が7.4%、「知らないうちに任命された」が11.1%で、「自らやってみようと思った」は1.9%(108名中2名)であった。

### 7. 活動に対する満足度

「ふつう」が50.0%と最も多く、次いで「あまり満足していない」が21.3%、「ほぼ満足している」が14.8%、「やや不満である」が13.0%、「かなり不満である」が0.9%、「大変満足している」は回答者ゼロであった。

### 8. 相談を受けたことのある内容

「見守り」、「独居」、「介護」、「認知症」と高齢者に関する相談が上位を占めていた。その他、「住民との摩擦に関する相談」、高齢者問題よりは少ないが、「育児・子育て」、「ひとり親」、「生活保護」等の相談に関しても全体の2割近くの方が相談を受けたことがあると答えていた。

### 9. 近年、相談件数が増えたもの、増えてきたと感じる課題

件数に若干違いはあるものの、その内容については、これまでに相談を受けたことのある高齢者問題が多く、「介護」、「認知症」、「見守り」、「独居」に関する相談が増えてきたと感じている方が全体の4割いることがわかった。



## 10. 活動について、個人的に感じること

【会合・会議への参加】は、「かなり大変」が 5.6%、「やや大変」が 43.5%、「ふつう」が 38.0%、「あまり大変ではない」が 5.6%、「大変と思ったことはない」が 6.5%であった。

【訪問・相談】については、「かなり大変」が 8.3%、「やや大変」が 33.3%、「ふつう」が 43.5%、「あまり大変ではない」が 11.1%、「大変と思ったことはない」が 2.8%であった。

【研修・勉強会への参加】は、「かなり大変」が 5.6%、「やや大変」が 38.0%、「ふつう」が 46.3%、「あまり大変ではない」が 6.5%、「大変と思ったことはない」が 3.7%であった。

【事務作業・提出物】については、「かなり大変」が 6.5%、「やや大変」が 25.0%、「ふつう」が 54.6%、「あまり大変ではない」が 9.3%、「大変と思ったことはない」が 2.8%であった。

【地区行事等への参加】は、「かなり大変」が 9.3%、「やや大変」が 31.5%、「ふつう」が 43.5%、「あまり大変ではない」が 9.3%、「大変と思ったことはない」が 3.7%であった。

全体評価として、会合や会議、研修や勉強会への参加等、活動時間に縛りがあるものについては、約 4 割の方が「大変」と感じ、個人として活動できる訪問や相談、事務作業や提出物については、委員活動として「ふつう」と感じている人が多いことがわかった。

## 11. 自身の悩みや不安、課題について

悩みや不安、課題が「ある」が 55.6%、「ない」が 32.4%であった。

具体的な内容として多く上がったのは、活動の仕方、動き方が分からず活動に自信がもてない、具体的な活動事例を聞きたい、認知症との関わりや他人の家族との関わり方への不安、仕事との両立、後任がいらない、外部との連携が取れていない、情報が入らないとの声が多く上がっていた。

## 12. ありたい形(理想)と想定(将来)でギャップを感じる

多く上がった意見として、若い世代に活躍してもらいたいが、仕事等の関係で時間的に難しい(断られる、増えない)であった。また、民生児童委員の認知度が低く理解を得られない、活動に対して無関心であるとの声も多かった。

<外部との関わりについて>

## 13. 行政・地区・専門機関・社協との関わりについて

回答数が多かったものとして、【行政との関わり】は、「ふつう」が 33.3%、「やや弱い」が 32.4%、【地区との関わり】は、「ふつう」が 40.7%、「強い」が 35.2%、【専門機関との関わり】は、「ふつう」が 45.4%、「やや弱い」が 30.6%、【社協との関わり】は、「ふつ

う」が 50.0%、「強い」が 23.1%であった。

全体評価として、地区との関わりを強く感じ、行政、専門機関との関わりは、弱く感じていた。ただ、どの項目も「強い」、「弱い」とは言い切れず、「ふつう」と感じている人が全体の 3 割～5 割と最も多かった。

#### 14. 『福祉』という言葉のイメージ

福祉という言葉のイメージは、一人ひとり様々であったが、いくつかの共通項目があり、その用語をキーワードとし、集約した。

キーワードとして、「幸せ」、「支える・助ける」、「安心・安全」、「やさしい・思いやり」というイメージを意味する内容が多くあった。

<福祉の複合施設について>

#### 15. 福祉の複合施設の利用について

利用したいかの問いに対して、「はい」が 49.1%、「いいえ」が 3.7%、「わからない」が 43.5%であった。

#### 16. 複合施設の利用環境について

利用環境として最も多く求められたものは、「㊸バスの送迎（59 件）」で全体の 5 割、次いで、「相談」、「子育て広場」、「趣味の場」、「カフェ」といった気軽にいける施設環境が求められていることがわかった。

その他の意見として、施設自体必要ない、これ以上箱物を増やす必要はないという意見も少数ではあるが上がっていた。

#### 17. 黒部市社協に対する意見

行政との連携強化、広報誌に対する評価、くろベネットに対する意見等があった。

# アンケート結果報告書

黒部市社会福祉協議会『福祉に関わる団体支援者アンケート』調査結果(民生児童委員用)

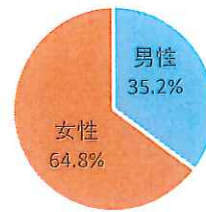
調査依頼者総数…113名 回収枚数…108枚 回収率…95.6%

◎ 属性

1. 性別

	回答(人)	%
男性	38	35.2
女性	70	64.8
全体	108	100.0

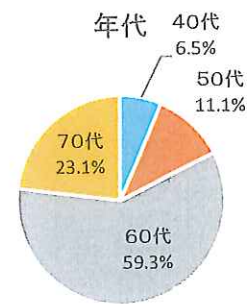
性別



2. 年代

	回答(人)	%
20代	0	0.0
30代	0	0.0
40代	7	6.5
50代	12	11.1
60代	64	59.3
70代	25	23.1
80歳以上	0	0.0
全体	108	100.0

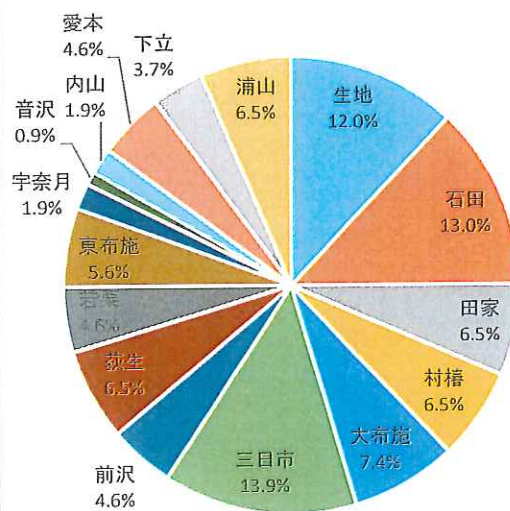
年代



3. 住んでいる地区

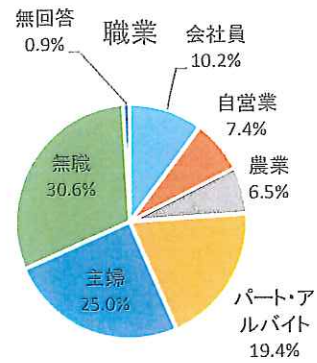
	回答(人)	%
生地	13	12.0
石田	14	13.0
田家	7	6.5
村椿	7	6.5
大布施	8	7.4
三日市	15	13.9
前沢	5	4.6
荻生	7	6.5
若栗	5	4.6
東布施	6	5.6
宇奈月	2	1.9
音沢	1	0.9
内山	2	1.9
愛本	5	4.6
下立	4	3.7
浦山	7	6.5
全体	108	100.0

住んでいる地区



#### 4. 職業

	回答(人)	%
会社員	11	10.2
自営業	8	7.4
農業	7	6.5
パート・アルバイト	21	19.4
主婦	27	25.0
無職	33	30.6
無回答	1	0.9
全体	108	100.0



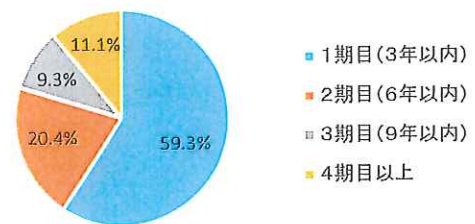
無職（元職）… 会社員11、公務員4、団体職員1、介護員1、栄養士1  
 教員1、銀行員1、富山県職1、保育士2、製造業1

#### ◎ 民生委員・児童委員活動について

#### 5. 現在の任期

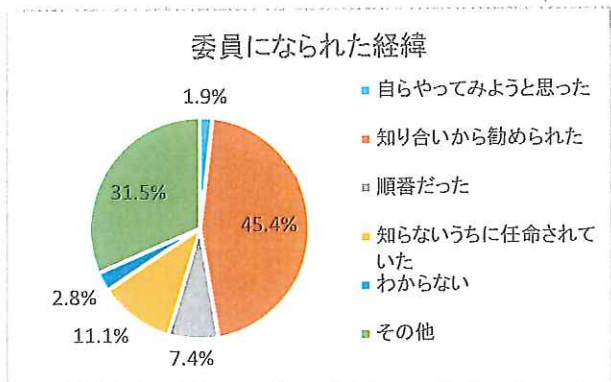
	回答(人)	%
1期目（3年以内）	64	59.3
2期目（6年以内）	22	20.4
3期目（9年以内）	10	9.3
4期目以上	12	11.1
全体	108	100.0

何期目



## 6. 民生委員児童委員になられた経緯

	回答(人)	%
自らやってみようと思った	2	1.9
知り合いから勧められた	49	45.4
順番だった	8	7.4
知らないうちに任命されていた	12	11.1
わからない	3	2.8
その他	34	31.5
全体	108	100.0

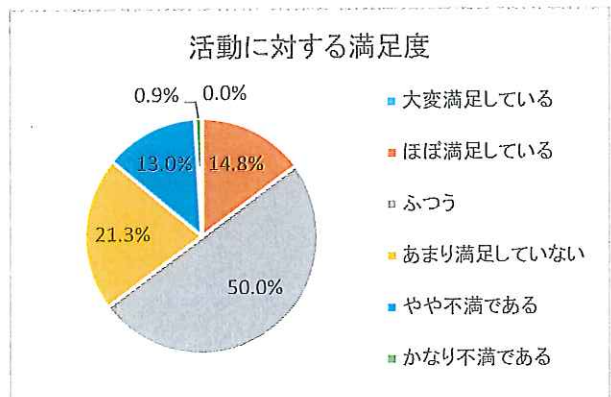


### 【その他】

- ・町内会（町内会長、副会長、前任者）から頼まれた。
- ・振興会（振興会長）から頼まれた。
- ・町内会長から何度もお願いされ断れなかった。
- ・町内から数名で頼みに来られた。
- ・地区の総代さんをお願いされた。
- ・前任者の方が病気になられ、町内会長さんに勧められ承諾せざるを得なくなった。
- ・前任者が急に亡くなられたため
- ・在任中に退任され、突然に依頼された。
- ・選考委員であったがため、先行者がいなくなったので責任をとった結果です。
- ・半強要、強引に頼まれた。
- ・高齢（75才）の為、無理と言ったが、他の方は全員仕事をしているから、名前だけあげさせてと区長さんに言われて、仕方なく。
- ・仕事で地元の方にお世話になったため、少しでも力になれることがあれば、協力したいと思った。

## 7. 民生委員児童委員活動に対する満足度

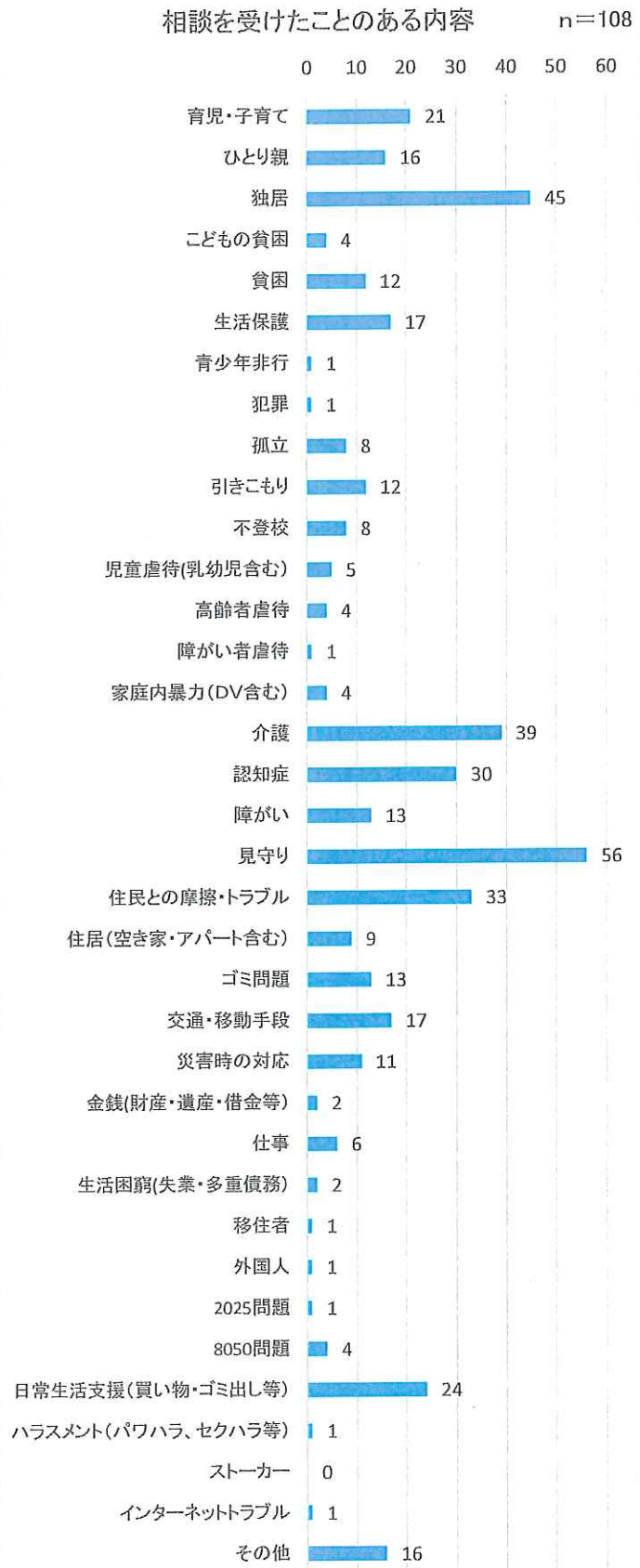
	回答(人)	%
大変満足している	0	0.0
ほぼ満足している	16	14.8
ふつう	54	50.0
あまり満足していない	23	21.3
やや不満である	14	13.0
かなり不満である	1	0.9
全体	108	100.0





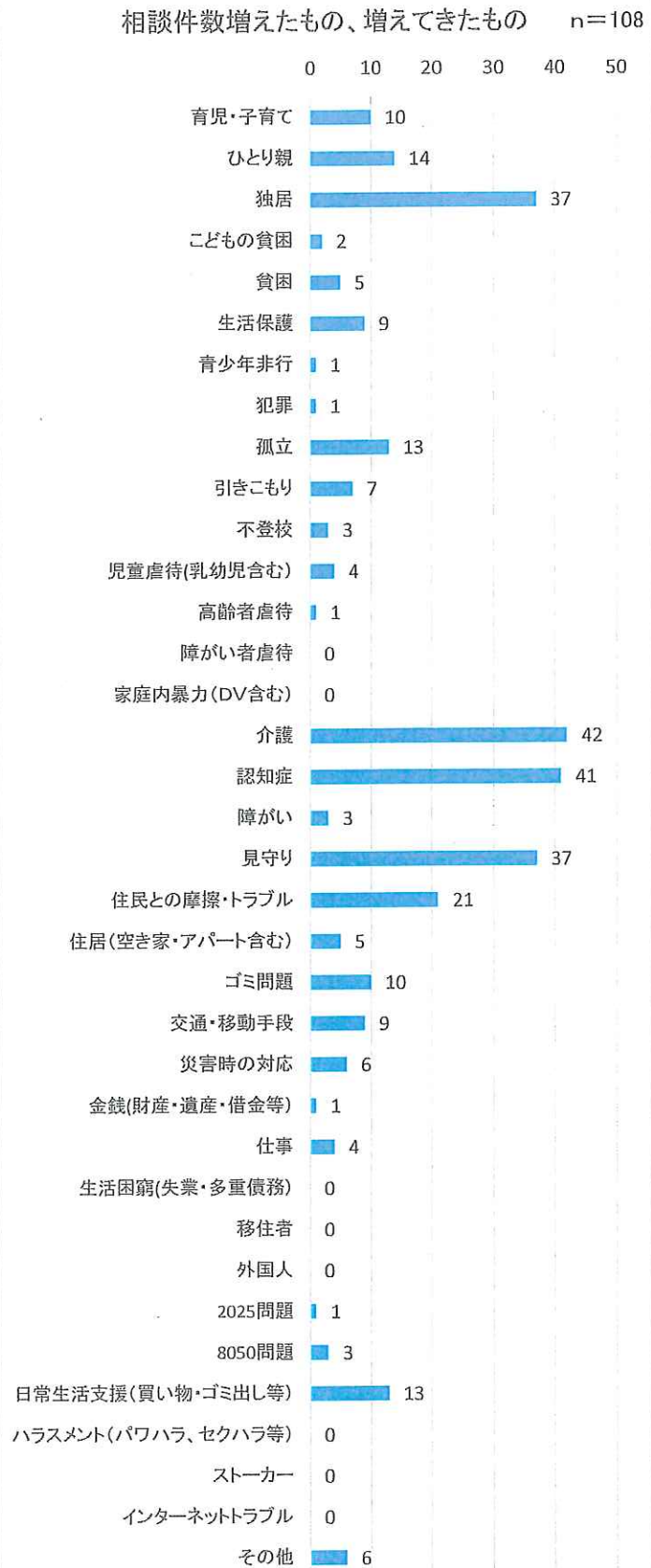
8. 相談を受けたことのある内容（複数回答可）

No.	相談内容	件数
1.	育児・子育て	21
2.	ひとり親	16
3.	独居	45
4.	こどもの貧困	4
5.	貧困	12
6.	生活保護	17
7.	青少年非行	1
8.	犯罪	1
9.	孤立	8
10.	引きこもり	12
11.	不登校	8
12.	児童虐待(乳幼児含む)	5
13.	高齢者虐待	4
14.	障がい者虐待	1
15.	家庭内暴力(DV含む)	4
16.	介護	39
17.	認知症	30
18.	障がい	13
19.	見守り	56
20.	住民との摩擦・トラブル	33
21.	住居(空き家・アパート含む)	9
22.	ゴミ問題	13
23.	交通・移動手段	17
24.	災害時の対応	11
25.	金銭(財産・遺産・借金等)	2
26.	仕事	6
27.	生活困窮(失業・多重債務)	2
28.	移住者	1
29.	外国人	1
30.	2025問題	1
31.	8050問題	4
32.	日常生活支援(買い物・ゴミ出し等)	24
33.	ハラスメント(パワハラ、セクハラ等)	1
34.	ストーカー	0
35.	インターネットトラブル	1
36.	その他	16
	全体	439



9. 近年、相談件数が増えたもの、増えてきたと感じる課題（複数回答可）

No.	相談内容	件数
1.	育児・子育て	10
2.	ひとり親	14
3.	独居	37
4.	こどもの貧困	2
5.	貧困	5
6.	生活保護	9
7.	青少年非行	1
8.	犯罪	1
9.	孤立	13
10.	引きこもり	7
11.	不登校	3
12.	児童虐待(乳幼児含む)	4
13.	高齢者虐待	1
14.	障がい者虐待	0
15.	家庭内暴力(DV含む)	0
16.	介護	42
17.	認知症	41
18.	障がい	3
19.	見守り	37
20.	住民との摩擦・トラブル	21
21.	住居(空き家・アパート含む)	5
22.	ゴミ問題	10
23.	交通・移動手段	9
24.	災害時の対応	6
25.	金銭(財産・遺産・借金等)	1
26.	仕事	4
27.	生活困窮(失業・多重債務)	0
28.	移住者	0
29.	外国人	0
30.	2025問題	1
31.	8050問題	3
32.	日常生活支援(買い物・ゴミ出し等)	13
33.	ハラスメント(パワハラ、セクハラ等)	0
34.	ストーカー	0
35.	インターネットトラブル	0
36.	その他	6
	全体	309





## 8-1 相談を受けたことのある内容

### 【具体的な内容】

- 12. 児童虐待…ネグレスト
- 20. 住民との摩擦・トラブル…近所の方から罵声を浴びストレスを感じる。
- 22. ゴミを出しに行けない
- 25. サラ金問題

### 【その他の相談内容】

- ・除雪、屋根雪おろし
- ・移動時の交通費
- ・救急外来についてきてほしい。
- ・独居老人が骨折、入院を拒み、湿布の交換に通った。
- ・救急車で搬送する事態に2回立ち会う。息子がいるが病院の入退院、施設の入退所に必ず関わらねばならない。
- ・家庭内トラブル
- ・家庭内にて嫁姑との折角が悪く娘さんの両親がアパートに住みたいとの相談を受けた。(保証人等の件で)
- ・黒部川河川敷でケガして倒れていた女性が救急から警察に保護され、住居（アパート）までパトカーで護送され、立ち合いになった。
- ・一人暮らしで近くに息子さん2人がいます。その一人暮らしの親に食事の補助はありませんか。
- ・「心の病の友人からの電話の回数や同じ事を延々と話す先の見えない話にどの様に対応すべきか？」との相談
- ・特に相談を受けたことがない。

## 9-1 相談件数が増えたもの、増えてきたと感じる課題

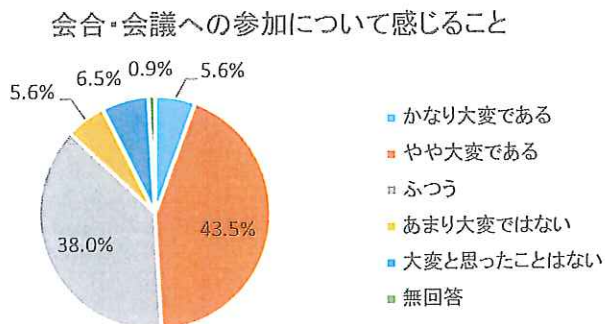
### 【その他】

- ・除雪
- ・高齢者の体調、病気など
- ・高齢者世代の問題
- ・家庭内トラブル
- ・1期目でありまだわからない
- ・特になし

10. 活動について、個人的に感じること

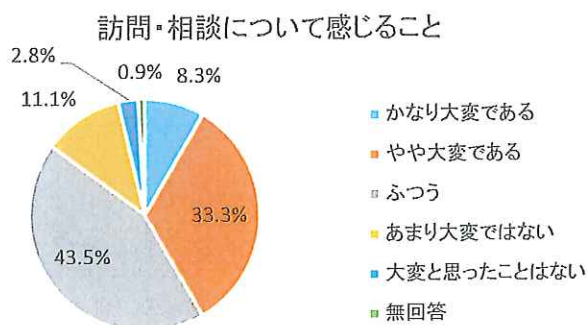
【会合・会議への参加】

	回答(人)	%
かなり大変である	6	5.6
やや大変である	47	43.5
ふつう	41	38.0
あまり大変ではない	6	5.6
大変と思ったことはない	7	6.5
無回答	1	0.9
全体	108	100.0



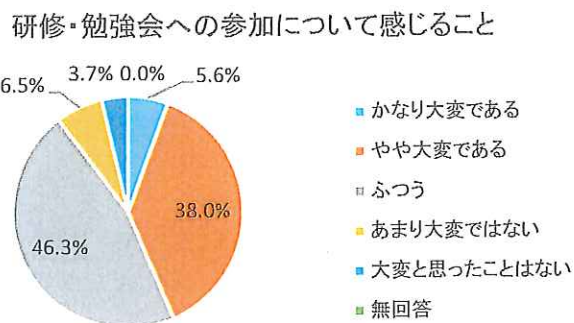
【訪問・相談】

	回答(人)	%
かなり大変である	9	8.3
やや大変である	36	33.3
ふつう	47	43.5
あまり大変ではない	12	11.1
大変と思ったことはない	3	2.8
無回答	1	0.9
全体	108	100.0



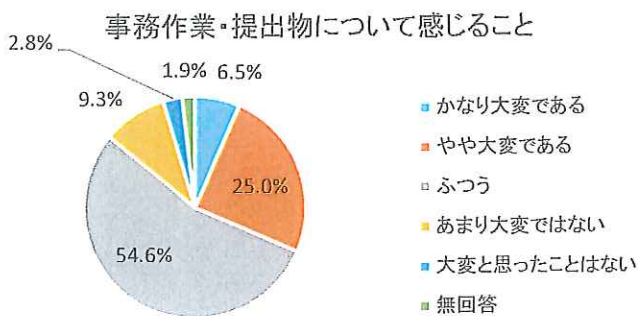
【研修・勉強会】

	回答(人)	%
かなり大変である	6	5.6
やや大変である	41	38.0
ふつう	50	46.3
あまり大変ではない	7	6.5
大変と思ったことはない	4	3.7
無回答	0	0.0
全体	108	100.0



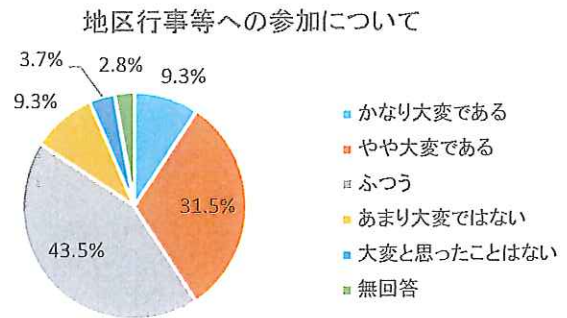
【事務作業・提出物】

	回答(人)	%
かなり大変である	7	6.5
やや大変である	27	25.0
ふつう	59	54.6
あまり大変ではない	10	9.3
大変と思ったことはない	3	2.8
無回答	2	1.9
全体	108	100.0



【地区行事等への参加】

	回答(人)	%
かなり大変である	10	9.3
やや大変である	34	31.5
ふつう	47	43.5
あまり大変ではない	10	9.3
大変と思ったことはない	4	3.7
無回答	3	2.8
全体	108	100.0



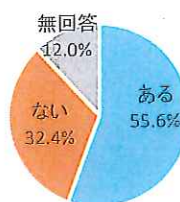
【その他自由記述】

- ・委員になったばかりで活動に関してこれから色々感じると思います。
- ・色んな活動があるが、自分としてできる範囲でやるしかない。それ以上は無理である。
- ・夫の理解があり仕事もしていないので時間のやりくりは自分のところ次第です。
- ・新任委員には最初に導入教育が必至です。富山市等での会議は負担です。
- ・相談されることが少ない。挨拶程度。定例会で依頼されたことをする。時々ひとり高齢者世帯を訪問する程度
- ・法律の変更でいろいろと政令が多く変更される。

## 11. 自身の悩みや不安、課題について

	回答(人)	%
ある	60	55.6
ない	35	32.4
無回答	13	12.0
全体	108	100.0

不安や課題について



### 【不安・課題】

- ・育児子育ての方で応援したいがきっかけがない。
- ・今は与えられたことだけをこなしている現状なので、この先どのような活動をしたらよいのか分からない。
- ・いろんな方がいる中で対応が難しい時がある。
- ・活動内容が良く自分自身理解できていなくて、どう動いていいのかわからず不安である。
- ・活動内容の希薄さに焦りを感じ、もっとやるべきことがあるのではないかと自責の念に駆られている。
- ・くろベネット活動は市全体とすれば同じ方向性に統一されよいことだと思いますが、社協の人の各地区の統一がはっきりしていないように思う。スタートが同じならどの地区も同じことでスタートしたい。（不満になります）
- ・現在、パートの仕事をしているので、研修、行事のたびに休まなければならない。
- ・現在4期目での活動をしていますが、もっと若い世代の人に次期委員になっていただきたい気持ちがあります。私でいいのだろうかと思自問自答しています。
- ・後任がない
- ・高齢者、子供を守るという気迫を振興会、町内会、学校、PTAが連携を密にして民生児童委員とともに守る行動を強化する体制が必要と感ずます。
- ・高齢者が増え（高齢者一人暮らしも）病気で通院がほとんどで（これから不安である）日々気にかかっている。
- ・今後民生委員を継続していくのか、常に心の中で葛藤している。
- ・仕事があると日中（特に平日）の相談事への対応がほとんどできない。
- ・仕事との兼ね合いで活動に参加しにくい面もあるので、心苦しいと感じる面があります。
- ・仕事をしながらの民生委員活動をしていると、必ず相談者の方から「お仕事お忙しいのすみません」と言われます。相談者からいつでも相談しやすい立場ではないのではないかなと思うといつも申し訳なく感じています。
- ・主任児童委員や児童委員の担当する活動がはっきりしていないと感じる。十分な活動でないことが心苦しい。
- ・相談を受ける立場から逆の相談する立場に突然なるのではという心配がある。
- ・大病持ち（心臓病）の為、身体に不安を感じています。
- ・地域での話に町内会長自治会が私の仕事ではない「忙しい」と言う。
- ・地域に困っている人がどこにいるのかわからない。情報が入らない。
- ・力不足で中々地域の中に根をおろせない。
- ・地区住民へのPR不足なのか、何か事が起こると、それは民生委員の仕事だ!!とか民生委員は何しとる!!の批判が出る。そうすると委員の活動に自信が持てなくなる。

- ・町内で困っている方の把握、町内役員との情報共有、引きこもり（中年）へのアプローチができない。災害時、自分がまず何をするのか、他の民生委員が具体的にどんな活動をしているのか、相談があるのか事例を聞きたい。
- ・町内に認知症の方が増え、かかえきれません。
- ・勤めながらのことなので仕事に支障がないようにと思うと、研修などそんなに参加できない。
- ・なかなか担当地区全体のことを把握できない。他人の家庭内のことまで聞くのは苦手。情報収集もあまりできない。
- ・年配者の訪問については留守も多く何回も足を運ぶこと、活動時間が十分とはいえない。自分では、満足できる活動とは言えない。心苦しい思いがあります。
- ・ひきこもりの過程にどのように声かけすればよいか
- ・一人暮らしの方々を訪問し、お話近況を伺っていますが、これで良いのかな？と時々思います。近況を伺いながら私に出来ること、もっとしてあげられることは何でしょうか？
- ・放課後児童クラブへの関わりが非常に大きく占めていることに対して、普通に8時間労働している私にとってはかなり負担である。
- ・本当に役に立っているのか不安である。一人暮らし高齢者とのかかわり方、どこまで踏み込めばいいのか疑問である。
- ・民生委員として他人の家庭との関わり方が難しいと思う。
- ・民生委員に求められるものが個人に依って違っているので、個別対応の難しさを常々感じている。
- ・住居の境界線についての相談は、昔からの経過など、分からなく困った。
- ・若い世代に活躍してもらいたいが、会合への参加、事務作業等が多く、仕事との両立は大変だと思われる。
- ・分からないことがあるが、社協、市役所に伝え連携して市民のニーズに応えていきたい。
- ・知識のない点は社協や包括支援センターに聞いている。
- ・顔を知らないので訪問しても相手にしてもらえない時がある。



## 12. ありたい形(理想)と想定(将来)でギャップを感じること

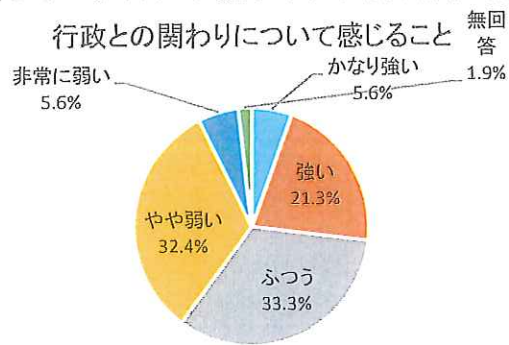
- ・あまりにもやることが多いため、今後、民生委員活動に参加される方はいかなもののでしょうか。
- ・活動の内容が曖昧で何をしたらいいかわからない。活動の具体例を教えてください。
- ・活動への理解を深めたいが、認知度が低くなかなか理解を得られない。
- ・具体的な日常活動が確立されていないので、行動計画がたてにくい。
- ・行政と地域と民生委員が三位一体となった活動をしたいが、まだまだ道のりは遠く、個人の力の限界を感じる。
- ・研修会等、平日で若い人が民生委員にはなりずらいと思います。活動記録の記入が面倒
- ・権利と義務、皆さん理解して欲しい。
- ・高齢になるにつれ活動が負担。若い世代に期待したい。
- ・個人情報保護ということで、細かい情報が共有できない、やりにくい。
- ・相談や要請がない時に何をすればよいのか迷う
- ・主任児童委員として、普段、活動のほとんどが放課後児童クラブに関してになっており、子供達の家状況(母子家庭、ネグレスト等)調査や支援が漏れなく出来ていないのではと感じる時があります。
- ・情報入手などどこからしたらいいかわからないままで、役に立てることがあれば活動したいが、タイミングがわからない。認知度も低く、相談されるほど理解されていないと思う。
- ・大事な活動だが自分に余裕ゆとりがないと地域の中に積極的に入って活動することができない。
- ・新任の委員に2~3期と頑張ってもらいたいですが、地区によっては順番制があり1期で終わる人が多い。また、無理押しすると手不足になりかねない。
- ・地区で子供と高齢者とのふれあいを企画してみたいが子供が一人もいない(小学生3人のみ)
- ・地区の情報(特に子供達)が入手できない為、どのように活動して良いかわからない。
- ・地区ごとの情報がなく、地区ごとの会合を実施して頂く。情報提供をお願いし、地区役員と委員が協力して活動を行う必要性を感じる。民生児童委員活動に関心である。地区体制の充実をお願いします。
- ・一人暮らしだが、近所に息子や娘がいるので、どこまで関わってよいか難しい。
- ・不登校の子供と悩んでいる保護者がいても、専門職知識がなく力になりたいが対応ができない。
- ・役割を果たしたいが、実績がないので期待されない。
- ・若い委員(次回の新人)にお願いしようと思っても仕事をしているのでとってお断りされる。
- ・民生委員の年齢が高い。若い人が民生委員になっても仕事があると時間をとることができない。このジレンマ…本当は若い人に参加して欲しい。
- ・若い世代に活躍してもらいたいですが、人材不足で若い委員が増えない。(日中、働いている為、日中の行事に参加してもらえない)
- ・若い人たちに活動してもらいたいですが仕事や育児で時間的に難しいように思う。

◎ 外部との関わりについて

13. 行政・地区・専門機関・社協との関わりについて

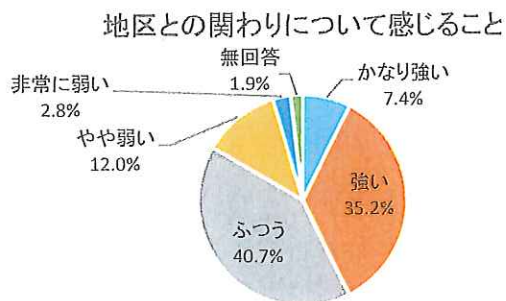
【行政との関わり】

	回答(人)	%
かなり強い	6	5.6
強い	23	21.3
ふつう	36	33.3
やや弱い	35	32.4
非常に弱い	6	5.6
無回答	2	1.9
全体	108	100.0



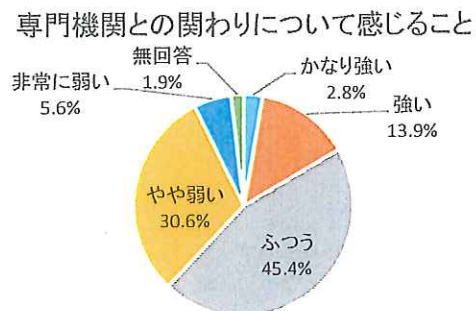
【地区との関わり】

	回答(人)	%
かなり強い	8	7.4
強い	38	35.2
ふつう	44	40.7
やや弱い	13	12.0
非常に弱い	3	2.8
無回答	2	1.9
全体	108	100.0



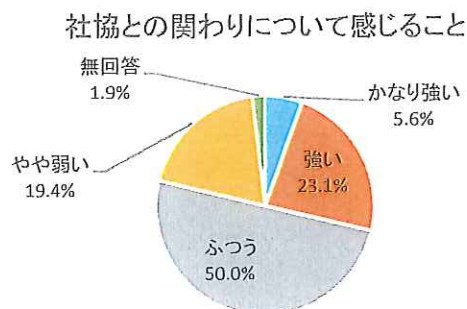
【専門機関との関わり】

	回答(人)	%
かなり強い	3	2.8
強い	15	13.9
ふつう	49	45.4
やや弱い	33	30.6
非常に弱い	6	5.6
無回答	2	1.9
全体	108	100.0



【社協との関わり】

	回答(人)	%
かなり強い	6	5.6
強い	25	23.1
ふつう	54	50.0
やや弱い	21	19.4
非常に弱い	0	0.0
無回答	2	1.9
全体	108	100.0



◎ 福祉について（個人としてお答えください）

14. 『福祉』という言葉のイメージ

幸せ

幸せ（2名）

幸せな暮らし（2名）

幸せに暮らすとか困った人々に手を差しのべる

個々の人が幸せと感じる暮らしができる

市民が幸せな暮らしが出来る事

ふだんの暮らしをシェアにすること

最低限の幸福と社会的援助

満ちた幸福感

住民誰もが幸せに暮らすこと

誰もが幸せな暮らしで近隣とのつながりを作ることで災害等にも力になること

支える・助ける

助け合い

助け合い、支え合う、豊かな暮らし

自助、共助、公助、孤立させない

困っている人に手を差しのべる

補助

弱者の方へのサポート

気軽に相談し合える、相談を聞いてあげられる

心の隙間に入っていける温かい心を伝える

その人らしく穏やかにその地区で暮らしていけること（平穏無事に生活できること）

地域でお互いに共に支え合い、地域は自分たちで守っていく、一人一人が関心を持ってもらいたい。

日頃から声をかけたりなど関わりを結び気にかけて合う。災害時に協力し合える関係

1人1人が単独で行う事ではなく、地域全体で共同して行う事である

安心・安全

100%満足できなくても心安らかに生活できる毎日

安心、安全な暮らし

安心して暮らしていける社会のしくみ

安心できる生活

安心と安全

誰もが住み慣れた地域で安心安全に暮らしていくこと

誰もが平等に安心して暮らせる生活



やさしい・思いやり

思いやり

人と楽しく思いやりをもって地域で生きる

人と人をつなぐ信頼とおもいやり

身近にいる人への手助け、思いやり

できる人ができない人を思いやる心

弱者にやさしい、生活しやすい環境作り

寄り添う心

社会

孤立のない生活

社会奉仕に尽きます

人として最低限の生活ができる事（してあげる事）

その他

「福祉」事業が「いま一」

活動範囲が広く、一言で言い表せないように思う

範囲が広く、高齢者の立場では心豊かな暮らし

一言では言えない

満足感の充実

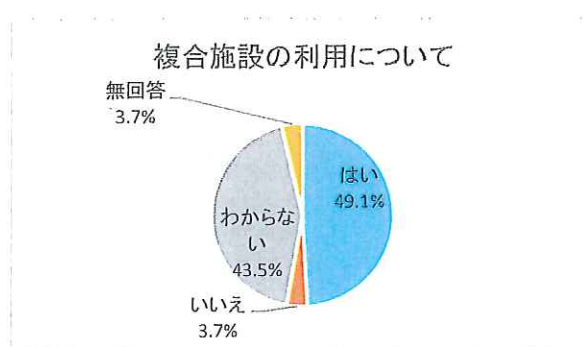
身近なものではないと思う

大きすぎてとらえどころがないようにも感ずる

◎ 福祉の複合施設について（個人としてお答えください）

15. 複合施設ができたなら利用するか

	回答(人)	%
はい	53	49.1
いいえ	4	3.7
わからない	47	43.5
無回答	4	3.7
全体	108	100.0



【具体的な理由】

①はいと答えた方

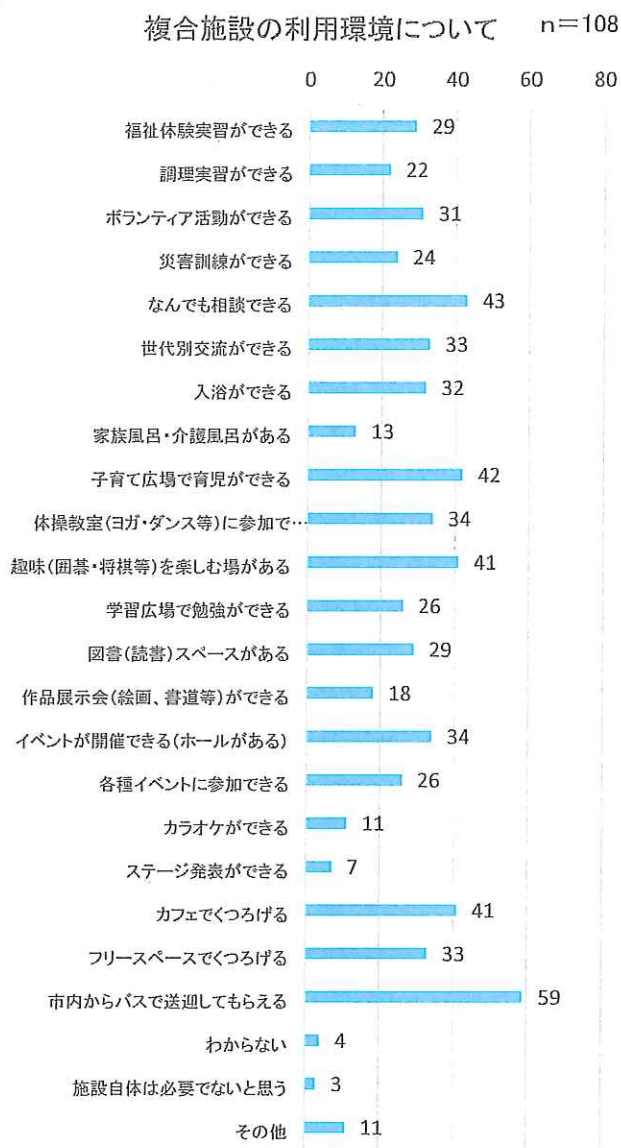
- ・高齢者が集まり楽しいひと時を過ごせる場所
- ・自分でできることを見つけたい
- ・体操などに参加してみたい
- ・もう少し年を重ねたら利用するかもしれない
- ・目的と内容が合えば

③わからないと答えた方

- ・各地区にできれば利用するかも知れませんが黒部市としてとなるとそこまで行く交通手段等考えるし、近隣者がいないとなると学びに不安があります。

16. 複合施設の利用環境について（複数回答可）

No.		回答数
1.	福祉体験実習ができる	29
2.	調理実習ができる	22
3.	ボランティア活動ができる	31
4.	災害訓練ができる	24
5.	なんでも相談できる	43
6.	世代別交流ができる	33
7.	入浴ができる	32
8.	家族風呂・介護風呂がある	13
9.	子育て広場で育児ができる	42
10.	体操教室（ヨガ・ダンス等）に参加できる	34
11.	趣味（囲碁・将棋等）を楽しむ場がある	41
12.	学習広場で勉強ができる	26
13.	図書（読書）スペースがある	29
14.	作品展示会（絵画、書道等）ができる	18
15.	イベントが開催できる（ホールがある）	34
16.	各種イベントに参加できる	26
17.	カラオケができる	11
18.	ステージ発表ができる	7
19.	カフェでくつろげる	41
20.	フリースペースでくつろげる	33
21.	市内からバスで送迎してもらえる	59
22.	わからない	4
23.	施設自体は必要でないと思う	3
24.	その他	11



【その他】

- ・今ある施設を活用すればよいと思う
- ・映画が観れる
- ・買い物ができる
- ・情報根幹によって人間性を豊かにし、絆を深めることができればありがたい
- ・フリーマーケット（定期的）

## 17. 黒部市社会福祉協議会に対する意見及び質問（自由記述）

- ・各種団体の連携がスムーズになるようサポートをよろしくお願いします。
- ・具体的にはまだ不慣れのため分かりません
- ・くろベネットはスタートからつまづいている。もっと練りこんだうえでの運営方法を公表すべきであった。現場は困惑している。
- ・高齢化社会の現在、社協は人を増やし、住民の希望に少しでも答えられるよう頑張ってもらいたい。
- ・市との連携をしっかりとってほしい
- ・市ともっと仲良くなってほしい。（パイプの太さという意で）
- ・住みよく安心して生活できるまちづくりに尽力していただきたい。委員としても協力して築いていけたらと思う。
- ・複合施設があっても、そこに行ける人は問題ないと思います。家から出たがらない人、出れない人を何とかしなければと思います。
- ・毎月の福祉くろべがおもしろく、興味深いです。作成担当の方ありがとうございます。
- ・三日市でも買い物困難を感じている人は多いのでは？足が悪くタクシーを利用したり、高齢でも運転免許を返納してなかったり、気軽に利用できる交通ツールがあればいいと思う。
- ・民生委員からあげたことに社協は各地区にもっと足を運んで現状を把握してもらいたい。現状は社協より各地区に丸投げしているだけの様に思います。各資料も以前調査したものはそのまま残っていたり、どの資料が正しいのか分かりづらい。くろベネットに統一した意味がなくなっているように思います。将来は〇〇になってほしいではなく、スタート時点で各地区が同じレベルでスタートしてほしいです。
- ・リーダーシップを今以上に発揮してほしい。

「福祉に関わるボランティア登録団体アンケート」  
調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



## 1 調査目的

黒部市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指し、黒部市の福祉環境の充実、向上に向けた「第3次地域福祉活動計画」を策定するため、各年代層やさまざまな立場の方々の意見・提案をいただいているが、本調査については黒部市内のボランティア登録団体を対象に、地域生活や地域との関わり、福祉の充実などに対する意見を調査し、将来の地域づくりの参考とすることを目的としている。

## 2 調査対象

黒部市内ボランティア登録団体 60 団体 ※別紙ボランティア団体一覧参照

## 3 調査期間

平成 30 年 7 月 20 日～平成 30 年 8 月 2 日

## 4 調査内容

アンケートの内容については、第 1 回ボランティア連絡会時に実施した「第 3 次黒部市地域福祉活動計画策定に向けてのワークショップ」の結果を基に作成

## 5 調査方法

第 1 回ボランティア連絡会(6 月 13 日)開催時に、参加団体代表者に依頼し、対象となるボランティア団体に送付し、回答してもらう。

## 6 回収結果

今回のアンケート調査では、ボランティア登録団体 60 団体中 38 団体より回答を得ることができた。

対象団体数	回答数	有効回答率
60 団体	38 団体	63.3%

## 7 調査結果まとめ

<団体活動について>

### 1. 活動エリア

市内全域で活動団体している団体が最も多く、その他、大布施地区、三日市地区で活動している団体が多かった。また、市内のみならず、県内外で活動している団体もみられた。

### 2. 自団体の悩みや不安、課題

「かなりある」が 26.3%、「少しある」が 52.6%、「あまりない」が 21.1%であった。団体の 8 割が悩みや不安、課題を抱えていることがわかった。

### 3. 課題となっていること

2年前(平成28年)に実施した地域福祉推進の拠点のあり方について調査から見てきた地域課題を基に、「人」、「物」、「金」に分類し、悩みや不安、課題を聞いたが、最も回答が多かったのは、人に関することであった。

【人に関すること】については、会員の高齢化、若い会員の不足、新規会員が増えないという悩みが多く、【場・しくみ・拠点に関すること】については、活動への理解を求める声や活動がマンネリ化しているという声が多かった。【資金・資源に関すること】については、財源や補助金の不足、会員不足による会費不足に関する悩みや、中には、補助金申請ができない団体や補助金をもらわずに活動している団体もあった。

### 4. ありたい形(理想)と想定(将来)でギャップを感じること

問3と同じく、人、場、資金、その他と大きく4つに分類することができ、問3の課題と同じく、【人】の問題が多く上がった。「若い世代の活躍に期待しているが、どのように会員を増やしていけばいいのか」、【場・しくみ・拠点】の問題に関しては、「活動を活発にしていきたいが、そのためのしくみづくりがわからない」、「活動への縛りがあり、活動しにくい」、「活動場所に限りがあり、活動が広がらない」等、ありたい形(理想)とのギャップを感じていることがわかった。

### 5. 自団体の良いところ

問3や問4で、課題が色々ある中で、自団体の良いところを問かけると、その内容は様々であったが、回答を得た38団体すべてが良いところがあると答えていた。内容としては、「皆協力的」、「皆仲良し」、「連帯感やチームワークある」、「地域との関わりがもてる」ことを多くの団体が良いところとしていた。

### 6. 自身にとって活動していて良いこと

問5と同じく、38団体すべての代表者が、活動していて良いことがあると答えていた。中でも最も多かったのは、「いろんな人と出会うことができる」が7割、その他、5割近くの方が、「いろんな経験ができる」、「学べる」、「視野がひろがる」、「感謝されてうれしい」ことが良いこととしていた。

### 7. 活動に対する満足度

「ほぼ満足」が71.1%と最も多く、「大変満足」が13.2%、「ふつう」が10.5%、「あまり満足していない」が5.3%で、「やや不満」、「かなり不満」としている活動者はいなかった。活動に対する満足度は非常に高いと感じた。

<将来について>

### 8. 5年後の1番の課題

全体の5割が「人」の問題が1番の課題と捉えていた。また、「3つすべて」、「1つ

には絞れない」という回答も 3 割あった。

#### 9. 自身の 5 年後の活動状況について

「是非続けたい」が 18.4%、「健康であれば続けたい」が 55.3%、「会が存続していれば続けたい」が 7.9%と、全体の 8 割が現活動を続けていきたいとしていた。

#### 10. 自団体の 5 年後のありたい姿について

「若い世代が育ち活躍している」が全体の 5 割、「会員が増え活動が活性化している」が 4 割と、人の課題・問題が解決していることがありたい姿として求められていることがわかった。その他、「現状維持できている」と回答も全体の 4 割あった。

<福祉について>

#### 11. 福祉に対する興味について

「興味がある」が 36.8%、「やや興味がある」が 47.4%、「あまり興味がない」が 7.9%であった。

#### 12. 『福祉』という言葉のイメージ

福祉という言葉のイメージは、一人ひとり様々であったが、いくつかの共通項目があり、その用語をキーワードとし、集約した。

キーワードとして、「幸せ」、「やさしい・思いやり」、「支える・助ける」、「安心」、というイメージを意味する内容が多くあった。

<福祉の複合施設について>

#### 13. 福祉の複合施設の利用について

利用したいかの問いに対して、「はい」が 60.5%、「いいえ」が 2.6%、「わからない」が 31.6%であった。

#### 14. 複合施設の利用環境について

利用環境として求められる機能に大きな偏りはなく、どの機能も満遍なく回答が得られた。回答数に大きな差はないが、上位項目を上げるとすると「相談」、「子育て広場」、「バス送迎」、「体操教室」といった気軽にいける施設環境が求められていることがわかった。

その他、施設自体必要ない、市内の現状の施設で十分、維持困難という意見もあった。

#### 15. 黒部市社協に対する意見

地区行事の見直し、企業との連携強化、手話に触れる仕掛け、役員が学べる企画提案、役割・ネットワーク関係の整理を求める意見等があった。



○アンケート送付ボランティア団体一覧

No.	団体・グループ名	No.	団体・グループ名
1	生地地区ボランティア部会	31	桜扇会
2	石田地区ボランティア部会	32	ほのぼのひばり野の会
3	田家地区ボランティア部会	33	わいわいクロベ
4	村椿地区ボランティア部会	34	阿古屋野森づくりクラブ
5	大布施地区ボランティア部会	35	宇奈月赤十字奉仕団
6	三日市地区ボランティア部会	36	黒部市石田赤十字奉仕団
7	前沢地区ボランティア部会	37	宇奈月町カラオケ同好会
8	荻生地区ボランティア部会	38	高山舞踊研究会
9	若栗地区ボランティア部会	39	黒部リーディンググループ
10	東布施地区ボランティア部会	40	黒部手話サークルひまわりの会
11	(社) 黒部青年会議所	41	黒部民謡清韻会
12	NPO法人 黒部まちづくり協議会	42	黒部名水そば打ち研究会
13	YKK黒部労働組合ボランティアグループ	43	三日市まち歩きボランティアの会
14	おらはうす宇奈月	44	小扇会
15	メンタルヘルスサポーター 富山県新川厚生センター	45	松永グループ
16	越之湖ボランティア	46	松乃会くろべ
17	関西電力株式会社黒部川水力センター	47	日本語教室 in 黒部
18	黒部市食生活改善推進協議会	48	緑のミニコンサート
19	黒部市保育士会	49	こぶしカラオケ愛好会
20	黒部市姉妹都市事業推進委員会	50	大開町内婦人部
21	富山県立桜井高等学校ボランティア委員会	51	つくしの会
22	黒部市立図書館読み聞かせボランティア	52	黒部市更生保護女性会
23	アイ福祉サポート(株)	53	黒部市女性消防協力会
24	特定非営利活動法人 宇奈月自立塾	54	なんでもや一楽団
25	黒部峡谷ナチュラリスト研究会	55	宇奈月町手話サークルトロッコの会
26	青いばらサークル	56	富山県パーキンソン病友の会 はるみの会
27	おもちゃ病院 ピノキオ	57	古御堂生き生きサークル
28	さくらえパトロール隊	58	鈴の会
29	スコーレ収集ボランティア	59	ボランティアサポーター (個人)
30	はーとぽっぽ	60	ボランティアサポーター (個人)
計60団体			

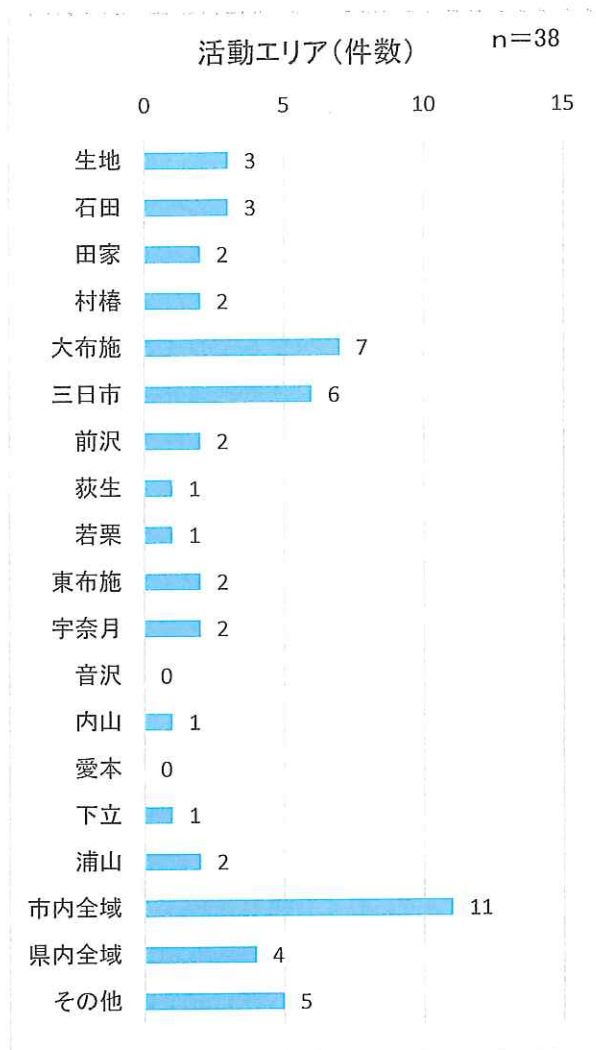
# アンケート結果報告書

調査依頼団体総数…60団体 回収枚数…38枚 回収率…63.3%

◎ 団体活動について

1. 活動エリア (複数回答可)

	件数
生地	3
石田	3
田家	2
村椿	2
大布施	7
三日市	6
前沢	2
荻生	1
若栗	1
東布施	2
宇奈月	2
音沢	0
内山	1
愛本	0
下立	1
浦山	2
市内全域	11
県内全域	4
その他	5



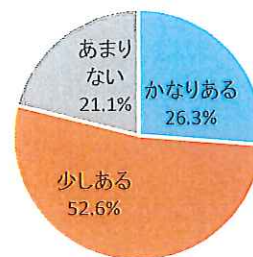
【その他】

- ・ 魚津、上市
- ・ 旧宇奈月町
- ・ 県東部主に新川広域
- ・ 福祉施設 (おらはうす宇奈月、新川むつみ園、越野荘)
- ・ 岐阜県 (飛越の森植樹に参加)

2. 自団体の悩みや不安、課題

	回答数	%
かなりある	10	26.3
少しある	20	52.6
あまりない	8	21.1
全くない	0	0.0
わからない	0	0.0
全体	38	100.0

自団体の悩みや不安、課題



### 3. 課題となっていること（複数回答可）

#### 【人に関すること】

	回答数
会員が高齢化している	21
若い会員が不足している	11
男性会員が少ない（いない）	7
新規会員が増えない	12
若い会員が増えない	5
役員になる人がいない	9
事務担当者がいない	3
企画者がいない	0
年齢層に偏りがある	0
自主的な参加者が少ない（いない）	6
全体	74

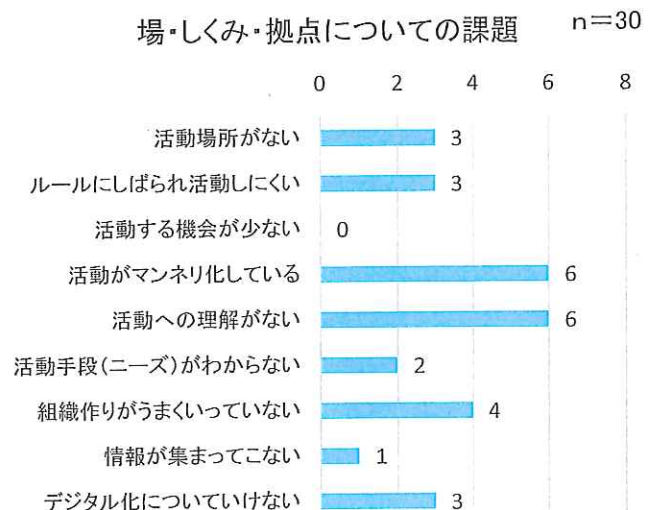


#### ◎その他自由記述

- ・会長の交代が出来ない。役員の高齢化が、若い人は嫌がる。
- ・後継者がいない。
- ・必要な人材を準備するのに苦労する。（特に保育担当）
- ・高齢・病気などで脱会する会員がボツボツ出てきている。
- ・事務担当補助者がいない。
- ・人数については、各町内にて調整するため、大きな問題はなし
- ・一部のろう者に独特の世界がある様で、明るいサークル活動に悪影響を及ぼしている。
- ・地区内の振興会等の役員と社協の役員が重なりが多くなり義務的になりつつある。自由にボランティア活動をしようとする人が入りにくくなり、広がりが望めない。
- ・連絡網がうまく活用されていない。

#### 【場・しくみ・拠点に関すること】

	回答数
活動場所がない	3
ルールにしばられ活動しにくい	3
活動する機会が少ない	0
活動がマンネリ化している	6
活動への理解がない	6
活動手段（ニーズ）がわからない	2
組織作りがうまくいっていない	4
情報が集まってこない	1
デジタル化についていけない	3
全体	28

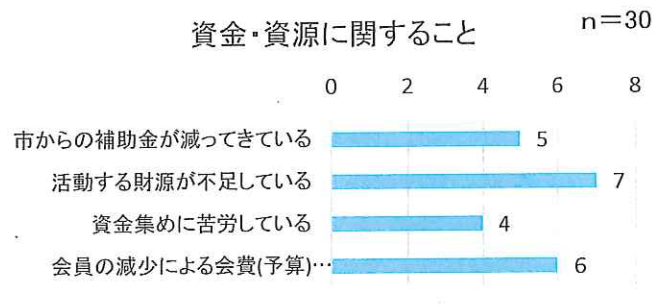


◎その他自由記述

- ・色々ある場がわからない。
- ・活動が多すぎて、ガソリン代、クリーニング代等、いろいろな費用がかかっています。又、会員も少なくなり悩んでいます。
- ・活動するにあたり、多数の教材があるがそれを保存する場がない。
- ・活動に参加したいが、専門知識がないのでという声が聞く。
- ・活動場所の地区公民館が老朽化している。冷房設備、クーラーがない。備品も少ない。
- ・活動への参加はパーフェクトだが、組織的に確立が足りないように思う。
- ・日本食生活県食生活改、県農林水産課の事業のしびりが厳しくやりづらい。
- ・保健センターの取り壊しに伴い、台所がなくなり、会員が一同に研修を受けられない為、同じ研修を2度しています。
- ・現状は、かなり上手に運営していると思います。
- ・作業マニュアル通り実施
- ・ほぼよし

【資金・資源に関すること】

	回答数
市からの補助金が減ってきている	5
活動する財源が不足している	7
資金集めに苦労している	4
会員の減少による会費(予算)不足	6
全体	22



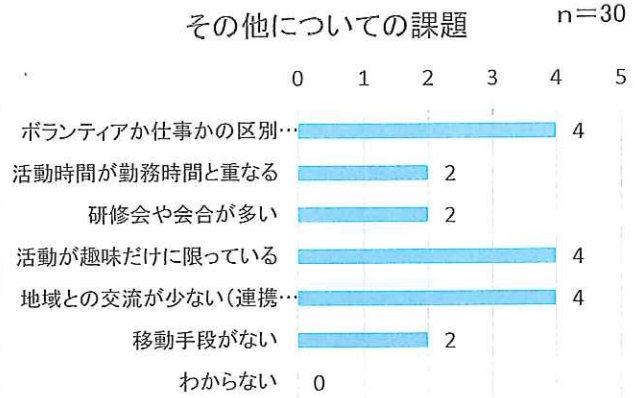
◎その他自由記述

- ・今まで（会員が多い時）のように、講師への謝礼などできにくい。
- ・カウベルト事業に対する補助金が年々減少している。
- ・カウベルト事業の維持、更新費用（電気柵のクイ、電線の更新、バッテリーの維持など）
- ・刈払機の刃の更新、燃料費など
- ・市からの補助金などもらっていません。ほとんどボランティアです。
- ・自主活動の資金もわずかですが、自分達（イベントに出店して）の収入としている。
- ・事務局がない為、補助金の手続きができない。
- ・諸行事は極力会員負担で行っている。新川圏内サークルでは、年会費は高い方であるが…。
- ・地区社協から補助があるのでその範囲内で
- ・会費が1,000円upした。



【その他】

	回答数
ボランティアか仕事かの区別がつかない	4
活動時間が勤務時間と重なる	2
研修会や会合が多い	2
活動が趣味だけに限っている	4
地域との交流が少ない(連携不足)	4
移動手段がない	2
わからない	0
全体	18



◎その他自由記述

- ・ある程度の専門的知識も必要となり、研修会が開催したいが、なかなかできない。(様々な要因による)
- ・活動内容をどう地域の方々に知ってもらったらよいか分からない。
- ・近辺へ出かける時、送迎を頼める所は良いがその他は役員の車を使う事がある。
- ・すべてボランティアと割り切っているが、心身ともに負担が多すぎ、金銭面も同じく
- ・地域ではボランティアグループの認知度もあり、振興会との連携もとれている。
- ・何事も費用は自己負担です。
- ・ろう者・聴者の交流を深め、手話やろう者理解を黒部地域に広げていく努力はしている。
- ・私達の今の活動時間と仕事を持っている人の活動出来る時間が合わない。
- ・公民館の主事、副主事が役員となり、仕事としてなのかボランティアとしてなのかの区別がはっきりしない。

4. 自団体のありたい形(理想)と想定(将来)でギャップを感じるのはどのようなことですか。

【人】の問題

- ・若い会員が少ない。
- ・若い世代に活躍してもらいたいが、なかなか会員が増えない。
- ・若い世代に活躍してもらいたいが人材不足で若い会員が増えない。
- ・若い世代にボランティア等一緒に活動したいが、大学や専門学校なども近くになく協力ができない。
- ・若い世代の会員を増やしたいが、活動の内容が伝わりにくく、今後の課題と考える。
- ・定年延長等で働く人が増え、若い世代の会員増が難しい。
- ・会員の確保が難しい。どのように引き込むか課題
- ・現会員には、活動に理解は得ているが、新規会員がなかなか増えない。
- ・男性とのバランスをとりたいが、現在は女性参加者のみのため、新しい男性が入ってもなじみず離れていく。
- ・30～50歳代の方に、地域におけるボランティア団体の活動内容を理解してもらい、もっともっと参加してもらいたい。しかし、若い世代と今現在の会員との間で可能な活動日時等が合わず、よって、名前だけの会員になってしまう恐れがある。
- ・60代の男性等、地区にはかなりおられるが、役員加入は現在では無理

・地区内の60代の人に会に入ってくれるよう勧めても、入会してもらえない。町内会からも支援、PRして欲しいと思うが、会員増加は難しい。介護予防活動活性化は地域全体の問題、段々個人主義化して困難である。

・地域からの要望（ボランティアを含めた若い人の参加）には極力答えたいが、それを希望する生徒が部活動等が忙しく少ないのが悩みです。

・演芸ボランティアで踊りの衣装など変えて、演芸種目も増やしたいが、人員不足になってきて、今までのようににぎやかなものが演じられない。

・グループを団体にしたいが、代表に就きたい者がいないため、団体にできない。

・保育の質の向上を願うが、部会員の年齢が若く経験が少ないため、うまくいかない部分が多い。

### 【場・しくみ・拠点】の問題

・会社として福祉活動を行うことによって、個人々人としての活動の必要性を感じていただき、個人参加のボランティアに積極的に参加する思いを育みたいと考えているが、難しい。

・活動の内容によっては、本来、行政など公的機関がすべきものもあるので、ボランティアの域を越えているような感じもあり、心身共に疲弊しやすい。

・活動への理解を深めたいが、高齢のため、活動が活性化しない。

・ただ介護予防の為の集会場での活動など無償ボランティアだけに頼るような計画は無理と思う。

・旧宇奈月町と合併した時は各地にあった食改ですが、今あるのは下立のみになり、地区活動が出来ない為、役員が交代で宇奈月町の各地区へ教室の手伝いに行っている。

・自分達で決めた事（活動）をすぐやりたくても消防団という大きな組織の中の1分団なので、階段をふまないと活動出来ない。

・引きこもりや困窮状態にある方々の情報を少しでも集めたいが、個人情報保護の問題等で支援までなかなか結びつかない。活動内容を様々な方に知ってもらいたいが、広報が得意なスタッフがいないので、近隣の認知が進まない。

・然し、不満分子に理解を得る事の困難が立ちはだかる。

・保育の出前を行っていきだが、活動場所が限られていて広がらない。

### 【資金・資源】の問題

・会費で運営費を賄っている事と公益事業のルールがある為、資金的に苦しい。

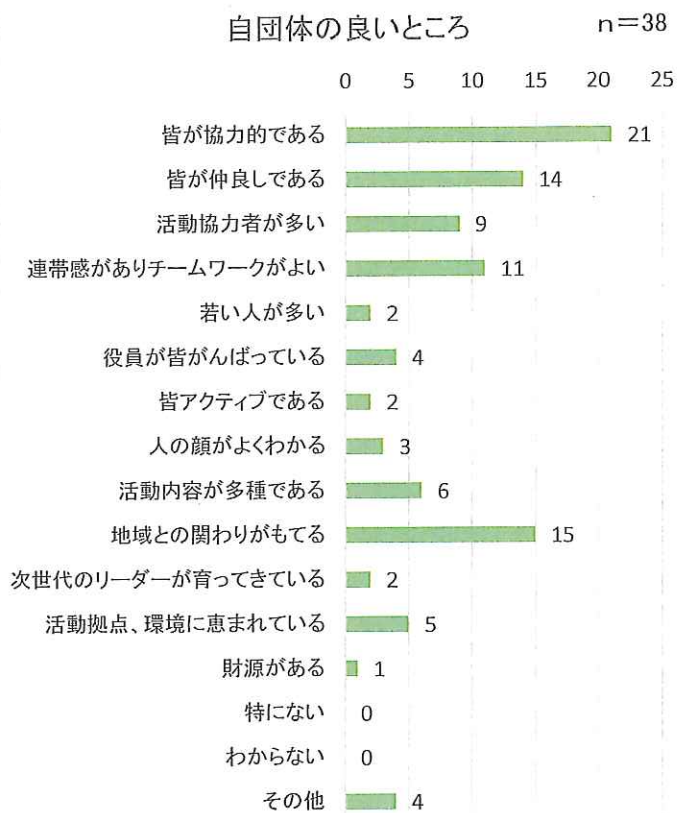
### 【その他】

・活動の活性化に努力している事は自信をもって言える。

・活動の目的は、犯罪のない明るい社会を目指して行う活動なので、年齢にはあまりこだわりがなく考えています。

## 5. 自団体の良いところ（3つまで）

	回答数
皆が協力的である	21
皆が仲良しである	14
活動協力者が多い	9
連帯感がありチームワークがよい	11
若い人が多い	2
役員が皆がんばっている	4
皆アクティブである	2
人の顔がよくわかる	3
活動内容が多種である	6
地域との関わりがもてる	15
次世代のリーダーが育ってきている	2
活動拠点、環境に恵まれている	5
財源がある	1
特にない	0
わからない	0
その他	4
全体	99

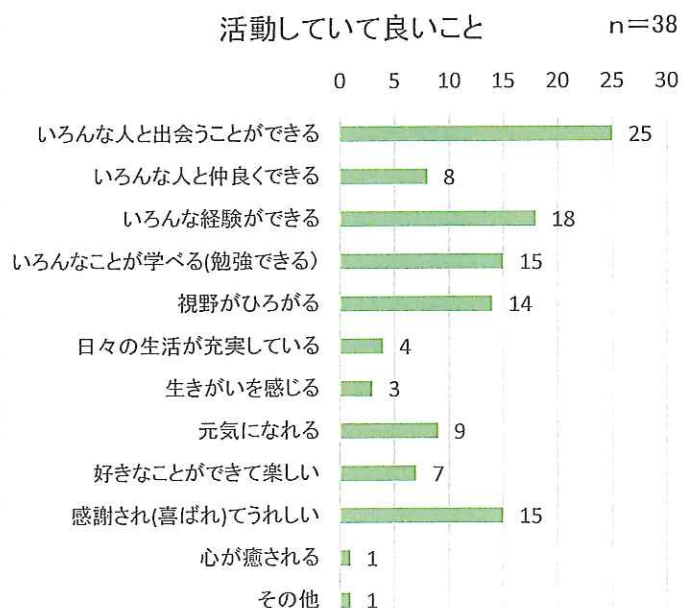


### 【その他】

- ・会長を中心に良い雰囲気である。問3.4については今後とも正義を持って対応していきたい。
- ・参加者の絆や連携が強くなり、笑顔や話が多く仲良くなり、お互い地区を気遣うようになった。
- ・介護予防に役立っている。
- ・町内会の行事も提案し、合同参加で交流を深めるようにしている。
- ・少人数で和気あいあいとしている。
- ・利用者に喜ばれている。

## 6. 自身にとって活動していて良いこと（3つまで）

	回答数
いろんな人と出会うことができる	25
いろんな人と仲良くできる	8
いろんな経験ができる	18
いろんなことが学べる(勉強できる)	15
視野がひろがる	14
日々の生活が充実している	4
生きがいを感じる	3
元気になれる	9
好きなことができて楽しい	7
感謝され(喜ばれ)てうれしい	15
心が癒される	1
その他	1
全体	120



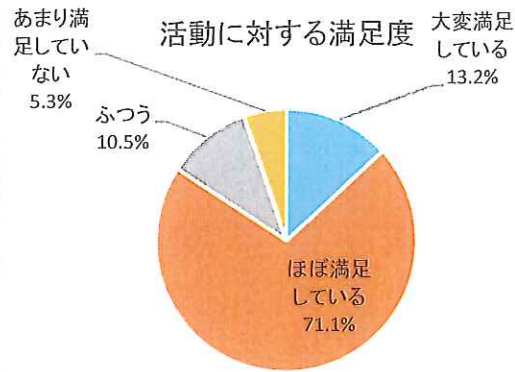


【その他】

- ・市から感謝状を頂く
- ・会長は手話学習にとっても熱心で感謝している。交流会もサークル内、地域、県ろう業界に積極的に参加している。

7. 活動に対する満足度

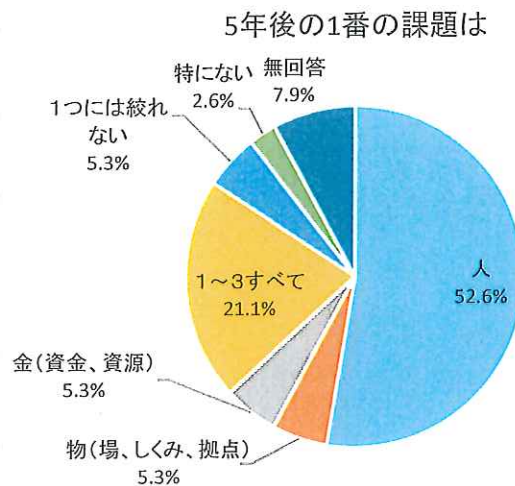
	回答数	%
大変満足している	5	13.2
ほぼ満足している	27	71.1
ふつう	4	10.5
あまり満足していない	2	5.3
やや不満である	0	0.0
かなり不満である	0	0.0
全体	38	100.0



◎ 将来について

8. 5年後の1番の課題

	回答数	%
人	20	52.6
物(場、しくみ、拠点)	2	5.3
金(資金、資源)	2	5.3
1～3すべて	8	21.1
1つには絞れない	2	5.3
特にない	1	2.6
わからない	0	0.0
無回答	3	7.9
全体	38	100.0

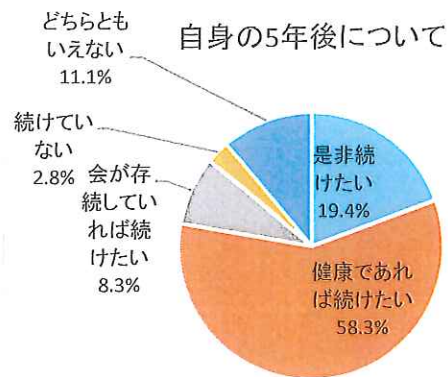


【その他】

- ・市民パトロールの必要性
- ・手話の普及
- ・ほとんどの会員が80代に
- ・会員の高齢化(ろう者、聴者)
- ・仕事も延長されて、ボランティアもできなくなるのではないか。

## 9. 自身の5年後の活動状況について

	回答数	%
是非続けたい	7	18.4
健康であれば続けたい	21	55.3
会が存続していれば続けたい	3	7.9
多分やめている	0	0.0
続けていない	1	2.6
どちらともいえない	4	10.5
その他	2	5.3
全体	38	100.0



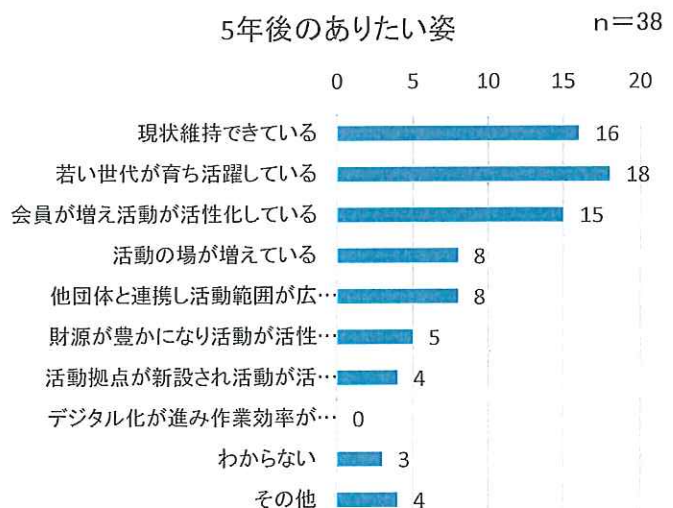
### 【その他】

・何らかの社会奉仕は必要と思って、より形を変えて実施していると思う。（個人参加）企業としては活動を維持していると思う。

・現会長を中心にサークルと改著を援護

## 10. 自団体の5年後のありたい姿について（複数回答可）

	回答数
現状維持できている	16
若い世代が育ち活躍している	18
会員が増え活動が活性化している	15
活動の場が増えている	8
他団体と連携し活動範囲が広がっている	8
財源が豊かになり活動が活性化している	5
活動拠点が新設され活動が活性化している	4
デジタル化が進み作業効率がよくなっている	0
わからない	3
その他	4



### 【その他】

・地域の一員として必要な活動であり、継続実施すると感じている。

・サークルも明るい雰囲気を取り戻し、③はもとより市民の手話・ろう者理解が広まっている事です。

・市、社協のサポートの継続を切望

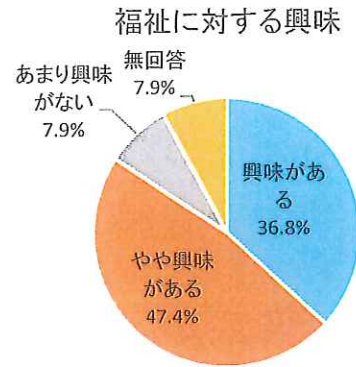
・地区社協が純粋にボランティア活動をしようとする一般の人が気軽に参加できる開かれた場所であって欲しい。

・メンバー12名、健康で踊りを楽しみたい。

◎ 福祉について（個人としてお答えください）

11. 福祉に対する興味について

	回答数	%
興味がある	14	36.8
やや興味がある	18	47.4
あまり興味がない	3	7.9
全く興味がない	0	0.0
わからない	0	0.0
無回答	3	7.9
全体	38	100.0



12. 『福祉』という言葉のイメージ

幸せ

- ・ 幸せな暮らし
- ・ 安全安定した楽しく、幸せな暮らしができる
- ・ 誰もが幸せだと思える暮らしができる社会（まずは健康で生きがいのある生活）
- ・ 誰もが等しく得る幸せな暮らし
- ・ 人々の幸福安定した生活

やさしい・思いやり

- ・ 思いやり
- ・ 思いやりと難しさ
- ・ 一番近くに住む人同士がお互いを気づかい思いやる事
- ・ 高齢になるにつれ、自分自身で動けなくなった場合、人と人のつながり、手伝い、思いやりなど
- ・ 人と人のつながりによって、相手を思いやれる心ができる。イコール「やさしさ」「幸せ」につながると思っています。
- ・ 人にやさしい心を持って接すること
- ・ やさしい
- ・ その様な方々に寄り添える行動
- ・ 戦争後に生まれた私達（70才前後）は、勤務を終了しているなら幸せな生活であると思えます。その上「福祉」とはやさしい

安心

- ・ 平等、安心、安定



## 支える・助ける

- ・ 支え合い
- ・ 皆が支える社会
- ・ 地域支え合いがあれば、有無の時も乗り越えられると思う。
- ・ 自分の大きな心の支えになって下さる大切なもの
- ・ 一般市民の助け合い
- ・ ボランティア活動により助け合うこと
- ・ (困っているほかの人を) 自分のできる範囲で助力する。
- ・ 善意のこころ、困った時の救いの手

## 社会

- ・ 社会全体が協力して皆がよりよく生きること
- ・ 社会のためになる
- ・ 誰もが笑顔で暮らせる社会
- ・ 協力者、団体活動等の集まり

## その他

- ・ 普通に暮らせる事
- ・ 物ではなく、心豊かな暮らし
- ・ 目配り、気配りで人を前向きにさせる
- ・ 相手の声に耳を傾け、一緒に考え、よりよく生きること
- ・ 自分以外の誰かの立場に立って考えること

## ◎ 福祉の複合施設について (個人としてお答えください)

### 13. 複合施設ができたなら利用するか

	回答(人)	%
はい	23	60.5
いいえ	1	2.6
わからない	12	31.6
無回答	2	5.3
全体	38	100.0

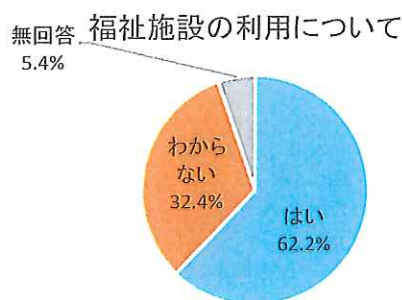
#### 【具体的な理由】

#### ①はいと答えた方

- ・ かっこ付けて引きこもらなくてもいい空間があれば楽しいと思います。
- ・ 市の施設でしたら使用料を出さなくても良いから
- ・ 生徒にとって福祉を学べ、異世代の方との交流できる場であれば利用させたいと思います。
- ・ 当団体の活動として困っている方の情報を少しでも早く手に入れ、早期支援につなげたいため
- ・ 毎日でも行きたくなる様ないろんなイベントがあり、気楽に利用出来ればいいなと思う。
- ・ ワンストップで市の概括が分かり、体験や利用が出来る。大いに期待です。

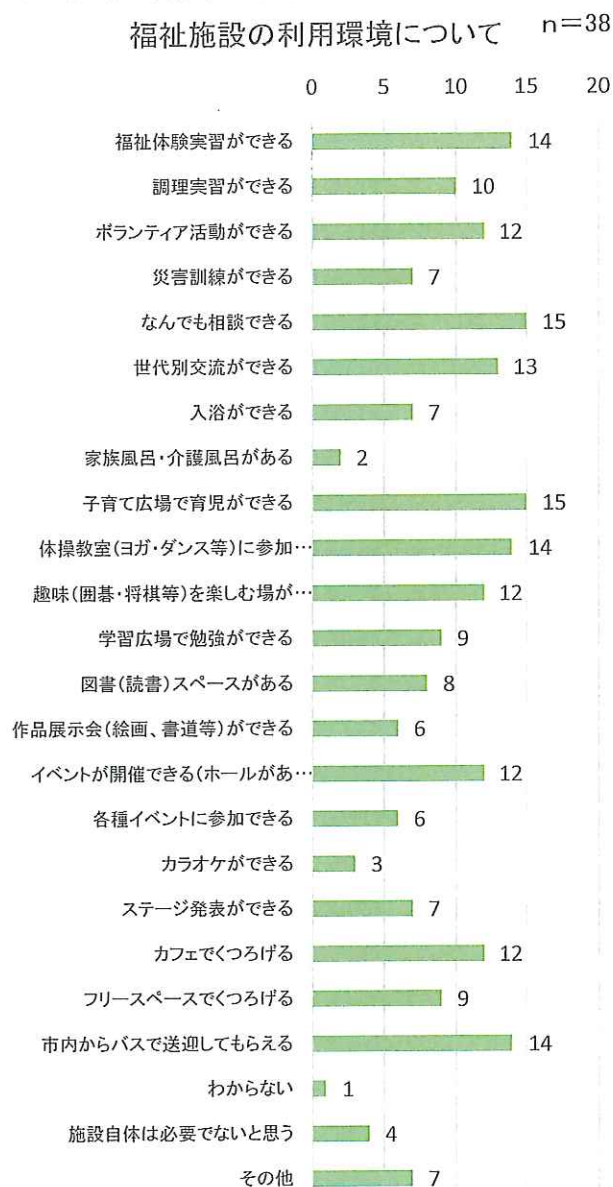
#### ②いいえと答えた方

- ・ 箱物はいらなないです。



14. 複合施設の利用環境について（複数回答可）

No.		回答数
1.	福祉体験実習ができる	14
2.	調理実習ができる	10
3.	ボランティア活動ができる	12
4.	災害訓練ができる	7
5.	なんでも相談できる	15
6.	世代別交流ができる	13
7.	入浴ができる	7
8.	家族風呂・介護風呂がある	2
9.	子育て広場で育児ができる	15
10.	体操教室（ヨガ・ダンス等）に参加できる	14
11.	趣味（囲碁・将棋等）を楽しむ場がある	12
12.	学習広場で勉強ができる	9
13.	図書（読書）スペースがある	8
14.	作品展示会（絵画、書道等）ができる	6
15.	イベントが開催できる（ホールがある）	12
16.	各種イベントに参加できる	6
17.	カラオケができる	3
18.	ステージ発表ができる	7
19.	カフェでくつろげる	12
20.	フリースペースでくつろげる	9
21.	市内からバスで送迎してもらえる	14
22.	わからない	1
23.	施設自体は必要でないと思う	4
24.	その他	7



【その他】

- ・1～21までできるものはすべてあった方が多くの方が利用できると思う。
- ・行きたくなる場所、風良い気であればカフェも良いけど、楽しくランチできれば良い。
- ・各世代が利用できる事
- ・現在ある事業所のサービスとほとんど同じ。どこが差別化されるのか解らない。
- ・現在のイメージでは高齢の方の為の施設、例えばトレーニングマシンを設置したルーム等を作ったりして、どの世代でも利用したいと思える様な箱にしていただければ、自然に老若より添えるようになれるかも。
- ・上記の内容を日中だけでなく働きざかりの若い世代も利用できるように夜間も開放しているといいと思う。
- ・福祉関係の相談窓口の機能
- ・少子化、高齢化時代に箱物建造に維持が困難ではと思う。
- ・市内の現状施設で十分である。

15. その他、黒部市社会福祉協議会に対するご意見、ご質問があれば記入してください。

・福祉への理解活動のため、もっと会員を増やす。（例：もっと従業員数の多い企業等へ声かけ等を実施する等）ことが大切であると感じている。

・各地区公民館へ介護予防、クラブ事業やふれあい事業など、補助金も出て活動のための支援など市も大変なことと思います。市も各公民館も地区のお年寄りの方々も多忙となっています。少し行事が多いのでは？

・運転免許のあるまではいくことができるが、なくなり、やめた時からバスが必要になるのではないですか。曜日によりお迎えにきていただいています、福祉・センター廻りのバス（市バス）もあればいいのではと思います。

・黒部市の人、風土共に良いと感じているので、共感してもらえる人、法人がたくさんいるはずで

す。

・手話を楽しむ、手話に触れる仕掛けをお願い出来ればと思います。

・地域福祉の原点はケアネット活動と思います。市で展開する黒部ネットの拡充に強力に後押しを

と思います。

・私達の見えない所でがんばっておられる事に感謝します。役員も学べる様な企画をこれからもお

願いします。

・いつもお世話になり、ありがとうございます

・今現在、ボランティア団体に携わらせて頂いていますが、いざ地域の中で相談が必要となるケースにいきあたっても、どこにどのように相談をもちかければよいか私自身分かっていないのが正直な所です。市には様々なボランティア団体、ネットワーク等がありますが、言葉じりだけが浸透し、共有し活動までは至っていないが、現状かと思っています。まずはこのアンケートを配布していただいた私達から、今一度各団体の役割とネットワーク関係を整理理解し、具体的にどうつなげていくのかを学び、共有していく機会があればと思います。

# アンケートフォーマット





問8 これまでに民生児童委員として相談を受けたことのある内容について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1. 育児・子育て       | 20. 住民との摩擦・トラブル        |
| 2. ひとり親         | 21. 住居（空き家・アパート含む）     |
| 3. 独居           | 22. ゴミ問題               |
| 4. こどもの貧困       | 23. 交通・移動手段            |
| 5. 貧困           | 24. 災害時の対応             |
| 6. 生活保護         | 25. 金銭(財産・遺産・借金等)      |
| 7. 青少年非行        | 26. 仕事                 |
| 8. 犯罪           | 27. 生活困窮(失業・多重債務)      |
| 9. 孤立           | 28. 移住者                |
| 10. 引きこもり       | 29. 外国人                |
| 11. 不登校         | 30. 2025問題             |
| 12. 児童虐待(乳幼児含む) | 31. 8050問題             |
| 13. 高齢者虐待       | 32. 日常生活支援（買い物・ゴミ出し等）  |
| 14. 障がい者虐待      | 33. ハラスメント（パワハラ、セクハラ等） |
| 15. 家庭内暴力（DV含む） | 34. ストーカー              |
| 16. 介護          | 35. インターネットトラブル        |
| 17. 認知症         | 36. その他                |
| 18. 障がい         | 〔 〕                    |
| 19. 見守り         |                        |

問9 近年、民生児童委員として相談件数が増えたもの、増えてきたと感じる課題は何ですか。最もあてはまるものに○をつけてください。 （最高5つまで）

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1. 育児・子育て       | 20. 住民との摩擦・トラブル        |
| 2. ひとり親         | 21. 住居（空き家・アパート含む）     |
| 3. 独居           | 22. ゴミ問題               |
| 4. こどもの貧困       | 23. 交通・移動手段            |
| 5. 貧困           | 24. 災害時の対応             |
| 6. 生活保護         | 25. 金銭(財産・遺産・借金等)      |
| 7. 青少年非行        | 26. 仕事                 |
| 8. 犯罪           | 27. 生活困窮(失業・多重債務)      |
| 9. 孤立           | 28. 移住者                |
| 10. 引きこもり       | 29. 外国人                |
| 11. 不登校         | 30. 2025問題             |
| 12. 児童虐待(乳幼児含む) | 31. 8050問題             |
| 13. 高齢者虐待       | 32. 日常生活支援（買い物・ゴミ出し等）  |
| 14. 障がい者虐待      | 33. ハラスメント（パワハラ、セクハラ等） |
| 15. 家庭内暴力（DV含む） | 34. ストーカー              |
| 16. 介護          | 35. インターネットトラブル        |
| 17. 認知症         | 36. その他                |
| 18. 障がい         | 〔 〕                    |
| 19. 見守り         |                        |

問10 民生児童委員として活動していく上で、以下の項目について、個人的にどのように感じていますか。各【項目】ごとに、あてはまるもの1つに○をつけてください。

【会合・会議への参加】

1. かなり大変である
2. やや大変である
3. ふつう
4. あまり大変ではない
5. 大変と思ったことはない

【事務作業・提出物】

1. かなり大変である
2. やや大変である
3. ふつう
4. あまり大変ではない
5. 大変と思ったことはない

【訪問・相談】

1. かなり大変である
2. やや大変である
3. ふつう
4. あまり大変ではない
5. 大変と思ったことはない

【地区行事等への参加】

1. かなり大変である
2. やや大変である
3. ふつう
4. あまり大変ではない
5. 大変と思ったことはない

【研修・勉強会】

1. かなり大変である
2. やや大変である
3. ふつう
4. あまり大変ではない
5. 大変と思ったことはない

【その他自由記述】

( )

問11 現在、民生児童委員の活動にしている中で、自身の悩みや不安、課題はありますか。

1. ある
2. ない

具体的にお聞かせください

( )

問12 民生委員活動において、ありたい形(理想)と想定(将来)でギャップを感じることはありますか。記入例を参考に記述してください。

【記入例】 ○○したいが、○○によって、○○ができない

- ・ 活動への理解を深めたいが、認知度が低く、なかなか理解を得られない
- ・ 若い世代に活躍してもらいたい、人材不足で、若い委員が増えない
- ・ 財源があれば活動範囲が広がるが、財源不足によって、活動が活性化しない
- ・ デジタル化で仕事の効率を上げたいが、高齢のため、ついていけない 等

( )

◎ 外部との関わりについて

問13 民生児童委員として、行政・地区・専門機関・社協との関わりについて、どのように感じていますか。各【項目】ごとに最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

【行政との関わり】

1. かなり強い      2. 強い      3. ふつう      4. やや弱い      5. 非常に弱い

【地区との関わり】

1. かなり強い      2. 強い      3. ふつう      4. やや弱い      5. 非常に弱い

【専門機関との関わり】

1. かなり強い      2. 強い      3. ふつう      4. やや弱い      5. 非常に弱い

【社協との関わり】

1. かなり強い      2. 強い      3. ふつう      4. やや弱い      5. 非常に弱い

◎ 福祉について（個人としてお答えください）

問14 あなたが思う『福祉』とは…？ひと言で伝えるとしたらどのように表現しますか。

（例）やさしい、幸せな暮らし、難しくてわからない 等

[ ]

◎ 福祉の複合施設について（個人としてお答えください）

※福祉の複合施設とは？  
福祉の総合的な学びや支援、相談ができる場としての活用、さらには誰もが集える場として活用できる複合的な施設のこと

問15 あなたは、黒部市に福祉の複合施設ができたなら利用したいですか。

1. はい      具体的な理由があれば記入してください

2. いいえ ⇒ [ ]  
3. わからない [ ]

問16 福祉の複合施設ができた場合、あなたは、どのようなことができる施設がよいと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 福祉体験実習ができる
2. 調理実習ができる
3. ボランティア活動ができる
4. 災害訓練ができる
5. なんでも相談できる
6. 世代別交流ができる
7. 入浴ができる
8. 家族風呂・介護風呂がある
9. 子育て広場で育児ができる
10. 体操教室（ヨガ・ダンス等）に参加できる
11. 趣味（囲碁・将棋等）を楽しむ場がある
12. 学習広場で勉強ができる
13. 図書（読書）スペースがある
14. 作品展示会（絵画、書道等）ができる
15. イベントが開催できる（ホールがある）
16. 各種イベントに参加できる
17. カラオケができる
18. ステージ発表ができる
19. カフェでくつろげる
20. フリースペースでくつろげる
21. 市内からバスで送迎してもらえる
22. わからない
23. 施設自体は必要でないと思う
24. その他

( )

問17 その他、黒部市社会福祉協議会に対するご意見、ご質問があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました  
黒部市社会福祉協議会

【ボランティア登録団体用】

黒部市社会福祉協議会『福祉に関わる団体支援者アンケート』

団体名 ( ) 記入日 平成30年 月 日

代表者名 ( ) 記入者名 ( )

◎ 団体活動について

問1 自団体の活動エリアはどちらですか。該当する箇所○をつけてください。

- |         |          |          |             |         |
|---------|----------|----------|-------------|---------|
| 1. 生地   | 2. 石田    | 3. 田家    | 4. 村椿       | 5. 大布施  |
| 6. 三日市  | 7. 前沢    | 8. 荻生    | 9. 若栗       | 10. 東布施 |
| 11. 宇奈月 | 12. 音沢   | 13. 内山   | 14. 愛本      | 15. 下立  |
| 16. 浦山  | 17. 市内全域 | 18. 県内全域 | 19. その他 ( ) |         |

問2 現在活動している自団体について、人、場、資金等に関する悩みや不安、課題はありますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- |          |          |          |       |
|----------|----------|----------|-------|
| 1. かなりある | } 問3へ    | 3. あまりない | } 問4へ |
| 2. 少しある  |          | 4. 全くない  |       |
|          | 5. わからない |          |       |

問3 問2で「1.かなりある、2.少しある」と答えた方に聞きます。それはどのようなことですか。テーマごとにあてはまるものすべてに○をつけてください。

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

【人に関すること】

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 会員が高齢化している     | 9. 年齢層に偏りがある          |
| 2. 若い会員が不足している    | 10. 自主的な参加者が少ない (いない) |
| 3. 男性会員が少ない (いない) | 11. その他自由記述           |
| 4. 新規会員が増えない      | [ ]                   |
| 5. 若い会員が増えない      |                       |
| 6. 役員になる人がいない     |                       |
| 7. 事務担当者がいない      |                       |
| 8. 企画者がいない        |                       |

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

【場・しくみ・拠点に関すること】

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1. 活動場所がない           | 9. デジタル化についていけない |
| 2. ルールにしばられ活動しにくい    | 10. その他自由記述      |
| 3. 活動する機会が少ない        | [ ]              |
| 4. 活動がマンネリ化している      |                  |
| 5. 活動への理解がない         |                  |
| 6. 活動手段 (ニーズ) がわからない |                  |
| 7. 組織作りがうまくいっていない    |                  |
| 8. 情報が集まってこない        |                  |

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

【資金・資源に関すること】

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 1. 市からの補助金が減ってきている  | 5. その他自由記述 |
| 2. 活動する財源が不足している    | 〔 〕        |
| 3. 資金集めに苦労している      |            |
| 4. 会員の減少による会費(予算)不足 |            |

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

【その他】

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1. ボランティアか仕事かの区別がつかない |            |
| 2. 活動時間が勤務時間と重なる      | 8. その他自由記述 |
| 3. 研修会や会合が多い          | 〔 〕        |
| 4. 活動が趣味だけに限っている      |            |
| 5. 地域との交流が少ない(連携不足)   |            |
| 6. 移動手段がない            |            |
| 7. わからない              |            |

問4 自団体のありたい形(理想)と想定(将来)でギャップを感じるのはどのようなことですか。記入例を参考に記述してください。

<p>【記入例】 ○○したいが、○○によって、○○ができない</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動への理解を深めたいが、認知度が低く、なかなか理解を得られない</li><li>・ 若い世代に活躍してもらいたい、人材不足で、若い会員(職員)が増えない</li><li>・ 財源があれば活動範囲が広がるが、財源不足によって、活動が活性化しない</li><li>・ デジタル化で仕事の効率を上げたいが、高齢のため、ついていけない 等</li></ul>
---

〔 〕

問5 自団体の今、良いところはありますか。

最もあてはまるものに○をつけてください(3つまで)

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1. 皆が協力的である        | 11. 次世代のリーダーが育ってきている |
| 2. 皆が仲良しである        | 12. 活動拠点、環境に恵まれている   |
| 3. 活動協力者が多い        | 13. 財源がある            |
| 4. 連帯感がありチームワークがよい | 14. 特にない             |
| 5. 若い人が多い          | 15. わからない            |
| 6. 役員が皆がんばっている     | 16. その他              |
| 7. 皆アクティブである       | 〔 〕                  |
| 8. 人の顔がよくわかる       |                      |
| 9. 活動内容が多種である      |                      |
| 10. 地域との関わりがもてる    |                      |

問6 ご自身が活動していて今、良いことはありますか。  
最もあてはまるものに○をつけてください（3つまで）

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1. いろいろな人と出会うことができる   | 11. 心が癒される |
| 2. いろいろな人と仲良くできる      | 12. 特にない   |
| 3. いろいろな経験ができる        | 13. わからない  |
| 4. いろいろなことが学べる(勉強できる) | 14. その他    |
| 5. 視野がひろがる            | 〔 〕        |
| 6. 日々の生活が充実している       |            |
| 7. 生きがいを感じる           |            |
| 8. 元気になれる             |            |
| 9. 好きなことができて楽しい       |            |
| 10. 感謝され(喜ばれ)てうれしい    |            |

問7 あなた自身、現在の活動に満足していますか。  
最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- |               |             |             |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 大変満足している   | 2. ほぼ満足している | 3. ふつう      |
| 4. あまり満足していない | 5. やや不満である  | 6. かなり不満である |

◎ 将来について

問8 自団体の5年後を想定して、1番の課題は何と考えますか。  
最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- |                |          |
|----------------|----------|
| 1. 人           | 7. わからない |
| 2. 物(場、しくみ、拠点) | 8. その他   |
| 3. 金(資金、資源)    | 〔 〕      |
| 4. 1~3すべて      |          |
| 5. 1つには絞れない    |          |
| 6. 特にない        |          |

問9 あなた自身、5年後も今の活動を続けたいと感じていますか？  
最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- |                  |        |
|------------------|--------|
| 1. 是非続けたい        | 7. その他 |
| 2. 健康であれば続けたい    | 〔 〕    |
| 3. 会が存続していれば続けたい |        |
| 4. 多分やめている       |        |
| 5. 続けていない        |        |
| 6. どちらともいえない     |        |

問10 自団体の5年後、理想的な姿、ありたい姿、目標、目指すべきところは？  
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 現状維持できている
2. 若い世代が育ち活躍している
3. 会員が増え活動が活性化している
4. 活動の場が増えている
5. 他団体と連携し活動範囲が広がっている
6. 財源が豊かになり活動が活性化している
7. 活動拠点が新設され活動が活性化している
8. デジタル化が進み作業効率がよくなっている
9. わからない
10. その他

( )

◎ 福祉について（個人としてお答えください）

問11 あなたは、福祉に興味がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 興味がある
2. やや興味がある
3. あまり興味がない
4. 全く興味がない
5. わからない

問12 あなたが思う『福祉』とは…？ひと言で伝えるとしたらどのように表現しますか。

(例) やさしい、幸せな暮らし、難しくてわからない 等

( )

◎ 福祉の複合施設について（個人としてお答えください）

※福祉の複合施設とは？

福祉の総合的な学びや支援、相談ができる場としての活用、さらには誰もが集える場として活用できる複合的な施設のこと

問13 あなたは、黒部市に福祉の複合施設ができたなら利用したいですか。

1. はい具体的な理由があれば記入してください
2. いいえ ⇒
3. わからない

( )



問14 福祉の複合施設ができた場合、あなたは、どのようなことができる施設がよいと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 福祉体験実習ができる
2. 調理実習ができる
3. ボランティア活動ができる
4. 災害訓練ができる
5. なんでも相談できる
6. 世代別交流ができる
7. 入浴ができる
8. 家族風呂・介護風呂がある
9. 子育て広場で育児ができる
10. 体操教室（ヨガ・ダンス等）に参加できる
11. 趣味（囲碁・将棋等）を楽しむ場がある
12. 学習広場で勉強ができる
13. 図書（読書）スペースがある
14. 作品展示会（絵画、書道等）ができる
15. イベントが開催できる（ホールがある）
16. 各種イベントに参加できる
17. カラオケができる
18. ステージ発表ができる
19. カフェでくつろげる
20. フリースペースでくつろげる
21. 市内からバスで送迎してもらえる
22. わからない
23. 施設自体必要でないと思う
24. その他

( )

問15 その他、黒部市社会福祉協議会に対するご意見、ご質問があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました  
黒部市社会福祉協議会

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会  
平成 30 年度『福祉に関わる団体支援者アンケート』報告書

発 行 平成 31 年 9 月

編集・発行 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 経営戦略係

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に向けて  
地域福祉に関する現状と課題についての  
調査報告書

この調査は、第3次黒部市地域福祉活動計画策定に向けて地域福祉の現状と課題に関する基礎調査として地区社会福祉協議会並びに福祉関係団体を対象にワーキング及びヒアリングを行うものである。

- 1 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会におけるワーキング実施報告
- 2 地域福祉に関する現状と課題についてのワーキング実施報告
- 3 地域福祉に関する現状と課題についてのヒアリング調査報告

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会

【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

### 第3次黒部市地域福祉活動計画策定に伴う関係調査実施報告概要

実施日	会議名	対象者	分野	備考
○第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会				
5月11日	第1回策定委員会にてワークショップの開催	策定委員14名	地域支援	
8月6日	第2回策定委員会にてグループワークの開催	策定委員14名	地域支援	
9月20日	策定に係る目標設定ワーキングの開催	策定委員5名 PTメンバー7名	地域支援	
11月26日	第3回策定委員会にてグループワークの開催	策定委員10名	地域支援	

○ワーキング・ヒアリング調査				
3月～6月 随時	地縁型ボランティア活動支援者へのヒアリング	16地区 全38名	地域支援	
8月～9月 随時	地区社会福祉協議会へのヒアリング	16地区 全52名	地域支援	
6月13日	ボランティア連絡会にてワークショップの開催	31団体 全32名	地域支援	
7月23日	黒部のとびら(移住者団体)へのヒアリング	会員8名	移住者	
8月30日	NPO法人 宇奈月自立塾へのヒアリング	理事長1名	少数派	
10月2日	富山県立桜井高等学校へのヒアリング	元生徒会 執行部2名	次世代	

○アンケート調査				
2017年度	福祉に関する中学・高校生アンケート (桜井高等学校、黒部市内中学校4校)	中学生351名 高校生575名	次世代	報告書2017 年度作成済
7月6日	福祉に関わる団体支援者アンケート (民生委員児童委員用)	113名	地域支援	
7月20日	福祉に関わる団体支援者アンケート (ボランティア登録団体用)	60団体	地域支援	

○黒部市社会福祉協議会職員全体会議				
7月24日	職員全体会議にてワークショップの開催	職員21名	地域支援 生活支援	

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における

## ワーキング実施報告書

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

【目次】

1. 第1回策定委員会におけるワークショップ実施報告
2. 第2回策定委員会におけるグループワーク実施報告
3. 策定に係る目標設定ワーキング実施報告
4. 第3回策定委員会におけるグループワーク実施報告

⑧第1回 黒部市第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における調査報告（一部抜粋）  
この調査は、第1回黒部市地域福祉活動計画策定委員会（5月11日）に出席された委員14名を対象に行われたワークショップの結果をまとめた（委員名個別紙参照）  
（W.Sの進め方）

1. 自団体の現状、想定（5年後）について、①人、②場、③しくみ、④拠点、⑤資金・資源、⑥次世代、⑦マイノリティー・新たな課題の5つのテーマに分けて話し合う
2. 最後に想定（目標）、今後目指していきたいことを聞く

分類	①人に関すること	②場（場・しくみ・拠点）に関すること	③資金・資源に関すること	④次世代に関すること	⑤マイノリティーに関すること、新たな課題
現状（自団体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経験者が必要</li> <li>・ 順番制によりリーダーの意識が低い</li> <li>・ 役員がなかなか決まらな</li> <li>・ 高齢化、定年が延びて担い手がない</li> <li>・ 親子関係が希薄している</li> <li>・ メンバーが重なる</li> <li>・ 仲間集めがほとんどできていない</li> <li>・ 認知症サポートチームが少ない</li> <li>・ 社会福祉の背景が弱く感じられない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動が浸透しない</li> <li>・ みんなが関心を持つ事業が少ない</li> <li>・ 老人施設の待機、現在以前より少ない</li> <li>・ 福祉センターの利用が高齢者のみで家族で遊んでいない</li> <li>・ 子供も参加できるイベントが少ない</li> <li>・ 水多敷の企業は地域との関わりが経済的に限られている</li> <li>・ しくみや場、団体のことを知らない人が多い</li> <li>・ どこに相談していいか、相談できる場がわからない</li> <li>・ 高齢者でも障がい者でもみんな取られる場、しくみ</li> <li>・ 車の運転ができず、参加したくてもできない人もいる</li> <li>・ 市町村で遊がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動資金がうまく集まらない</li> <li>・ クラウドファンディングは分断によってとりやめやす</li> <li>・ 保障現場にはお金がない</li> <li>・ 人口減少により現場のお金も減</li> <li>・ 3人以上育てるお金がない、心配</li> <li>・ 制度が細かい</li> <li>・ 1人1人によって運営費の差がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の子供の情報が得られない</li> <li>・ 子供に声をかけづらい（不登校）</li> <li>・ 代表になりたがらない</li> <li>・ 集まって何かしようと思わない</li> <li>・ 核家族化→温かみがない</li> <li>・ 結婚しない人が増えた</li> <li>・ 協力してくれる保護者がたくさんいる</li> <li>・ 役員に交代は仕方なくする</li> <li>・ 家族をもてば、地域資源を使う</li> <li>・ 一人で何とかしようとする</li> <li>・ 畑の集まりで組織をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人との交流がない</li> <li>・ 戸籍のない外国人⇒市の支援を要けられない</li> <li>・ 身寄りのない方、関係の希薄化</li> </ul> <p>&lt;新たな課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所の人の情報が全く得られない</li> <li>・ 町内単位での高齢者率の格差</li> <li>・ 片頭痛、背腰痛</li> <li>・ 求人がない</li> <li>・ 畑会に行こうと思える人増</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーが率先してやっている</li> <li>・ 負傷なく継続できている</li> <li>・ 自主的にボランティアに子供が取り組んでいる</li> <li>・ 協力して見守り活動している</li> <li>・ 定年後のサポートの協力あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先駆的な活動の場があり、定年してきている</li> <li>・ 活動が定着してきた</li> <li>・ 組織化する場づくり</li> <li>・ 1つの事業をしくみ化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定年後のサポートの協力</li> <li>・ 自分たちで勉強して、資源も集めてくる</li> <li>・ 市社協、地区社協より助成をいただく</li> <li>・ 活動に資金がたく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体感を通じて、人材を募集している</li> <li>・ 元気にあいまつをしていく子供がいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人の集まりがある</li> </ul>
想定（5年後）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者も一緒に活動できる</li> <li>・ 人材確保、育成</li> <li>・ 教員になりたたい人が少ない</li> <li>・ 少子高齢化（想像を越える）</li> <li>・ 地域支え合い活動の充実</li> <li>・ 社協としての人材育成</li> <li>・ 順番制になる（リーダー）</li> <li>・ 外国人の力（労働力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の拠点が増えたい</li> <li>・ 集まりの場の希薄化</li> <li>・ 昔の地域に親しみたい（地域の見守りがある）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減=資金も減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーを次世代に交代していきたくみづくり</li> <li>・ 若い人にしてほしい</li> <li>・ 人材を募集・育成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人の活躍の場（雇用）</li> <li>・ 外国人の受け入れが増</li> </ul>
取組（目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者も活躍する（がんばる!）</li> <li>・ 出生率1.8人を超える</li> <li>・ 定年後の人から人材確保する</li> <li>・ リーダーの順調な成長を促していく</li> <li>・ 郷土愛を持ったリーダーを育てる</li> <li>・ 地域からの子どもを受け入れる温かきのある地域（人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供達が育つてきたと感じる黒部のまちづくり</li> <li>・ 空き家を積極的に活用されるようになってほしい</li> <li>・ どんな人でも空き家が提供されるようにならほしい</li> <li>・ NPO法人などに生人の人達を心を開いてくたしてほしい</li> <li>・ くるべネットを広げる（毎年説明、意識づくり）</li> <li>・ 情報共有</li> <li>・ 若い保護者に伝えにきてほしい</li> <li>・ みんながお互い敬を言える、話し合える社会づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成金の増加が豊に活用できるようにしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供達に意識づけを行う（施設教育）</li> <li>・ 小さい頃から地域との関わりを習わして人材を育てる（行事を通して）</li> <li>・ 地域のリーダーとなりえる人材を育てる</li> <li>・ 年代ごとに得意分野を発達させたい</li> <li>・ 若者、年配の人、お互いを受け入れられるのが理想</li> <li>・ 素直な人が多心ので情報源を</li> <li>・ 市外に行っても関係のいい所がわかるしくみ</li> </ul>	

**1. 人**

- ★ 高齢者も活躍する (がんばる!)
- ★ 出生率1.8人を超える
- ★ 定年後の人から人材確保する
- ★ リーダーの順調な成長を促していく
- ★ 郷土愛を持ったリーダーを育てる
- ★ 地域からの子どもを受け入れる温かきのある地域 (人)

**2. 場**

- ★ 活動の拠点が増えたい
- ★ 集まりの場の希薄化
- ★ 昔の地域に親しみたい (地域の見守りがある)

**3. 資金・資源**

- ★ 現状 (今)
- ★ 想定 (将来)
- ★ 理想 (期待)

**4. 次世代**

- ★ 子供達に意識づけを行う (施設教育)
- ★ 小さい頃から地域との関わりを習わして人材を育てる (行事を通して)
- ★ 地域のリーダーとなりえる人材を育てる
- ★ 年代ごとに得意分野を発達させたい
- ★ 若者、年配の人、お互いを受け入れられるのが理想
- ★ 素直な人が多心ので情報源を
- ★ 市外に行っても関係のいい所がわかるしくみ

**5. マイノリティー・新たな課題**

- ★ 外国人との交流がない
- ★ 戸籍のない外国人⇒市の支援を要けられない
- ★ 身寄りのない方、関係の希薄化

<新たな課題>

- ★ 近所の人の情報が全く得られない
- ★ 町内単位での高齢者率の格差
- ★ 片頭痛、背腰痛
- ★ 求人がない
- ★ 畑会に行こうと思える人増

**まとめ**

各委員から、自団体における現状、想定、課題について様々な意見が上がった。中でも「人」に関する意見が多くなり、さらには人づくり、子育てをするうえで、場（しくみ）づくりも必要であることが見えてきた。活動計画策定にあたり、どのような目標設定が必要とされているか、併用して行っているヒアリングやアンケート結果内容も同時に反映し、今後、どのようなことに力を入れて取り組んでいくべきかを振り返っていく。

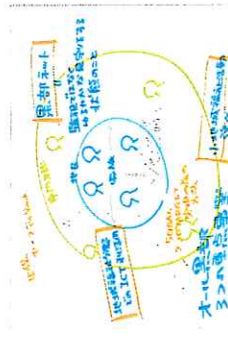
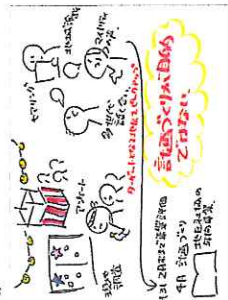


◎第2回 黒部市第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における調査報告（一部抜粋）  
この調査は、第2回黒部市地域福祉活動計画策定委員会（8月6日）に出席された委員14名を対象に行われたグループワークの結果をまとめた（委員各朝別紙参照）  
（G.Wの進め方）

1. 黒部の福祉を良くする活動計画の5つの目標に対するターゲットについて、個人で考え提案する
2. 黒部市全体で取り組む3つの重点事業について、共通理解を図るため、内容について疑問に思っていることを社協職員に問う

分類	活動人口を減らす	つなげる場をつくらう	すべての人々に福祉を	未来を担う次世代の参加	パートナーシップで目標を達成しよう
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な内容を示して、期出から参加できるような募集</li> <li>希望者を呼び、地域活動をPRする</li> <li>活動経費の負担軽減</li> <li>多くの人と関わることを目指す</li> <li>ポイン트가もらえる</li> <li>学校で子供たちに教える</li> <li>子連れでも参加できるようにする</li> <li>未来の活動者を育てる</li> <li>多世代交流で高齢者をつなげる</li> <li>イベント前楽しいものを多くする</li> <li>地区の楽しみかたを提案にする</li> <li>説明会と楽しいイベントをつなげて開催する</li> <li>楽しみながらできるイベントを起す</li> <li>民生委員、地区社協だけでなく、代表者同士話し合いする場をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ趣味からの集まり</li> <li>学生と交流できるボランティアイベント</li> <li>芸能人を呼んでのボランティアイベント</li> <li>ICTのフル活用</li> <li>ボランティア登録の制度をつくり、誰でも都合の良い時に参加できるようにする</li> <li>ボランティア活動の場があっても同じようなことが減ると</li> <li>様々な参加者が減少していく</li> <li>近所の方々と交流、関わる場がない</li> <li>高齢者をつなげることができない</li> <li>子連れでも参加できるようにする</li> <li>ボランティアメンバーと民生委員との話し合いの機会がない</li> <li>具体的なSOS（テーマ）を公表して応募しやすくする</li> <li>取組を支援する</li> <li>世代間交流を促す</li> <li>地域の伝統祭りの場、世代間交流</li> <li>風流種交流を促す</li> <li>福祉センター内に子育てひろばのような子連れで行ける場をつくる</li> <li>多少の補助金とか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「困っている人」はすべて福祉の対象者だという意識を広める</li> <li>近所付き合いのない人がなかなか人の輪の中に入っていない状態が保たれない</li> <li>地域の理解</li> <li>高い教育レベル</li> <li>人と人との交流を促していく</li> <li>情報格差をなくそう</li> <li>知らない相談者の必要性</li> <li>町内会、自治会に入りたがらない＝人と関わりたくない人</li> <li>「おおきなお世話」にならなければならないように関わられるか</li> <li>「おおきなお世話」にならなければならないので自分で声があげられる雰囲気づくり</li> <li>電力会社などの情報連携</li> <li>人に頼りたくない頑固な人</li> <li>一人暮らしの高齢者（会話が来ない人）</li> <li>隣居があっても会話が聞き取れない時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供達が主役の行事は参加が多い</li> <li>地区行事の夏祭りとかには子供連と共に多く参加してもらえが...</li> <li>子供が主役のイベントや子供が活躍できるイベントを企画する</li> <li>子供をターゲットにした事業をし、親やじいちゃんなど一緒に参加させる</li> <li>子供からお年寄りまでの全ての人が楽しめるものがあるイベントを考える</li> <li>子供に小さい頃から地域に関わる機会を設けることが重要</li> <li>夏祭りに「あんどん」に子供連に書いてもらい、当日親と一緒に自然に行き、祭りを楽しんでもらっている</li> <li>親子自然体験</li> <li>親子伝統体験</li> <li>社会背景の説明</li> <li>子供をだにさせる</li> <li>個別に参加をさそう</li> <li>役員になってもう</li> <li>SNS等ICTで情報伝達</li> <li>SNS映えのいいイベント</li> <li>地域運動休日を！...せめて公認休園等</li> <li>地域の祭り等に参加した場合、地域のみ派遣委員等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と社協、学校と民生委員、学校と専門機関</li> <li>地区と企業と共にまちづくりに取り組みれば地域づくりになる</li> <li>事業の延長線上で活動が考えられる企業と</li> <li>福祉に明るい人</li> <li>自治振興委員会</li> <li>元交なお年寄り</li> <li>核家族の今日（独居）老人と子育て世代をつなぐ</li> <li>血のつながりではなくても交流が生まれることで相互により良い関係が生まれると聞いています</li> <li>外国人</li> <li>わが町がこと</li> <li>JC、YEG、若い人達がいる団体</li> <li>インクルージョンしながら専門分野を団体のみならず個人でも</li> <li>地域の祭りや行事をみんなで作り出すとスムーズに話させる</li> </ul>

（会議の流れ）



第3次黒部市地域福祉活動計画は、計画をつくること自体ははかなく、それぞれの団体が活動が地域福祉推進のための活動に取り組んでいけるものにしていく必要がある。

ピアリング、アンケータンメント調査の結果を基に、事務局内で討議した結果、大きな活動目標として、5つの目標が上げられた。

5つの目標について、策定委員が考えるターゲットを各自案ごとに上げてもらう。（上場一頁参照）

5つの活動目標以外に、黒部市の重点として3つの事業を掲げている。その内容について、共通理解を図るため、懇話会後、今後の具体策の提案につなげていく。

項目	黒部市全体で取り組む3つの重点事業	ICTの活用に関する意見	ICTの活用に関する意見	【まとめ】
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護についての理解</li> <li>民生委員への負担</li> <li>困窮ケースの把握</li> <li>将来的にどう維持者じゃない人を救っていくのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組は進められがち、どうしたら地域の人に伝えられるか</li> <li>どう使うのか、知っている人が使い方を伝えていくこと（身近なところから周知）が大切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5つの活動目標以外に、黒部市の重点として3つの事業を掲げている。その内容について、共通理解を図るため、懇話会後、今後の具体策の提案につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各委員からそれぞれ分野において必要と感じるターゲットが上げられた。これらの意見を反映し、さらに少人数でワーキンググループの絞り込みを行うこととした。</li> <li>3つの重点事項（くろべネット、ICTの活用、小地域福祉活動計画）については、くろべネットに対する質問が多くなった。地域住民への周知、事業への理解をどのように高めていくかが、今後の課題として残るが、黒部市社協で現在進めているくろべネット運営委員会を通して、その取り組みに対して体制強化を図ることとしていく。</li> </ul>



◎ 「第3次黒部市地域福祉活動計画」 目標設定ワーキング報告（一部抜粋）

このワーキングは、黒部市地域福祉活動計画策定における目標及びターゲットの設定に向け、策定委員と社協PTメンバーで実施したワーキングの結果をまとめた（出席委員）第1部：松原委員長、橋詰委員 / 第2部：岩井副委員長、村井委員、牟田委員（PTメンバー）林、小倉、小柴、佐藤、坪崎、高村彩、高村千

(G.Wの進め方)

1. 第2回の策定委員会時に掲げていた目標の一部を変更し、具体的なターゲットを案として3つずつ掲げた
2. 4つの目標に対してそれぞれに掲げる3つのターゲット(案)について、委員とPTメンバーで2グループに分かれ話し合い、意見発表を行った

GOAL④ 活動人口を増やそう	GOAL② 話すことから始めよう	GOAL③ すべての人々に福祉を
<p>地域で活動する人増やし、地域の担い手を育てる</p> <p>TARGET① 小さな地域で出番を増やす TARGET② 住民主体の意識を育てる TARGET③ 世代間交流事業に取り組み</p> <p>活動人口を増やす ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動人口とは？…定義は？ 現状把握、数値目標が必要では？</li> <li>・活動者を増やすことが目的か… 活動を示せる事例を増やす</li> <li>・そもそも福祉とは何だ？ 形として見えにくい</li> <li>・活動の成果、喜びがないと続かない 福祉＝目に見えないと意識しづらい</li> <li>・リーダーのリーダーを育てる…福祉に関心のある人を見つけたら</li> <li>・振興会と地区社協の役割⇒分けることが良いのか？ 一体何が良いのか？</li> <li>・役割（町内会）が明確 良いか、悪いか？</li> <li>・お祭り、イベントが世代をつなぐ⇒今あるものを活かす</li> <li>⇒見る、知る、感じる機会⇒福祉教育にもなっている</li> <li>・災害・防災での共助の意識は高まってきている</li> <li>⇒防災支援センターには入りたいが町内会には入りたくない</li> <li>・出番と役割を整理</li> </ul>	<p>話すことから始めよう ロゴ</p> <p>話し合う場、学び合う場、支え合う場をつくる</p> <p>TARGET① 市内で学び合う場をつくる TARGET② 新しい話し合いの場をつくる TARGET③ ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる」場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信する際、子供向け、多言語化が必要⇒webで知る、調べる機会が増えている</li> <li>・くるペネットの会議⇒それぞれどんな活動をしているかを知れる機会になった。意外に内部でも共有できていないことに気づいた。</li> <li>・支援者同士のつながりができ、さらにモチベーションupにもつながった。</li> <li>・対話の場づくり⇒集まること目的はx 話すTalk ⇨ 知るknow</li> <li>・ボランティア団体の紹介…情報発信の方法⇒知らないと聞わりようがない</li> <li>・リーダー層の集まりはあるが、団体を知らない⇒目に見えない場、つながる場はうすい</li> <li>・大きい単位だと思えない⇒目に見えない地域（小地域）づくり</li> <li>・今ある事業、組織においてもつながるしくみ、場が必要</li> <li>・若者への情報発信（フェイスブック等を活用）高齢者・外国人へ発信</li> </ul>	<p>誰もが安心して暮らせる、社会的孤立の無い地域をつくる</p> <p>TARGET① 「お互いさまの支え合い」を実現する TARGET② 「声が届く地域、声を見つめる地域」を目指す TARGET③ 小地域単位での地域課題解決力を高める</p> <p>すべての人々に福祉を ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知ること、知ってもらったことが大事（マッチングできるしくみ）</li> <li>・お互いさま⇒Good あたり前から「お互いさま」へ</li> <li>・外国人が今後増える⇒他県では孤立化している事例がある</li> <li>・意識改革 マイノリティー支援、取り組みに対する地域への情報発信不足</li> <li>・困っている前の状態での気づきが大事</li> <li>・8050問題、はさまの難しさ 現状知らないから…</li> <li>・見えない課題をどうキャッチしていくか</li> <li>・保育と地域の協力</li> <li>・「おせっかい」=コーディネーターが満ちてきている 個人情報や面倒という理由から</li> <li>・お願ひしてみることも大事 「遠慮」がネック</li> <li>・自願ひ、他人事をどう地域事にしていくか？関心を持つか？</li> <li>・「ありがとう」の連鎖</li> </ul>
<p>GOAL④ U-40世代の力を活かそう</p> <p>U-40世代に地域福祉へ関わりや参加の機会を増やす</p> <p>TARGET① 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす TARGET② 10代、20代、30代、40代の声を入れる TARGET③ 全世代で共有し、福祉体験教育に取り組み</p> <p>U-40世代の力を活かそう ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決める場に参加</li> <li>・地区の話し合いに、関係団体を呼ぶ</li> <li>・地域団体は、意外に地域の話し合いに関わっていない</li> <li>・福祉体験 学校⇒社協、団体に依頼 社協からアプローチ</li> <li>プログラムを体系化する必要あり</li> <li>・いぎなり20代、30代を誘うことは難しい</li> <li>・イベントや行事を通してまずはアプローチ</li> <li>・親子で参加 意識を変える</li> <li>・若者の強みを活かす</li> <li>例えば、若者が高齢者にスマホ、ITを教える（出番と役割）</li> <li>・次の一手が大事!!</li> </ul>	<p>GOAL⑤ パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>様々な連携・共同で地域課題を解決していく力をつける</p> <p>TARGET① つなぐプラットフォームを整備する TARGET② 異業種/異分野がコラボレーションする場づくり TARGET③ 地区同士の助け合い、連携を強化する</p> <p>パートナーシップで目標を達成しよう ロゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標は、①～④の目標を達成することを目的とし、TARGETを3つ掲げる</li> <li>※今回のG.Wは①～④を中心に話し合い、その内容を固めたうえで、⑤についてさらに話し合うこととする</li> </ul>	<p>【まとめ】</p> <p>目標① ★出番と役割の整理 年代、男女でやりたいことは違う。そこを一緒にするのは難しく、それぞれの出番と役割を整理し、長く続けられる活動にすればいい。まずは今あるものを活かす</p> <p>目標② ★お話し合い、つながる あきらめる物事を無理にどうと決めつけず、お願ひしてみることから始める。ありがとうの連鎖がおき、お互いさまの関係性が築かれ、地域共生社会に実現につながる</p> <p>目標③ ★お話し合い、つながる ★次の一手に決める 多世代がともに集まるには難しいが、多面的に入り込む入口があれば行きやすい。さらに本格的なのは、そこからつながる次の一手である。若者の強みを活かす場づくり</p> <p>目標④ ★お話し合い、つながる 集まることで目的の場づくりではなく、対話の場づくり、話すことで知ることでできる場であること。つまり、集める手段としてICTの活用は必須</p>



◎ 第3回 黒部市第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会における調査報告（一部抜粋）

この調査は、第3回黒部市地域福祉活動計画策定委員会（11月26日）に出席された委員9名を対象に行われたグループワークの結果をまとめた

（出席委員）1グループ：岩井副委員長、佐竹委員、橋詰委員、牟田委員、橋詰委員、2グループ：松原委員長、立野委員、霜野委員 / 3グループ：大上戸委員、堀内委員、中田委員（PTメンバー）林、小倉、浜松、杉本、小柴、中野、森田、森田、飯野、坪崎、高村千

（G.Wの進め方）

1. 調査報告書及び黒部市地域福祉活動計画（概要版）を読み込み、その感想を委員とPTメンバーで3グループに分かれ話し合い、意見交換を行った。
2. 5つの目標に対し、自団体の取り組めること、他団体を巻き込むための手段・手法について3グループで話し合い、意見発表し、情報共有した。



調査報告書及び黒部市地域福祉活動計画（概要版）についての感想	自団体の取り組めること	他団体を巻き込むための手段・手法
<p>（概要版全体について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・焦点が絞られていてわかりやすい</li> <li>・色はきれい</li> <li>・15通りはたくさんある</li> <li>・一般論としてカタカナは？</li> </ul> <p>【目標とターゲットについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①住民主体の意識を育てる … 5年間の大きな課題 ⇒16地区振興会では新たなリーダーの育成、担い手づくりが必要</li> <li>②「マイノリティ」な？ カタカナわからない ⇒注釈を入れる</li> <li>③U-40？ 70代は入るの？ 文中の40歳以下ではなく49歳以下に訂正</li> <li>④パートナーシップについて… 文章内容がわかりづらい、難しい</li> </ul> <p>【3つの重点事業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉分野でのICT利活用【2】 黄色のロゴを入れたらよい</li> </ul> <p>【その他現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保育・児童生徒分野           <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、小学校は守秘義務の壁が高く、行政でつなぐ役の人がいたらよい</li> </ul> </li> <li>○地区・民生委員分野           <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の担い手の将来は誰がみてくれるのか？</li> <li>・地区社協（民生委員、慶寿会、見守り員）他の団体に浸透しない</li> <li>・認識不足（くろベネットなど事業など、見守り報告書など）</li> <li>・民生委員さん見守り員35名いるが、何度説明しても現状を理解していない</li> <li>・活動報告書などの記載ができない</li> <li>・社協専脈の事務が必要</li> <li>・主事は多くの業務がある</li> <li>・村地区は女性副会長⇒社協事業を専断に行ってもらう</li> <li>・民生委員3年1期のため、次の方に入らざるが難しい</li> <li>・避難者の把握をしていく 地区振興会＝地区社協＝民生委員</li> <li>・賑がよい事業の継続</li> <li>・要支援名簿の確認、共有しておく必要がある 民生委員は名簿把握していない</li> <li>・お互いに見守り合う</li> <li>・互いに協力しないと上手くいかない</li> </ul> </li> <li>○高齢・福祉施設分野           <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設→地域交流 保育所4、5ヶ所で行っている</li> <li>・介護教室、看護師、専門員 地区で要望があれば、専門職を派遣している</li> <li>・ボランティアの積極的な受け入れを行う 延べ1,000人のボランティア活動</li> <li>・機器（車椅子など）の貸出</li> <li>・遊樂所（その場に応じた施設へ遊樂）地域に出向いて</li> </ul> </li> </ul>	<p>○高齢・福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③すべての人々に福祉を           <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かあった時、災害などの人を助けられるのか？他人のままで手を差し伸べられる？</li> <li>・娘や息子と同居している必要と要支援者外れる</li> <li>・障がい者等、老後としてどこまで関わればよいか、線引きしていいか難しい</li> <li>・お互いさまの支え合い…<b>遊樂体制を整える</b></li> </ul> </li> <li>④すべての人々に福祉を⇒③にも結び付く⇒どう話し合って理解して後継分担していくか</li> <li>○地区・民生委員分野           <ul style="list-style-type: none"> <li>①活動人口を増やそう</li> <li>・支え合い事業、今後必要 しばり等は考えて検討していけばよい</li> <li>・「安心ポケット」、「くろベネット」、「遊樂行動事業」</li> <li>・公民館を拠点に小さな公民館を区ごとに支え合い事業を</li> <li>・慶本のような住居が確保している地域は</li> <li>・支え合い事業⇒村地区は全町内区で考えている</li> <li>今後、全地区でやれる地区でしていけば 普及地区は始めている（財産区）</li> <li>・福祉だけで済まない</li> <li>・各団体からの要望は100%お金を出している（体協等）⇒人は難くない</li> <li>⇒その中で3〜4人習ってほしい、<b>活動家の育成</b></li> <li>・婦人部なし⇒女性部活用</li> <li>・ボランティアの存続はそのまま⇒若い人は同じメンバーばかりなので入りにくい</li> <li>⇒次世代の団体をつつ作る、年齢層で分ける、<b>核のつながりを作る</b></li> <li>・<b>住民主体の活躍を意識していききたい</b></li> <li>・やっていることをたくさん紐づけて充ててみる</li> <li>⇒このこと組んだらもつよよいものではないかということを考えていく</li> </ul> </li> <li>○保育・児童生徒分野           <ul style="list-style-type: none"> <li>③すべての人々に福祉を               <ul style="list-style-type: none"> <li>今を支える、していけること</li> <li>誰1人取り残さない支援をしていきたい</li> </ul> </li> <li>④U-40世代の力を活かそう</li> <li>福祉体験教育教育のようにより<b>まずは体験から</b></li> <li>【オブザーバーからのコメント】</li> <li>いきなり玉手は取れない 「やっよよ」はx 「こをやってよ」と具体的にどう巻き込むか具体的な作成を立てて意識していく仕事ではないかと思う</li> <li>困っている人ではなく、困った人だとみられるのも意識していく</li> <li>理解する⇒どう理解していくか</li> <li><b>つなぐ役割の人が必要</b> 触れれば 人、物すべて</li> <li>用語に詳しく言わなければならないのが5がわかれば、住民全体の理解が必要</li> <li>災害時、障がい者プログラムの必要とされている</li> <li><b>今あることから出発</b></li> <li>関心を待つ⇒参加へ うまくつなげるしくみが入ればいけるとよい</li> </ul> </li> </ul>	<p>Webで公開する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介動画（YouTube）や広報（子供たちも喜びそうなゆるい感じもいい）</li> <li>・みらいTV ⇒福祉の時間、企業訪問、紹介 活動おじやま</li> <li>・ホームページでのPR⇒すべて連携できるようにする</li> <li>・H.P.にマークをのせる</li> <li>・SNS</li> <li>・企業にステッカーなどを貼ってもら</li> <li>・ポスターをつくる</li> <li>・市報に掲載</li> <li>・福祉大会でアワードとして意識の高い企業を表彰</li> <li>・表彰する⇒活動に対する意識の高さを測る</li> <li>・見える化 モチベーション↑</li> <li>・名刺のフタ…いいアイデア</li> <li>・<b>とにかく流通 露出度を上げる</b></li> <li>・子供たちはソーシャルも好き ⇒ボランティアに参加して集める、台紙に貼る</li> <li>・ソーシャルが好きな、笑顔になれる モチモチ福祉社に入れる入口</li> <li>・認知症ポスターのオレンジリングがあるようにリングを作る</li> <li>（例）5色リング、レイバーリング、ももクロカラー等</li> <li>・胸章にする（14歳の挑戦など）</li> <li>・毎1分チ…社会福祉に関心ある方に渡す</li> <li>・災害時、災害場所へ行きたくても社協職員以外行きづらい</li> <li>⇒個人で行きたい時に1分チを</li> <li>・<b>身に着けるものがよい</b></li> <li>・福祉センターでスタンプラリーを行う</li> <li>⇒高齢者のみの利用場所でないことを子供たちに知ってもら</li> <li>・シンプリに進めてほしい</li> <li>・チェック印刷冊子が多すぎると職員の負担が増える</li> <li>⇒指標、評価 報告はシンプリに 年度末など他の報告とかがぶる</li> <li>・2年目以降にサイトを作ったって、クリックをしたら評価が出るような指導づくりを</li> <li>・メッセージ書き込みサイトなど、プロのアイデアをもらって参加型にしていく</li> <li>・小さいこと1つ1つ共有しながら、話し合いながら広めていく</li> <li>・参加できる個人を集めてグループ化し活動を広める（誰かがすべて）</li> <li>【まとめ】</li> <li>活動計画の概要版について、各分野別の代表者が多くの意見があった。どの分野も実際に地域福祉に取り組みたいとされているため、そこから新たなことに取り組むことにより、この計画を進めていくことで、核のつながりが増え、多職種、異業種とつなぐことができる。福祉活動全体の核が広がることを目指す。最後に、話し合った手段・手法の中で掲載していた内容を盛り込み、計画策定後のDo（実行）の部分を進めていければよいと考える。用語解説や修正箇所を見直し、最終調整を進めていく。</li> </ul>

地域福祉に関する現状と課題についての  
ワーキング実施報告書

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

【目 次】

1. 黒部市内ボランティア登録団体における調査報告
2. 黒部市社会福祉協議会職員における調査報告



◎黒部市内ボランティア登録団体における調査報告（一部抜粋）

この調査は、H30年度 第1回ボランティア連絡会（6月13日）に参加された31団体を対象に行われたワークショップの結果をまとめた（参加団体別紙参照）  
（W.Sの進め方）

1. 自団体の現状、想定（5年後）、良いところを書き、4つ（人／場・しくみ・拠点／資金・資源／その他）の課題にそれぞれで分類してもらおう
2. 最後に自団体の理想（こうなりたい、目指すところ）を聞く



分類	●人に関すること	●物（場・しくみ・拠点）に関すること	●金（資金・資源）に関すること	●その他
現状（団体の課題や不安）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が高齢化している</li> <li>・若い会員が不足している</li> <li>・男性会員が少ない</li> <li>・新規会員が増えない</li> <li>・役員になる人がいない</li> <li>・若い役員がいない</li> <li>・事務担当者がいない</li> <li>・企画者がいない・少ない</li> <li>・年齢層に偏りがある</li> <li>・自主的な参加者が少ない</li> <li>・活動が趣味だけに限っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋やレールにしばられ活動しにくい</li> <li>・規制が厳しくなっている</li> <li>・ボランティアが仕事の区別がつかない</li> <li>・活動時間が勤務時間と重なる</li> <li>・活動する機会が少ない</li> <li>・役動がマンネリ化している</li> <li>・組織作りがうまくいっていない</li> <li>・活動内容がわかっただけで、理解がない</li> <li>・活動手段（二重）がわからない</li> <li>・情報が集まることがない</li> <li>・デジタル化についていけない</li> <li>・1人でたくさん業務を抱えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会費運営のため会員数減ると資金不足となる</li> <li>・会員の減少による会費(予算)不足</li> <li>・活動経費が不足している</li> <li>・資金集めに苦労している</li> <li>・活動する資金が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や会合が多い</li> <li>・地域との交流が少ない（連携不足）</li> <li>・地域へ出て行けない</li> <li>・移動手段がない</li> </ul>
想定（自団体の5年後）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数が激減している</li> <li>・利用者が激減している</li> <li>・役員の受け手が減る</li> <li>・ボランティア意識の低下</li> <li>・やられていく感じが増える</li> <li>・それぞれの施設で温度差が生じる</li> <li>・体力が衰え活動が困難となる</li> <li>・活動ができなくなる</li> <li>・活動する体力がなくなる</li> <li>・家族の高齢化</li> <li>・高齢になり引退している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動する場が減っている</li> <li>・移動手段がなく活動が困難</li> <li>・少子化により活動する場が減る</li> <li>・提出書類がさらに複雑化している</li> <li>・デジタル化についていけない</li> <li>・事務作業(振込書類等)が複雑化している</li> <li>・活動への理解が希薄している</li> <li>・活動の要求が増えている</li> <li>・活動拠点が老朽化し解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金集め</li> <li>・資金源</li> <li>・予算と人員の減少</li> <li>・活動財源が不足し休止または解散</li> <li>・活動の場が古くなり、修理にお金がかかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボラ内容の理解度</li> <li>・地元の振興会との連携不足</li> <li>・環境への取り組み（不用品の再利用）</li> <li>・高齢のため交通事情の時は活動をやめる</li> </ul>
理想（目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が育つていき活動内容が豊かになる</li> <li>・現役員と同じ意識を持った若手が出てくることに期待する</li> <li>・役員を増やす</li> <li>・若手役員（リーダー）を増やし活動の幅を広げる</li> <li>・会員の若返りを図る</li> <li>・全町内にボランティア会員をつくる</li> <li>・会員数を増やしていきたい</li> <li>・幅広い年代でまちづくりを楽しむ</li> <li>・男女の活動者が半々くらいでバランスよく</li> <li>・登録団体（個人）を黒部市の人口の1割を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の活動を維持していきたい（活動を増やさない）</li> <li>・活動者を増やすための研修会等を増やしていきたい</li> <li>・ボランティアを広く理解してもらおう</li> <li>・地域や他団体との連携を密にしていきたい</li> <li>・リーダーを増やし交代できるように</li> <li>・地域との連携を取り、もっと活動の範囲を広める</li> <li>・活動をもっとPRしていきたい</li> <li>・地域の方とたくさん交流していきたい</li> <li>・人が集まれる、開かれた場所があればいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史を掘り起こしていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に喜んでいただける活動をしたい</li> <li>・子供連や町づくり、社会問題に立ち向かいより良い黒部に活動を通して子育ての楽しさを伝えていきたい</li> <li>・取り巻く人々を幸せにしたい</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員が皆協力的で仲良しである</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> <li>・頼られる、感謝される</li> <li>・人を思いやる気持ちが育つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と関わりがもてる、他団体と交流できる</li> <li>・人助けができる、やりがいを感じる</li> <li>・色んなことが学べる</li> </ul>	<p>【まとめ】 団体の現状（課題）について、ほとんどの団体が会員が増えない、5年後には活動者が高齢となり、会員の減少が想定されると感じていた。さらに、人に関する課題以外に、活動に対する理解不足や活動のマンネリ化、組織作りがうまくいっていないなどの課題も上げられた。今後は、若い会員や若手のリーダーを増やすことを目標とし、そのために、活動者を増やすためのしくみづくり、人が集まるための場づくりが必要であることがわかった。</p>	



●黒部市社会福祉協議会職員における調査報告（一部抜粋）  
この調査は、黒部市社会福祉協議会職員全体会議（7月24日）において社協職員24名を対象に行われたワークショップの結果をまとめた（W.S.の進め方）

1. 近年増えてきている課題、5年後を想定して増えたと感じる課題を上げ、4つ（人/場/しくみ/拠点/資金/資源/その他）の分野に分けてもらう
2. 最後に自団体の良いところを聞く

分類	(高齢者及び介護者に関する問題)	(地域における問題)	(自団体における問題)	(高齢者及び介護者に関する問題)	(地域における問題)	(自団体における問題)	(高齢者及び介護者に関する問題)	(地域における問題)	(自団体における問題)
現状	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差
近年増えている	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差
課題	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差
不安	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差

分類	(高齢者及び介護者に関する問題)	(地域における問題)	(自団体における問題)	(高齢者及び介護者に関する問題)	(地域における問題)	(自団体における問題)	(高齢者及び介護者に関する問題)	(地域における問題)	(自団体における問題)
現状	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差
近年増えている	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差
課題	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差
不安	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者が認知症になった ・介護サービスで困っている人が増えている ・家族の介護負担が大きい ・介護費用が高額で負担が大きい ・介護サービスの不足	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差	・高齢者の増加 ・介護サービスの不足 ・介護費用の高額化 ・介護サービスの質の低下 ・介護サービスの地域格差

良いところ

- ・たき入りの人を受け入れることができる
- ・人脈が広がった
- ・サービス事業所の方と顔見知りになり相談しやすくなった
- ・地域のキーパーソンとのつながりがある
- ・多職種の連携が強く来た
- ・他団体との連携増
- ・仕事で満足感が得られる
- ・「あがり」がなくなった
- ・感謝される
- ・役員の意識高い
- ・色んなことが学べる
- ・相談できる人がいる
- ・課を超えて話し合える
- ・みんなできず場が和んだ
- ・助産師年増
- ・20年前に比べ職員増
- ・若い世代の職員がいる
- ・先輩職員みんな親切
- ・女性が多い
- ・趣味維持できている
- ・仲良し
- ・職員の年代バラバラできた
- ・地域で支える意識が強く来た
- ・地域に密着した支援ができる
- ・高齢者はみんな優しい（密着している）
- ・介護者自身が身についた（身内で実践できる）
- ・ケースと関わることで自分の幸せ、人生の価値がわかる
- ・色んなアドバイスが聞ける
- ・やがたがある仕事と思う
- ・給料が少しずつ上がった
- ・処遇改善ももたらせる
- ・定期的な収入
- ・市の補助金が入ってきている
- ・補助金に守られている

まとめ

日頃から、地域や在籍福祉に開かれた専門職の目から見たも  
地域における課題が顕著化し、家族関係の希薄化などが深刻  
な問題となっていると強く感じていることが伺える。  
支える側より支えられる側の人が多くなり、今後、御居や  
核家族が増える中、人の問題は大きく課題となつてきている。  
在宅支援者に関しては、若手職員の不足、現場職員の  
危機を感じている。  
課題も多い中、現場においては、世代間のバランスが取  
れていることが良いところがあり、いろいろな人と話せること、  
アドバイスが聞けることなど、人とのつながりが強く、良い  
職場であると感じている人が多かった。

地域福祉に関する現状と課題についての  
ヒアリング調査報告書

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
【事務局】社会福祉法人黒部市社会福祉協議会



## 【目次】

(実施団体)

・ 地区社会福祉協議会（全 16 地区） .....	1
・ 黒部のとびら（移住者団体） .....	17
・ NPO 法人 宇奈月自立塾 代表.....	18
・ 富山県立桜井高等学校 元生徒会執行部.....	19
・ 地縁型ボランティア活動支援者団体（全 16 地区） .....	20

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月25日(火) 10:00~11:00
実施団体	生地地区社会福祉協議会
人数	3名(石崎地区社協長、漆間自治振興会長、川尻主事)
聞き取り	(浜松)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 7区 世帯数 1,538世帯 人口計 3,867人(男:1,884人 女:1,983人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併当初は7,000人の人口がいたが、現在は3,900人を切っている</li> <li>・コミセンはまち歩きの方や観光客がよく訪ねてくる</li> <li>・小学校の合併、今後どうなるか…</li> <li>・学校との連携が取れている</li> <li>・コミセンに専門的な相談が入るが、市社協へつなぐようにしている</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在生地は7地区で、大町、阿弥陀堂は高齢化率が高いため、祭りの当番はできないと言われている⇒2町内合同で行うなどの工夫が必要</li> <li>・くろベネット、避難行動があり、民生委員が混乱しているため、様式を統一するなど工夫してほしい</li> <li>・村椿と生地の境目は高本自動車だが、境目の方は希望をお聞きして「生地にしたい」と言われれば、生地の敬老会に出ていただく</li> <li>・3か所で石田みどりさんの体操を行っている ⇒自分の町内関係なく行きやすいところへ参加することができる</li> <li>・「コミセン」(8:30~21:00)の利用率は高く、利用予約の黒板がすぐに埋まってしまう</li> <li>・サークル等でコミセンを使われている方の発表の場を作っている</li> <li>・老人クラブは全部にあるが、壮年会は現在四十物町にしかない</li> <li>・ボランティア部会はあとからできた、以前からボランティア活動は行われてきた</li> <li>・「潮風センター」は個人でボランティアとして入っていただいている</li> <li>・「潮風センター」と小学生との交流会、こども園との交流会を行っている</li> <li>・男性はパークゴルフをしている人も多い</li> <li>・リーダーは自分の次をしっかりと決めていく</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「潮風センター」の継続が心配</li> <li>・バスに乗り損ねた人への対応</li> <li>・若手の親世代が頑張るので若手の発掘ができていない…どのように工夫していくか</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミセンを中心として人が集まる</li> <li>・顔を合わせて話す機会が多い</li> <li>・寄付が多い</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての世代に地域に参加してほしい</li> <li>・生地幼稚園の跡地をどう利用するか、メンテナンスのことも考えて…</li> <li>・高岡屋のような場があれば良い</li> <li>・防災ラジオについて、アナログからデジタルへ</li> </ul>
まとめ	<p>コミセンを中心に様々な活動が行われている生地地区。活動をより活性化するための工夫がなされ、活動者が活動しやすいしくみづくりができています。また、高齢者にとっては、ボランティア活動者の協力により、多くの方が活動に参加できる体制が築かれ、地域の子供たちとの交流も大切にしています。さらに、観光客も多く中心部が賑やかな印象をうけるため、これを強みに更なる地域活性につなげていければよいと考えます。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年10月5日(金) 13:30~14:30
実施団体	石田地区社会福祉協議会
人数	4名(能登地区社協長(兼自治振興会長)、篠崎副会長、羽柴ボラ部会長、中野まちづくり推進員)
聞き取り	(中野)(佐渡)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 7区 世帯数 2,588世帯 人口計 5,996人(男:3,050人 女:2,946人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の方から、町内会費を払っていない人をくろベネットの対象者にしてよいのか今後どうしていけばよいのか、手厚く支援すべきなのかと意見が上がっている ⇒くろベネットは支援すべき困っている人を助けることなので、声掛けや避難訓練等にも参加を促している</li> <li>・町内会費を払っていない人には、広報誌を配布していない</li> <li>・11/4に防災訓練を実施する(防災士7名)⇒訓練の計画から参加してもらう何事も自主的に活動していく、段取りしすぎるとダメ</li> <li>・福祉課との連携をもっと密にしてほしい(くろベネットと避難行動要支援者等)</li> <li>・福祉関係としてよく似ている福祉課と社協を、一つの窓口にしたらよいのでは</li> <li>・市社協が地区の個別支援のことに対し相談があった場合、地区社協にも知らせてほしい</li> <li>・町内会長の仕事が増えすぎている、負担が大きい⇒なり手がなくなる</li> <li>・青年団組織がない</li> <li>・壮年会はあるが、地域活動は個人が判断 組織では特に活動ない</li> <li>・民生委員も負担が大きい</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の仕事がどんどん増えてきているため、なり手がいなくなると不安</li> <li>・40代以下の方に地域活動にほとんど関わってもらっていないので、若い世代をどう巻き込むか、組織のあり方を考えていく必要がある</li> <li>・くろベネットのゴミ出しなど、頑張りすぎると次に交代する人がその頑張りを引き継がないといけなると考え大変であるため、どこまで関わっていけばよいか難しい</li> <li>・今ボランティアで活躍している方がいなくなったら、次世代がいなくてピンチ参加はしたいけど、お世話はしたくない、上に立ちたくないという人が多い中で、活動をどのように継続していくべきか</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強制ではなく、自主的に活動してもらっている</li> <li>・会議は日中に行っている(まちづくり推進員の負担軽減)</li> <li>・役員皆がんばっている</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40代以下の若い世代の人に地域活動に参加してもらえるようにしたい</li> <li>・強制ではなく、自主的な活動者を増やしていきたい</li> <li>・地区社協と市社協の連携を強めていけるしくみづくり</li> </ul>
まとめ	<p>町内の困りごとを解決していくための支援にどこまで関わっていけばよいか、町内からの意見も多い中で、活動参加には自主性を大事にしていきたいと望んでいる。現活動者は積極的で頑張る方が多いが、一方で、次世代の活動者が不足し、不安を抱えている。福祉分野の課題が複雑多様化している中で、地域を守る意識を若手に引き継いでいくためのしくみづくりを考えていく必要がある。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年10月2日(火) 9:30~10:30
実施団体	田家地区社会福祉協議会
人数	4名(田村地区社協長(兼自治振興会長)、中谷まちづくり推進員、吉村食改会長、大窪ボウ部会長)
聞き取り	(中野)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 8区 世帯数 1,043世帯 人口計 3,093人(男:1,508人 女:1,585人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田んぼの持ち主がいらない</li> <li>・農業の跡継ぎいない</li> <li>・結婚しない人も多い</li> <li>・5年後は更に一人暮らしが増え、60歳~70歳の方は親の世話をしている</li> <li>・障がい者世帯を中々把握できない⇒別に困っていない?か、隠したがつている?か</li> <li>・住民も自分と同じ世代の人とは助け合えている、近所づきあいが1番</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボウ部に新しい会員を増やしたいが、最近の人はギリギリまで働かれるので、退職する頃には身体が元気でなくなっている(現在78名登録)</li> <li>・70歳まで働いているので役員のなり手がいない</li> <li>・自分の住んでいる地区の公民館が遠く、他の町内の公民館の方が近かったりする</li> <li>・支え合い事業も公民館が遠い行きづらいため、空き家なども利用できたらいい</li> <li>・男性は人の集まる所に行きたがらない、付き合いがない ⇒若いうちから役員をすれば付き合いができる</li> <li>・現在の「支え合い」は良い取り組みだが縛りが多い</li> <li>・木曜カフェ 75歳以上の参加</li> <li>・男性の料理教室参加者が減ってきている</li> <li>・くろベネットがなくても自然に見守りが出来ている時もある</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員のなり手がいない</li> <li>・一人暮らしの人の安否確認の方法</li> <li>・台風の時など気軽に身を寄せる場がほしい</li> <li>・引きこもりや障がいを持った人の把握が出来ず、災害があった時の対応が心配</li> <li>・「困った」声があってもどこに言えば解決するか住民はわからないと思うので、公民館に目安箱の設置を検討 ⇒社協から他の地区の良い事例があれば教えてほしい</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供や若い人を巻きこもうとする意欲がある</li> <li>・役員同士仲が良い</li> <li>・子供たちが卓球をしに公民館へ来る(子供が集まる場づくり)</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「困った時は公民館へ!」を徹底させたい</li> <li>・中高生の学習スペースとして公民館を使ってもらいたい!他の地区の子供たちにも</li> <li>・歩いている人に「元気?」と声を掛けられる地域にしたい</li> <li>・支え合いをもっとシンプルに、もっと気軽に住民で集まれる仕組みを取り入れたい</li> <li>・誰もがサロンのようなものに参加できるようにしたい</li> <li>・一人で居たい気持ちも大切にしつつ、人とのつながりも楽しいものと知ってほしい</li> <li>・日頃から助け合える人間関係を築いている人が多いが、人の輪の中に入っていきのが苦手な人の支援やつながり方を考えていきたい。</li> </ul>
まとめ	<p>これまで地域活動者として活躍してきた60~70代世代は、今後、定年も伸び、仕事や親の介護等が必要となり、地区においては、担い手問題を深刻に考えていかなければならない。子供と一緒に親世代も巻き込み、地域活性につながるようなくみづくりが必要と考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月27日(月) 10:00~11:00
実施団体	村椿地区社会福祉協議会
人数	3名(大上戸地区社協長(兼自治振興会長)、村田ボラ部会長、島まちづくり推進員)
聞き取り	(浜松)(佐渡)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 6区 世帯数 955世帯 人口計 2,829人(男:1,389人 女:1,440人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口は現状維持できており、世帯数が若干増えている。特に吉田地区に転居してくる方が多い。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動団体として、ボラ部会、慶寿会、更生保護、体協、農業委員、商工会、PTA、小学校、保育所、消防団がある。</li> <li>7町内それぞれの色があり、行事は町内によって様々である。</li> <li>1町内(荒俣地区)で、週1回支え合いサロンを実施し、30名くらい参加している。</li> <li>ボランティアで配食サービス(おはぎ)を実施し、見守りを行っている。(年3回)</li> <li>ボランティア部会の会員数は微増している。退職者が多い。</li> <li>集いの場に民生委員が参加し、困りごとがないか情報収集している。</li> <li>婦人会は、若い人も半強制ではあるが関わっていたが、婦人会がなくなったことで、グループづくりが難しくなっている。</li> <li>若い人が出る場がなかなかない。</li> <li>地区行事として敬老会があるが、町内によっては敬老者が役員となって世話をしている。不満に思っている人もいる。</li> <li>敬老会の声かけも町内によって様々である。地区によっては、婦人部、役員の妻が女性の役割部分を担っている。(吉田地区)</li> <li>慶寿会がなくなった町内(大開、六天)がある。リーダーの成り手が不足し、継続できなくなったことが要因である。</li> <li>リーダーが不足し、職をいくつも重複している。</li> <li>買い物が不便になってきている。車がなければ買い物にいけない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員はいるが、役員になりたがらない。役員の担い手をどう育てるか。</li> <li>トップに立つ人が少なくなってきた。リーダーとなる人材を育成(発掘)したい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化(荒俣地区:獅子舞保存会)が守られ、男性が中心となって活躍している。</li> <li>男性の参加者がたくさん集まる活動が盛んである。</li> <li>奉仕活動(荒俣海岸清掃、生地駅清掃等)が活発に行われている。</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域支え合い事業を村椿地区全町内でできるように、理解者を増やし、民生委員だけでなく、住民全体で見守り、支えていきたい。</li> <li>後継者をつくるために、若い世代に少しずつ意識を植えつけていきたい。</li> <li>協力体制の強化、リーダーを増やし、新しいことにもチャレンジしていきたい。</li> <li>一部の役員だけでなく、みんなで考えていける地域を目指していきたい。</li> <li>遠慮なく集える場所が必要</li> </ul>
まとめ	<p>地域活動支援者が増え、地域支え合い事業にも積極的に取り組んでいるが、その一方でリーダーとなる人材の不足により、存続が難しくなっているものもある。今後は、若者の参加、出番を増やし、地域づくりをみんなで考えていき、将来を担う新リーダー、後継者を育て、つなぐことが大事であると考えている。さらには、みんなが集える場づくりも検討していきたい。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月19日(水) 14:00~15:00
実施団体	大布施地区社会福祉協議会
人数	3名(松原地区社協長(兼自治振興会長)、島崎まちづくり推進員、藤澤民生委員)
聞き取り	(佐渡)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 10区 世帯数 2,211世帯 人口計 6,208人(男:3,124人 女:3,084人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口約6,200人で、近年、若者の移住者が増え18歳以下人口が1,220人、高齢化率も22%と黒部で最も低い。</li> <li>・大規模小学校、大型店舗や基盤が通っていることから転入者が多く、人口は毎年増加している。現在も宅地造成が進んでおり、更に増加傾向にある。</li> <li>・人口増減は、町内会間にばらつきがあり、増加4町内会、同水準で推移2町内会、減少傾向4町内会と格差が顕著となっている。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振興会では、重点目標を定め活動している。</li> <li>・地区行事は、振興会、公民館との共催事業が多い。民生児童委員、老人会、体協、ボランティア、児童クラブ、保育所、幼稚園、女性団体等各種団体に呼びかけ、実施している。</li> <li>・行事を通して地域住民の一体感の醸成、絆の進化に努めている。</li> <li>・婦人会に代わり、振興会女性部約80名が各行事に係り活動している。</li> <li>・「安心ポケット事業」、「くろベネット事業」、「避難行動要支援者事業」を民生児童委員、町内会長とは、定期的に会合や研修会を行い、課題の共有、知識の研鑽に努めている。</li> <li>・毎月1回出前講座を実施している。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の育成、未来の活動者育成の場であった青年団等がなくなり、担い手の育成に苦慮している。</li> <li>・地区役員は、任期(2年)が来ると一斉に交代する傾向にあり、活動の改善や発展に支障が生じている。</li> <li>・地域福祉が多様化する中で、専門性に弱い部分があり、課題解決がうまくいかない場合がある。</li> <li>・地域の実態を常に的確に把握する必要がある。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的に連帯感や絆が強い。また、転入者も気軽に地域に溶け込んでいただいております、行事への参加者も多い。</li> <li>・各種団体との連携、協力関係が極めて良好である。また、各種行事への動員力が優れている。</li> <li>・若者が比較的多く、総体的に活力ある地域である。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安心ポケット事業」、「くろベネット事業」、「避難行動要支援者事業」を更に充実させ、地域福祉活動の中核として進めていきたい。</li> <li>・自然災害発生時、人的被害を最小限に食い止める体制づくりの構築。</li> <li>・今後、各町内会間の人口格差や高齢化率が顕著になっていく。それぞれの町内会の実態にあった福祉施策を考えていく必要がある。</li> <li>・外国籍の人が転入してきたときの対応</li> </ul>
まとめ	<p>今後ますます重要かつ多様化する地域福祉を住民一体となって推進し、安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指す。更に高齢者も若者も元気で活気あふれるまちづくりを進めていきたい。これらの活動の中心となるリーダーの育成に全力を傾注したい。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月20日(木) 11:00~11:50
実施団体	三日市地区社会福祉協議会
人数	4名(荻野まちづくり推進員、菅野ボラ部会長、中田美民生委員、谷口公民館長)
聞き取り	(佐渡)(高村彩)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 10区 世帯数 2,132世帯 人口計 5,323人(男:2,586人 女:2,737人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地域の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は右肩下がり(10年以上前は6,000人⇒今は5,300人)</li> <li>・子供も少しずつ減っている。三日市の寺町、栄町、東三日市の子は中央小へ行く。</li> <li>・家が建たない。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な団体はたくさんあるが、会員数は増えない、高齢化が進んでいる。</li> <li>・三島町は、若い人の参加が多い、昔からのやり方を引き継いでいて、40代の人が入れば友達も誘ってくれる。</li> <li>・25年間続く、お達者クラブでは、町内に住む高齢者と役員が楽しく活動でき、活動を通して、何かあった時の助け合いの関係をしてくれるよう心がけている。</li> <li>・お達者クラブでは、活動を一緒に楽しんでからご飯を食べていたが、受益者負担、食材系の活動が見直されていることで、「自分達がやってきたことは間違っていたのか?」と感じる。今後の活動を考え直す必要はない。</li> <li>・学校型の座学だけでは役員も参加者も集まらなくなって、戸惑っている。ボランティアする楽しみ、集まる楽しみがあったのに、楽しみがなくなって運営が成り立たなくなっていく。やり方が変わってくるのも仕方ないけど、運営側の立場も考えてほしい。集まる事で何かあった時の助け合いの関係ができていた。</li> <li>・防犯ボラ(11町内、45人+各種団体、民生委員、振興会)は会員が増えない。魅力が少ない。仕方なしにやっている。4人1組で、その日の都合で柔軟に活動しているが、回る日と下校時間が一致するとは限らない。</li> <li>・ある程度の自由を設けて活動させてほしい。(制限が厳しくなるとボランティアのやる気がなくなる)</li> <li>・町内会からの補助金だけでお達者クラブをした方が楽という声も出ている。</li> <li>・民生委員の定例会の時に、各町内の悩み事を共有し、細かく地区社協に報告してくれる。長く続けられる人は、世帯の様子を把握している。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員は問題を1人で抱え込み、悩みを言えるはけ口がない。何でも気軽に話せる場が定例会以外にも必要ではないか。</li> <li>・孤独死があった時にどうしていけばよいか、地区の事務局として悩んでいる。</li> <li>・民生委員やチーム員に負担をかけないように、くろベネットをやらなくてもいいように、自然な形(お達者クラブやボラ活動)で住民同士のつながりをつくりたい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力者が多く、活気があって楽しい。</li> <li>・ボラ部会、民生委員など各団体の組織基盤がしっかりしている、連携しやすい。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事の時に車椅子の人を助けられるように大人向けの車椅子体験研修をしたい。</li> <li>・避難行動、経路の確認を町内単位でやりたい。</li> </ul>
まとめ	<p>世帯数は減ってきているが、市内では2番目に人口が多い三日市地区。町内単位の活動がそれぞれの町内で活発で、組織体制も確立され、連携がとりやすい関係性が保たれている。世帯は多いが、町内毎の年代別比率に差が出てきているため、支援する側の負担も、町内によって格差が出てきている。また、ボランティア活動においても、制限が厳しくなり、運営していく上で活動者のモチベーションが上がる場やしくみづくりを今後、全体で共有していく必要があると考える。</p>



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る

ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月7日(金) 10:00~11:00
実施団体	前沢地区社会福祉協議会
人数	3名(舟子地区社協長(兼自治振興会長)、杉本まちづくり推進員、朝倉さん(ボランティア前沢代表))
聞き取り	(佐渡)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 10区 世帯数 767世帯 人口計 2,361人(男:1,147人 女:1,214人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、男性ボランティア、女性ボランティア、食改(2名)、延楽会の4つの団体が活動している。延楽会は近年、減少傾向である。</li> <li>・地区の人口は、毎年数人単位で増えているが、全体でみると横ばいである。</li> <li>・町内は全13町内あるが、中には5~6軒の町内もある。</li> <li>・保育所の子供は増えていて、前沢以外に大布施や田家野の子供達がいる。</li> <li>・小学校の統合により、小学校内に前沢の子供達が何人いるのか把握できていない。</li> <li>・小学校へはスクールバスも通っている。</li> <li>・未婚男性もちょこちょこいる。</li> <li>・現状、買い物難民は見られないが、将来的には困る人が出てくるだろうと思う。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア前沢(男性ボラ)では、週2回防犯青パト対として巡回している。各町内で動員し、集まらない場所は指名している。その他、除草活動や通学路の除雪活動なども行っている。(除雪隊5~6名)平均すると月2回ほどの活動している。</li> <li>・4つの町内で月一回、前山町内は週一回、サロン活動(体操など)を実施している。</li> <li>・今は活動出来ているが、次世代が担ってくれるかはわからない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市から補助金をもらうとなると報告や事務処理が大変であるという理由からサロンの解散につながるため、もう少し簡単にならないか。</li> <li>・団体の役員のみならず手がなく、役員を決める時にもめることが多い。民生委員の選出も難しく、今後の大きな課題である。</li> <li>・若い世代に活躍してほしいが、60代はまだ働いていて、ボランティアに誘い込むのは大変である。また、60代~70代になると事務作業の大変さから拒否されることもあるので、事務作業が軽減できる方法はないか。</li> <li>・前沢カンナロードは、伝統ある活動でこの先も継続していきたいが、花壇の手入れ等、大変手間のかかる活動でもある。担い手も不足している中、今後どのように後継者につないでいけるか考えていく必要がある。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性ボランティアと女性ボランティアの関係が良い。</li> <li>・男性ボランティアの活動が活発である。</li> <li>・夏祭り、カンナロードは地域の人が多く集まる。(保育所、児童会を巻き込むと親、祖父母も来る)</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年後に担い手がゼロにならないよう、今のうちに声をかけている。</li> <li>・地域行事は若い世代や子供が集まる日に変更していくなど工夫していきたい。</li> <li>・地理的に難しいこともあるが、サロンを全部の町内でやりたい。</li> <li>・無理なく、難しくなく方法で補助をもらって活動を続けやすくしたい。</li> </ul>
まとめ	<p>青パト対やカンナロード等、地域に根づく活動を今後も継続していきたい思いが強い前沢地区。そんな中、活動への協力者、参加者は多いが、役員のみならず手がいないことが今後の不安要素であり、大きな課題であった。無理なく、難しくなく方法で活動を継続していけるような人づくり、しくみづくりを考える必要がある。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月20日(月) 13:30~14:30
実施団体	荻生地区社会福祉協議会
人数	3名(松島地区社協長(兼自治振興会長)、大辻副会長、結城事務補助員)
聞き取り	(浜松)(佐渡)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 12区 世帯数 1,184世帯 人口計 3,365人(男:1,628人 女:1,737人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会長は2年で変わるので、地区で聞いてきたことを町内単位でしっかり伝達して行ってほしい。</li> <li>・月に1回の地区活動で様々な事業を行っている。地区活動には民生委員も多く関わっており、民生委員活動にもつながっている。</li> <li>・地区行事に、福寿会(老人会)、ボラ部会、女性の会、PTAなどに協力を呼びかけ各種団体と協力して行事を進めている。</li> <li>・くろベネット事業の移行もスムーズにでき、それによって町内会長と民生委員との連携も良くなっている。</li> <li>・防災の関係も、分団ごとに集まって決めて動いている。</li> <li>・地域課題を解決するために、それぞれの民生委員の抱えているケースを共有するように心がけている。</li> <li>・民生委員の情報は、地区社協、町内会長にその都度伝えている。</li> <li>・リーダー間での連携がとりやすく、お互いが聞きやすい環境づくりを大事にしている。</li> <li>・順番制のものには、必ず若い人に参加してもらえよう工夫している。</li> <li>・地区での経費は、企業に寄付金を募っている。(荻生地区の広報に掲載)</li> <li>・子供のみこし、祭りの維持に地区から助成している。</li> <li>・「地域支え合い事業」は、お金の使い方に制約があるため、行う予定はない。毎週は厳しい。</li> <li>・月1回の集いは地区からの助成で賄っている。</li> <li>・地区社協と民生委員との情報交換会を年に1~2回実施し、交流を図っている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活発に動くリーダーがいなくなった時のことも見越していく必要がある。</li> <li>・ボランティアのリーダー的な人の育成が困難。後継者づくりをどうするか。</li> <li>・任意のものに関わる人が減っていて声かけが難しい。どのように継続していくか。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協、民生委員、町内会との連携がとれている。</li> <li>・活発なリーダーが多く、新事業への取り組みがスムーズに行われている。</li> <li>・地域支援者同士が集まる場、話す場をつくり、情報共有できるしくみづくりができている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい町内単位で支え合っていく意識づけをしていきたい。</li> <li>・少しずつでも課題を見つけ、解決に向けて模索しながら進んでいきたい。</li> <li>・若い人の参加、後継者(担い手)が育つことを願う。</li> </ul>
まとめ	<p>地区社協、民生委員、町内会との連携体制の構築に努め、小さな町内単位で支え合っていける地域づくりへの取り組みが進んでいる。今後は後継者の育成、後継者にバトンをうまく渡すためのしくみづくりが必要であると考えます。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月25日(月) 16:00~17:00
実施団体	若栗地区社会福祉協議会
人数	2名(平野地区社協長(兼自治振興会長)、吉野まちづくり推進員)
聞き取り	(浜松)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 10区 世帯数 738世帯 人口計 2,185人(男:1,058人 女:1,127人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線通ったが、人口は増えてはいない</li> <li>・黒部宇奈月温泉駅が出来たことでタクシーの利用が増えた</li> <li>・地区に個人情報を探求してくるが、こちらには情報がない</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアとして様々な場面で活動されているが、年齢が低くなることはない</li> <li>・行事には若い人達も参加する、子供を連れてきてくれる</li> <li>・松桜閣をある程度引き継ぐ人がいないと…</li> <li>・行事に出る人は同じ顔触れである</li> <li>・敬老会対象者が300名いる⇒対象年齢を少しずつ上げていってほしい</li> <li>・子供たちや若者世代にお金を使いたい</li> <li>・災害時のペットの問題など、災害に対する具体的な備えを振興会で準備するべきではないか</li> </ul> <p>(くるベネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所へ行けばわかることを民生委員に調べさせることに疑問を感じる</li> <li>・地区内での情報共有をもう少しがんばる必要がある</li> <li>・共有する仕組みを作ってほしい</li> <li>・外部から引っ越ししてきた人と会う機会が少なく、誰なのかわからない</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線駅ができたが、賑わいを感じないので周りをもっと賑やかにしてもらいたい</li> <li>・新幹線駅ができてタクシーの利用客が増えたので、ロータリーを開放してほしい</li> <li>・若い担い手を育てていかななくては</li> <li>・災害が起きた時の行動マニュアルがほしい</li> <li>・社協、福祉課、健康増進課…色々あってわからない?わかりやすくしてほしい</li> <li>・補助金をもらうためにプレゼンテーションは必要か、そうではなく逆だと思ってお金をもっと使いやすくしてほしい</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動が盛んである</li> <li>・行事に若い人たちの参加が多い、子供もたくさん参加してくれる</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にはない若栗の良さを伸ばしたい</li> <li>・人口が減ってきているので、それに併せて行事の見直しを検討していきたい</li> <li>・安心して暮らせる町づくりを目指すことが人口増につながる</li> <li>・若栗独自で「若栗ネット」でやろうと考えている</li> <li>・放課後児童クラブを改善し、誰一人断らない</li> </ul>
まとめ	<p>新幹線駅を中心に、益々地域活性化に努めていくために、地区独自の活動に力を入れていきたいと考える若栗地区。特に子育て環境の充実を図り、子供たちや若者世代が住みやすさを感じる町づくりを目指している。また、駅周辺の賑わい不足を感じ、市に対して周辺の整備、活性化を求める声も上がっている。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る

ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月28日(金) 10:00~11:00
実施団体	東布施地区社会福祉協議会
人数	2名(谷島地区社協長(兼自治振興会長)、澤田まちづくり推進員)
聞き取り	(佐渡)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 12区 世帯数 379世帯 人口計 1,123人(男:554人 女:569人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は減少している⇒5年後には1,000人を切る可能性</li> <li>・子供は地区全体で小中併せて80人ほど →スクールバスなので子供が歩いている姿は見ない</li> <li>・学童を田家に統合させたことで、東布施の子供達が使いにくくなってしまった学童にはほとんど行っていない</li> <li>・田家保育所に通っている子供もいるため、東布施保育所もなくなるのでは…</li> <li>・町内会長交代の時期は特に決まっていなかったが、2年に1回は交代している</li> <li>・毎週金曜日に小学生を対象に公民館で囲碁教室を行っている</li> <li>・尾山地区は支え合い事業が続いている(スタッフ13名) ⇒来れる人が来るというスタイルで実施している</li> <li>・買い物支援でセブンイレブンが定期巡回しているが、山手の人は昔から生活スタイルが確立されているため、意外と利用していない(家族が週末来てくれる等)</li> <li>・同じ東布施ないでも上と下で考え方が違う</li> <li>・くるベネットが始まる以前から見守り活動は行ってきた。なぜ今更記録が必要なのか…</li> <li>・防災訓練を行っているが、集合場所まで来られないこともあるので、町内単位で拠点を設けて行いたい</li> <li>・災害時の意識があまりないので、各町内会長がしっかりと住民を把握しておくよう呼びかけている</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の見守りが出来なくなってきている</li> <li>・池尻、田朶、福平は12町内あるが、廃村の危機があり、そういう地域の見守り、災害時の対応をどうするか</li> <li>・桃井さん(Dr.)も高齢なので心配</li> <li>・今行われている行事などが5年後に出来るのか…?市の体協は将来のことを考えてくれない</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が少ない分、安否確認が取りやすく、福平は公民館に住民がすべて避難できる</li> <li>・コンパクトな分、他の地区よりはコミュニケーションが取りやすく、行事への協力、参加率も高い。市内で1番かも</li> <li>・山に囲まれているため、静かで落ち着ける、海も見える</li> <li>・住民同士の横のつながりが強い</li> <li>・桃井さん(Dr.)の存在、送迎もしてくれるので安心</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しやすい行事の内容にしていきたい(地域の実情に合わせた内容)</li> <li>・若い世代が増え、考え方が変わってきているが、人と人のつながりによって引き受けてくださるので、この関係性を継続していきたい</li> </ul>
まとめ	<p>小さい地区ならではの良さが多く、地区単体で見ると連携もとれ、人と人とのつながりが深い東布施地区であるが、縦に長い地形であるがゆえに、山手と下側の距離も長く、生活環境、生活スタイル、考え方の違いが大きい。学童は合併することで不便になり、また、廃村の危機がある町内や、市全体の行事参加等、このままでは存続が難しいと思われる様々な課題に直面することが予測される。課題解決手段を地域のみならず、市全体で考えていく必要がある。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月26日(水) 11:30~12:30
実施団体	宇奈月地区社会福祉協議会
人数	4名(河田自治振興会長、坂井地区社協長、富川まちづくり推進員、大森事務補助員)
聞き取り	(小倉)(坪崎)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 5区 世帯数 280世帯 人口計 439人(男:215人 女:224人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの人が老人会に入っている</li> <li>・子供の数も減少し、高齢化率は高い</li> <li>・小さい町なので、どこに誰がいるかがわかっている</li> <li>・声掛けも、玄関先で呼ぶだけでなく部屋の中まで入って行って声を掛けてくる</li> <li>・町内会に入っていない人も多い(旅館の従業員などはわからない)</li> <li>・予算について、会員数の減少に伴い減ってきている</li> <li>・観光客もトロッコの旅行客は年々減っている⇒料金が高いと感じる</li> <li>・湯快リゾートが出来たので少しにぎやかになっている</li> <li>・自立塾との連携、旅館への雇用などはあるが地域活動への関わり、振興会への接触はない</li> <li>・「公園を愛する会」について、業者に委託して清掃している</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉街で働く人に関しては、人の出入りが多く把握していない</li> <li>・リーダーの担い手の問題、担い手を維持していくにはどうしたらよいか</li> <li>・事務量が増え負担が多い、市社協、行政からの要望が多い</li> <li>・合併するとこれまでやってきた地域活動はどうなるのか</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい町ながらの強みがたくさんある</li> <li>・新しい人の新しい視点を取り入れることができる</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が現在のリーダーのようになってくれているのか?不安</li> <li>・もっと地区全体が賑やかになってほしい</li> <li>・「こうなってほしい」という思いはあるが、具体的にどうしてよいかわからないので司令塔となる人の力でもっと賑やかな町づくりを目指していきたい</li> <li>・主事の負担を考えるならば、司令塔が必要</li> </ul>
まとめ	<p>小さい町で住民同士の関係性が深い反面、観光地という地域柄、旅館雇用者等は把握しきれておらず、地域活動への関わりも薄い。しかし、新しい人の新しい視点を取り入れていける関係性を築くことで、新たな地域づくりの実現につながると考える。</p> <p>人口が減少し、高齢化が進む中、地域活動者の負担が増え、担い手の維持が大きな課題としてのしかかる中で、司令塔となる人(コーディネーター)を要し、様々な意見を聞きながら、もっと賑やかな町づくり、観光地を目指していきたい。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月11日(火) 14:00 ~ 15:00
実施団体	音沢地区社会福祉協議会
人数	5名(佐々木地区社協長、佐々木自治振興会長、島崎まちづくり推進員、佐々木さん、佐々木きそえさん)
聞き取り	(小倉)(駒田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.7月末現在]	行政区 2区 世帯数 92世帯 人口計 201人(男:99人 女:102人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働いていない人がいる。(生活保護をもらっているかはわからない)</li> <li>・公民館の場所が新しくなり、高齢者の方にとっては遠くなってしまった。今年の猛暑のようなときに歩いてきてもらうのは心配である。</li> <li>・一人暮らし高齢者の対応が困る。認知の方で夜中騒いだり、徘徊したり、どこまで踏み入っているのかわからない。何かあれば包括や警察へ連絡するようにしている。</li> <li>・病院や買い物などは電車を利用しなければならず、また駅までも遠いために不便である。</li> <li>・老人福祉センターへはバスでないと行けないため、利用者が少ない。また、宇奈月の総湯は電車賃が高い。</li> <li>・今年の冬も消雪から水が出なかった。高齢者の方の生活にも影響するので何とかしてほしい。</li> <li>・事業の報告書が多い。行政と社協と同じ様な内容のものを作成しなければいけない。そのため行政と社協の事業で必須項目などは同じ参加者に、似た内容を複数回確認しなければならない。</li> <li>・区の単位がないので、事業の参加者はいつも一緒である。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし高齢者の対応について、どこまで関わっていけばよいか。</li> <li>・行政と社協事業で重複している部分が多く、もう少し効率的な形をとれないか。</li> <li>・移動手段がない、少ない、移動する費用がかかる。(買い物、病院、福祉センター、総湯など) 利便性の高いものがあるとよい。</li> <li>・生活課題(消雪がでない、買い物)</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何か困りごとがあればすぐに情報が入り、地域で対応できている。</li> <li>・災害時については、地区の住民の把握ができています。</li> <li>・日中に近所の人と会って話せば、新しい情報が入ってくる。</li> <li>・地区では見守りの対象者となる人の生い立ちから知っており、現状も把握できている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい公民館が地域の人が集う場となればよい。</li> <li>・老人クラブと連携して事業を行っていききたい。(65歳以上の事業)</li> <li>・買い物支援に力を入れたい。(買い物バスや移動販売の充実など、市社協からも助成金があればいい。社協のワゴン車等利用できればいい。)</li> <li>・一生涯活動できる場が地域にあるといい。</li> </ul>
まとめ	<p>高齢人口が多い音沢地区における1番の課題は、交通の便が悪く、車に乗れない高齢者の移動手段がほとんどないことが上げられる。そのため、行動できる範囲が狭く活動に参加できる人も限られている。拠点となる公民館が新しくなったことを機に、交通手段に対する利便性がもう少し改善されれば、事業参加者も増え、地域活性につながると考える。さらに、地域住民の行動範囲が拡大されることによって、地域支援者と一人暮らし高齢者、高齢世帯との関わりも益々手厚くなると考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月11日(火) 15:30~16:30
実施団体	内山地区社会福祉協議会
人数	2名(竹山地区社協長(兼自治振興会長)、松平まちづくり推進員)
聞き取り	(小倉)(駒田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 5区 世帯数 207世帯 人口計 453人(男:204人 女:249人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区人口が減っている。不安である。</li> <li>・地域住民について、若い世代の人が十分把握できていない。</li> <li>・これまでは、自治振興会と地区社協つながっていなかったが、今年から会長が兼務することになり、今後はつながりを強めていきたい。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人や男性の行事参加が少ない。</li> <li>・参加する人が決まっている。</li> <li>・地域でのつながりのために行事を設定しているが、参加者が少ない。</li> <li>・とちの実の継承者が内山になくなってしまう。</li> <li>・このままでは、伝統の継承ができない。</li> <li>・ヤンバイ映画の参加者が少ない。</li> <li>・週2回ほど魚津の魚屋さんが移動販売で地区を回っており、その待ち時間に地域の人の集まっておしゃべりをしている。まちづくり推進員も時々顔を出し、声かけを行っている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民同士のつながりを目的に地区での行事を設定しているが、参加者が少ないのが現状1番の課題である。公民館行事等での参加者を増やす方法や、行事の内容や参加者を募る方法を知り、人が集まる活動にしていきたい。</li> <li>・若い世代への交代を考えているが、若い世代の参加に向けてどう取り組むか。</li> <li>・事業の講師について、情報が不足しているため、新たな情報がほしい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりがあり、家族構成などの住民調査を行ったことで、住民の情報はおよそ把握できている。</li> <li>・空き家の情報も把握できている。</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの活動をさらに充実させる。</li> <li>・地区の垣根を越えて連携して行事をしていく。</li> <li>・公民館にたくさんの方が来てほしい。</li> </ul>
まとめ	<p>地域のつながりが強く、住民の情報網ができているが、一方で、若い世代の把握が十分できていないことから、行事参加のみならず、伝承文化の継承にも大きな影響をもたらす恐れが現実出てきている。この課題を解決していくために、地区の垣根を越えて活動を連携していくという新たな発想を展開し、事業範囲や参加対象者の輪を広げ、地域の活性化につなげていきたいと考える。</p>



第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月18日(火) 10:00~11:00
実施団体	愛本地区社会福祉協議会
人数	3名(立野地区社協長、平澤自治振興会長、橋場まちづくり推進員)
聞き取り	(小倉)(駒田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 9区 世帯数 287世帯 人口計 713人(男:329人 女:384人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者名簿の作成について、民生委員だけではなく地区防災会長で検討した方がよいのでは(地区ではこの人が?という声がよく聞かれる)</li> <li>・施設入所者の把握ができていない。(施設、社協、福祉課、地区との連携が必要)</li> <li>・名簿作成について、市役所と社協で提出する書類やデータなどを一本化してほしい。</li> <li>・地区社協と振興会とで合同で会議が行われるようになってきている。</li> <li>・振興会の組織の中に地区社協があるというように組織化していけばスムーズなのは</li> <li>・地区防災訓練で名簿と地区で選んだ人とすり合わせを行う予定。</li> <li>・くるベネットの対象者と避難行動要支援者の対象者の名簿を一本化してほしい。(災害時とくるベネットの名簿が食い違うところがある)</li> <li>・現在75歳以上の一人暮らしの全てくるベネットが対象者になっているが、民生委員や町内会長で対象者をすり合わせてほしい。</li> <li>・公民館で働いている人の事務処遇を改善してほしい。(勤務時間、給与、職員採用など)</li> <li>・介護予防に力を置いているため~教室という身構えしてしまい参加が少ない。以前のようにお楽しみの要素も取り入れやすいようにしてほしい。</li> <li>・支え合い週1回という頻度が多すぎて取り入れられない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々参加者が減り、参加していた人が年寄りになって参加できなくなってきている。一方で、参加するだろうと思っていた人が元気で忙しく参加しないという現状である。昨年度と同じ事業内容でいいのかと感じつつ、事務量が多く、事業に対して深く考える時間がない。良い地区の事例があれば教えてもらいたい機会があるといい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会で民生委員と地区会長が集まれば、住民のことはほぼ把握できている。</li> <li>・地区で10年ほど前に安否確認リストを作成している。</li> <li>・高齢化が進んでいるので、振興会の事業=社協の事業で予算付けしやすい。</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りが元気な地域へ視察に行き、地区に取り入れたい。</li> <li>・お年寄りが生き生きと楽しく過ごすための事業をやっていきたい。</li> <li>・公民館に来てもらうだけではなく、自宅へ何うスタイルの事業やサービスがあればいいのでは。(見守り員の意識向上にもなる)</li> <li>・事業について、実際に利用している人、サービスを受ける人へ市社協がアンケートや聞き取りをしてはどうか。その結果を地区へ提供して内容を見直す。地区社協が行くと立て前しか言わない。</li> </ul>
まとめ	<p>民生委員と地区社協の連携が強く、住民のことはほぼ把握できるという大きな強みを持つ愛本地区。時代の変化とともに、新たな事業展開が必要と感じ、そのための学ぶ意識も高く、高齢者が楽しく過ごせる事業を積極的に取り入れていきたいと考える。新たな取り組みに向け、市や市社協における事務作業の効率化が図られることも期待している。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月10日(金) 10:00~11:00
実施団体	下立地区社会福祉協議会
人数	3名(此川地区社協長、柳原副会長、佐々木まちづくり推進員)
聞き取り	( 浜松 ) ( 佐渡 )
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 【H30.9月末現在】	行政区 5区 世帯数 403世帯 人口計 1,051人(男:497人 女:554人)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな課題はない。くろベネット事業についてもこれまで取り組んでいたことの継続と捉えている。</li> <li>・くろベネット事業により、民生委員と地区社協の連携が強化され、今までなかった情報が地区社協におりてくるようになった。</li> <li>・民生委員が頑張っている。対応が細やかでコミュニケーションが取れている。</li> <li>・くろベネットで新しくチーム員になられた方を集めて進め方を話しする場があれば楽になるのでは</li> <li>・組織としての状況が分からないままだと不安も大きい。情報共有の場があればいい。</li> <li>・相談してもらわないとわからないこともある。ただ、相談せず隠される。相談する場所、相談しやすい場、気軽に伝えられる場、話せる場が必要。</li> <li>・行事への参加、皆協力的。清掃等、各種団体(15~16団体)に声をかけているが、男女問わず協力してくれる人が多い。</li> <li>・責任感が強い人が多い=良いところ=堅苦しいところ=担い手不足につながる</li> <li>・役員の任期が2年だから頑張れる。役員になると責任感も出てくる。</li> <li>・青年は祭りがあり、伝統を守る強い思いがある。メンバー確保にも真剣で、花代等全家庭における経済的援助もある。</li> <li>・子供はあまり増えていない。若い人にも頼みたいが、年をとった人は年をとった人に頼みがちの傾向にある。もっと若い人に浸透させていかなければ…</li> <li>・女性の会の存続が難しくなっている。</li> <li>・防災についての話し合いが活発、地区の中で体制強化されてきた。</li> <li>・冬に水災害があったが、市は災害という意識がなかった。市として災害の窓口を一本化してほしい。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8050問題が心配。地域で気になる方が今後少しずつ増えていく中で、人に言いたくない人もたくさんいると感じる。何でも話せる場づくりを考えていく必要がある。</li> <li>・除雪や雪捨て場の問題に対する対応策</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声をかけたら協力してくれる人が多い。</li> <li>・祭りをもとに地域が団結している。</li> <li>・伝統を守る、残す気持ちから青年団が活躍、OBも手伝い、役割分担ができています。</li> <li>・顔が見える関係が完成されている。</li> </ul>
これから 【5年後の地区】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い力に期待、活動や福祉への理解を促していくことが大切。仕事もあり、協力が難しくとも、知る事が大切。情報共有し、活動の実際を知る事で賛同者が増えるのではないかと考える。</li> <li>・若手の育成に取り組みたい。若い世代の理解と関わりが必要。</li> <li>・「最後は地域」リーダーとして若者を引っ張っていきたい。</li> <li>・民生委員の協力が大切と実感、役割分担、女性リーダーの活躍に期待する。</li> </ul>
まとめ	<p>地域の特徴、伝統文化を通して若い世代と協力し、地域を守る体制づくり、つながりのある地域づくりが築かれている下立地区。今後も世代や性別問わず、協力しあえる関係性を保ち、特に若手の育成に力を注いでいきたいという思いが強い。そのためにも、情報共有できる場づくりを提供し、協力者、賛同者を増やしていきたいと考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年9月12日(木) 13:30～:14:30
実施団体	浦山地区社会福祉協議会
人数	4名(神子地区社協長、沢田自治振興会長、新保民生委員、岡田まちづくり推進員)
聞き取り	(浜松)(森田)
実施方法	1グループでの聞き取り
地区概要 [H30.9月末現在]	行政区 10区 世帯数 769世帯 人口計 2,289人(男:1,096人 女:1,193人)
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握 (地区の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口、世帯数は5年前に比べて少しずつ減少している。</li> <li>・50%を超える高齢化率の区もあれば、若い人が多い区もある。</li> <li>・地域おこし協力隊が県外から空き家を探しにくる。最近も1軒引っ越ししてきた。</li> <li>・常会長から世帯数が増えると公民館に情報が入る。</li> </ul> <p>(活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命のポケットにより、住民の見守り意識が高くなってきた。</li> <li>・防災訓練を毎年行っている。</li> <li>・寄付・振興会と地区社協にも協力してもらい、町づくり安全防犯パトロール車が10月に立ち上がる。</li> <li>・主事の防災意識が非常に高い、強い。</li> <li>・日頃から連携が強い。細かい情報がすぐ入ってくる。</li> <li>・日頃の行動、担い手として民生委員以外に福祉連絡員(4年目)が要支援者宅を訪問している。日々の様子の変化がわかる。</li> <li>・民生委員がよく動いてくれる、頑張っている。</li> <li>・お祭りが春と秋の年2回開催される。</li> <li>・150年の歴史をもつ相撲大会が毎年お盆に開催され小中学生が参加する。浦山相撲協会がある。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常会長が2年で交代のため、くろベネットや災害時避難コード要支援者を理解してもらえるまで時間がかかり、理解した頃にまた交代となる。しかし、経験者が増えることは良いことであるため、スムーズに引き継いで行けるしくみがあればよいのでは。</li> <li>・3つの道路の横の行き来が出来ない、そのことが原因で連絡がとれないこともあるため、道路整備が必要と考える。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加は活発である。</li> <li>・イベント等は女性の参加が多い。</li> <li>・男性は組織的なことに関して協力的である。</li> <li>・声をかけるとすぐ助けてくれる、協力してくれる人が多い。</li> <li>・公民館は情報の集積場所である。(1番の強み) (来館者)旧公民館 3,000人/年、新公民館 10,000人/年</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心に暮らせる町を目指し、環境整備をしていく。</li> <li>・急に変わるのではなく、自然に変化し、良くしていける町づくりを進めていく。</li> <li>・1人暮らしの把握はしているけれど、2人暮らしに対する働き方に目を向けていかなければならない。</li> <li>・物、人材は豊富である。それを継続的にリーダーの担い手づくりをしていかなければならない。</li> </ul>
まとめ	<p>伝統ある地区行事や命のポケットの取り組み、防災意識が強く、子供からお年寄りまで、皆が安全で安心できる暮らしづくりに積極的に取り組む浦山地区。新しいことへの取り組みも積極的で、今後はこの活動を継続していくための担い手づくりに目を向け、より発展したまちづくりを目指していきたいと考える。</p>

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年7月23日(月) 18:30~19:30
実施団体	黒部のとびら(移住者)
人数	8名(男性6名、女性2名)
聞き取り	(小柴)(高村千)
実施方法	1グループでの聞き取り
概要	県外から黒部市に移住してきたメンバーが気軽に集い、情報交換し合える場として発足された会である。市内に定期的に集まって懇親を深めている。
ヒアリング内容 【移住者からみる黒部】	<p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい家(空き家)はあるが、古民家ではなく、増築が繰り返されていたり、広すぎてごちゃごちゃしていて住みにくい感じの家が多い印象を受けた。</li> <li>・自然やいいものしかないが、使い方がもったいない。</li> <li>・水が美味しいのにPR不足、暑い日でもかき氷のお店が1軒もない。</li> <li>・観光資源がたくさんあるが、観光客向けではない。資源をうまく使えていない。</li> <li>・閉鎖的で、個人ビジネスになっている感じがある。</li> <li>・「みんなでやろう」ではなく、かくまっている感じがある。</li> <li>・挑戦する人が少ないと感じる。</li> <li>・黒部は意外におもしろくなかった。</li> <li>・市も移住者にもっとスポットをあてて情報発信をしていけばいいのでは</li> <li>・子供がいないと地域とのつながりがあまりもてない。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水、食べ物が美味しい。</li> <li>・山がきれい、四季を感じられる。</li> <li>・景色や自然に魅了(夕日、田んぼ、虫等)</li> <li>・海が近く、釣りが楽しめる。</li> <li>・人口が少ないが公共交通が発達している。</li> <li>・安心、安全な暮らしができる。</li> <li>・おすそ分けの文化がある。</li> <li>・気さくな方が多い。</li> <li>・近所の方が分かる。密接な関係を築ける。</li> <li>・たくさんの方の価値観で子育てができる。</li> <li>・転勤を10回以上してきたが、ここが一番いいと感じる。</li> <li>・子供が生き生きとしている。</li> </ul>
これから 【5年後の黒部】 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年後は、今以上に人口の分布が市街地よりになっていると思う。</li> <li>・背骨道路と国道8号の沿線が整備されている。</li> <li>・ニッチな隙間産業を</li> <li>・移住者が増えて、コミュニティも広がっていればよい。</li> <li>・移住ブームもひと段落して、利用スポットができ、賑わうのでは</li> <li>・楽しくのんびり交流できる場所をつくっていきたい。</li> <li>・黒部は全体的に豊かと感じているので、交流を促すことをしていきたい。</li> </ul>
まとめ	黒部が持つ自然環境、地域環境のよさをもっと前面に出し、県外の方に対して、魅力が感じられる町づくりを市全体で目指していく必要があると感じる。また、移住者が交流できるコミュニティを今以上に広げていけるよう、今後も積極的に取り組んでいきたいと考える。

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年8月30日(木) 9:15~10:25
実施団体	NPO法人 宇奈月自立塾
人数	1名(牟田理事長)
聞き取り	(小柴)(高村千)
実施方法	代表者に聞き取り
団体概要	不登校児童・生徒及びその保護者並びに生活困窮者に対して、不登校やひきこもり等の青少年問題並びに生活困窮者に関する活動支援を行い、子どもたちの健全育成、社会的自立及び生活困窮者への社会的自立支援に寄与することを目的としているNPO法人。市内で、いかわ若者サポートステーション、宇奈月自立塾を運営している。
ヒアリング内容 [現状と課題]	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団塊世代の引退に伴い、有効求人倍率が上がり、就職はよくなったと感じるが、産業が豊かになっているとは感じない。見過ごされている人も増えてきている。</li> <li>・サポステでの支援対象者の年齢は10年前と比較して引き上げられ、現在15~39歳までの方を支援しているが、40歳を超えると対応ができない。ただ、現実には就職氷河期世代(37~58歳位)の対象者が増えており、さらにその上の年代のひきこもりの支援対応が社会全体でできていない。</li> <li>・支援者の割合は、県内と県外で半々で、就職支援、生活支援者が黒部に定住し、そこから人口増につながることも考えられる。</li> <li>・相談したくても、役所には行きにくい。気軽に相談にいける場があればいい。</li> <li>・サポステの認知はまだないと感じる。もう少し知ってもらいたい。</li> <li>・富山県は他県に比べて豊かであり、触れる所が少ないことも支援者が増える1つの要因と考える。生保を受けているのに家があることは、他県ではあまりない。</li> <li>・経済格差ではなく、意識格差と感じる。</li> <li>・現在は昔と違い、外に出なくても生活できる環境であるため、外に出る機会が少なくひきこもりが見極めにくい。豊かだからこそパラサイトできる社会になってきている。</li> <li>・昔は障害をもっている家から出さない家族が多かったが、現在は早い段階からグループホームに入ったりして、親がいなくなっても社会で生きていけるように支援していける環境になっている。ただ、ひきこもりに関しては見せられない傾向にある。お金で解決しようとする親も10%くらいいる。</li> <li>・お金に関して言えば、税金を安くしてほしい。会費で成り立っているが生活困窮や児童養護者が増えてきていることから、会費も減ってきている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援した(社会に出た)後の支援をしていくこと</li> <li>・スタッフが足りない、マンパワーが足りない、若手(20~30代)支援者の育成、学生時代に意識を持つことが必要。年齢によってキャリアが変わってくるので、ノウハウも引き継いでいきたい。</li> </ul>
良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が自立していくことが1番の報酬である。</li> <li>・苦しいけど社会的にがんばってくれる人間になってくれることが願い</li> </ul>
これから [5年後の地区] [こうしていきたい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の貧困は親の貧困が問題、生活困窮や片親家庭の子供達にも教育の機会、スポーツの機会、食事する機会等、幼少期からの格差をなくし、機会の平等を考えていきたい。</li> <li>・生活資源(水や電気)が循環しているのと同じで、社会に出て一度ドロップアウトしてもまた社会復帰できるよう、人に対しても再生のまちづくりを目指していきたい。ひきこもるくらいなら宇奈月にきて支援を受け、そこから若者の定住につなげ、そういうことも移住施策の一環となればと考える。</li> </ul>
まとめ	豊かな時代になっている反面で、社会的課題は複雑化してきている。それに伴い、社会で適応できる能力が不足している方への支援も増えてきている。マイノリティー支援をどのようにしていくか、労働力の確保や移住施策の一環につながる支援を目指していく。人も暮らしも循環していくことが大切

第3次黒部市地域福祉活動計画策定に係る  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成30年10月2日(火) 16:00~17:45
実施団体	富山県立桜井高等学校 元生徒会執行部
人数	2名(横田さん:村椿在住、本波さん:浦山在住)
聞き取り	(小柴)(高村彩)
実施方法	1グループでの聞き取り
概要	黒部市在住の桜井高校3年生(元生徒会執行部)に、広報誌「福祉くるべ」の特集の取材を依頼した中で、現役高校生が感じる地元のよさ、近所づきあい、将来、高校生の実態、今黒部に必要と感じるもの等を聞く
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方とは会う機会が少ないが、パトロール隊の方に挨拶をしたり、ちょっとした会話をすることはある</li> <li>・小学校の時からパトロール隊が同じの方なので、挨拶は良くする</li> <li>・自分が小さい頃から、安全に通学できるよう見守りをしてくださっていてとても感謝している</li> <li>・中学生の時、委員会であいさつ当番をしていたけど、パトロール隊の方は暑い日も寒い日も早くから立っておられ、すごいと思った</li> <li>・小学生の時、学校帰りに祖母の家に寄ってから帰っていたが、当時は祖母の交流ある近所の方にもよく遊んでもらっていてうれしかった</li> <li>・一人暮らしの祖母は近所の人とよく交流していて、今後、一人暮らしの高齢者が増えてきたら、危険を察知できるのは親戚よりも近所の方が早いと思うので、普段からの付き合い、たまのおしゃべりは大事だと思う</li> <li>・基本的に高校生は地域のつながりは意識していない、違うことで頭がいっぱい</li> <li>・地区の行事、例えば運動会は小学生までしか呼ばれない</li> <li>・福祉のイメージは、老人ホームや介護、障がい者の働く施設というイメージが強い</li> <li>・福祉センターのイメージは高齢者施設だけど、そこにwifiやカフェがあれば行くかもしれない</li> <li>・高校生は、遊び場よりも携帯をいじる場が必要、体を動かすより携帯をいじる</li> <li>・施設よりも何かできる環境に集まる</li> <li>・インスタに載っている情報や、友達からの情報で行動に移すことも多い</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニが遠く不便</li> <li>・自転車通学ができない時にバスを利用していたが、バスは不定期で、バス停からも徒歩15分かかる環境である⇒年をとって車の免許がないと生活が辛いと思う</li> <li>・学校が少ない⇒小学校から電車通学で、学校まで遠く不便であった</li> <li>・遊ぶところが少ない、最新プリ機は富山市に行かないとない⇒インスタに上げる子が多いので最新のものがもっと近くにあればいい(自己満足の世界ではあるが)</li> <li>・Wifi環境を整えてほしい⇒そしたら必然的にそこに人が集まると思う</li> <li>・黒部には無料で気軽に集まれる場が少ない</li> <li>・交通手段、電車の本数が増えてほしい</li> </ul>
良いところ	・災害が少なくていい
これから 【こうしていきたい】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたいことが県外でしか学べないこと(義肢装具士)だったので、県外に1度出て、また戻ってこようと思う</li> <li>・外に出て色々な言語、習慣の違いを感じ、地元の良さ悪しに気づくと思う</li> <li>・出てみないとわからない、そこから地元に戻るかどうかを判断したい</li> </ul>
まとめ	<p>比較するものがなければ、地元の良さ悪しも感じにくいという意見は妥当であり、その経験によって、地元愛や地域愛が生まれてくるものだという考えは自然なものであると考える。しかしながら、小さい頃から、近所の方の活動に触れることは、印象に残り、その記憶や体験が大きくなって少なからず活かされるのではないかと、今の活動者に直接的な恩返しはできなくても次世代につないでいけるのではないかと、世代問わず近所の方と触れ合う機会をつくることは、次世代に地元の良さを感じてもらえるための一つのツールになることは間違いないと考える。</p>



◎ 地域型ボランティア活動支援者ヒアリング調査報告書（一部抜粋）

地区名	①地域活動（活動支援者）の実態	②じぶんの地区のこれから（不安・課題）	③じぶんの地区のこれから（やりたい姿）	④自団体の良いところ
生地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区ボランティア部会の他5団体が活動</li> <li>・介護予防やふれあいランチャなど行っている</li> <li>・バリエーションがあるものは喜ばれている</li> <li>・各ボランティア団体の活動に地区の方も関わりを手助けしてくれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者、担い手がいない</li> <li>・取り組みが多く大変</li> <li>・活動への理解がない</li> <li>・活動手段がわからない</li> <li>・参加する足がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい人に入ってほしい</li> <li>・活動者の発表の場があるといい</li> <li>・団体が集まる機会があればよい</li> <li>・ボランティア実施者の声を聞く機会があればよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で仲良し</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> <li>・参加できるところがある、生きがい</li> </ul>
石田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の高齢施設で長年続いている活動がある</li> <li>・各団体（5団体）が集まって合同で活動している行事</li> <li>・会員は全員女性</li> <li>・会員はたくさんいるが、活動出来る人は半分程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化している、体力的に心配</li> <li>・若い会員、男性会員が少くない</li> <li>・活動がマンネリ化している</li> <li>・目指すべき姿がわからない</li> <li>・移動手段がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人や男性会員に入ってほしい</li> <li>・地区住民全員が集まれる場が必要</li> <li>・各種団体が話し合える機会、場所があればいい</li> <li>・困っている人を地区で助け合えるシステムにした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりがもてる</li> <li>・役員が皆がんばっている</li> </ul>
田家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年前に20名からスタートし、現在85名まで増えた</li> <li>・ほとんどが女性で、若い世代もいる</li> <li>・男性は7名と少ないが、力仕事に協力的</li> <li>・趣味や味噌づくり等は、若い世代の参加者が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の会員増が難しい</li> <li>・大変な人が増えてきたらどうしていいかわからない</li> <li>・どこを目指せばいいかわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の活躍</li> <li>・他団体のいい活動を共有していきたい</li> <li>・地区、自治会、町内会等と方向性を統一した地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で仲良し</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> </ul>
村楯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員は女性のみ、70代が多い</li> <li>・やる気のある人材が揃ってみたい</li> <li>・活動に協力的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの高齢化により活動がいつまでできるか</li> <li>・会員数に差があり役員の成り手がいない地区もある</li> <li>・活動メンバーはいずれも同じ顔ぶれ</li> <li>・働いている人は活動に参加できにくい</li> <li>・活動財源が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が途切れることなく継続していきたい</li> <li>・サロンの内容を充実させていきたい</li> <li>・地区ごとに孤立せず気軽に集まれる場所があれば</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> </ul>
大布施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員は女性のみ、70代が多い</li> <li>・継続できている取り組みがある</li> <li>・気負わず活動している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化、新規加入者、男性会員が少ない</li> <li>・働いている人に声をかけにくい</li> <li>・活動がマンネリ化している</li> <li>・デジタル化についていけない</li> <li>・補助金が減ってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現活動を地道に継続し次世代につないでいきたい</li> <li>・地区ごとにもなんでも話し合える場所があればいい</li> <li>・今まで続けてきた活動を継続していきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で仲良し</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> </ul>
三日市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防を目的に様々な活動をしている</li> <li>・10町内あり各町内年3回程度サロン活動を実施</li> <li>・60～70代が多く、会員の1割が男性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代は仕事があり、声をかけづらい</li> <li>・助成金の制限が厳しくなってきた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代に活動を見てほしい</li> <li>・担い手が増えればいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的</li> <li>・活動協力者が多い</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> <li>・喜んでもらうのがやりがいである</li> </ul>
前沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性中心の「ボランティア前沢」がある</li> <li>・会員の3割が男性、7割が女性</li> <li>・男性中心に一人暮らし高齢者の除雪等も行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規会員が増えない</li> <li>・定年が延び、活動者数が減少していくのでは</li> <li>・男女別々の組織なので一緒に活動する機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人にもボランティア活動に参加してほしい</li> <li>・若い世代を育成していきたい</li> <li>・座談会など様々な世代と話し合える場がほしい</li> <li>・他団体と連携し活動範囲を広げていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力者が多い</li> <li>・人の顔がよくわかる</li> </ul>
狐生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50～60代の男性20名で構成されている会がある</li> <li>・上記団体が地区ボランティア会員としても活動してくれている</li> <li>・傾聴ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの高齢化、若い会員が不足</li> <li>・全町内にボランティアがない</li> <li>・組織づくりがうまくいっていない</li> <li>・事務担当者がいない、提出書類が複雑</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人にもボランティア活動に参加してほしい</li> <li>・若い人に入会してもらいたい</li> <li>・活動拠点が新設され活動が活性化している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動協力者がある</li> <li>・活動内容が多種である</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> </ul>
若栗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員はすべて女性</li> <li>・順繰りでリーダーが回ってくる</li> <li>・使命感をもって活動している</li> <li>・強制せず出れるときに参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性に声をかけづらい</li> <li>・新しい方をどう誘うか</li> <li>・リーダーになりにたがらない</li> <li>・自主的な参加者が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の活動が引き継がれている地区であってほしい</li> <li>・巻き込むことを意識していきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆協力的で楽しい</li> <li>・地域との関わりがもてる</li> <li>・連帯感がありチームワークがよい</li> </ul>



地区名	①地域活動（活動支援者）の実態	②じぶんの地区のこれから（不安・課題）	分類	③じぶんの地区のこれから（ありがたい姿）	分類	④自団体の良いところ
東 布 施	・ボランティア発足以来続いている活動がある （廃油せっけんづくり） ・60代から70代後半が中心	・メンバーの高齢化、若い会員が不足 ・次のリーダーが見つからない ・若い人に声を掛けられない ・活動に対する指導者がいない	● ● ● ●	・若い人にも来てほしい ・会員が増え活動が活性化 ・他団体と連携し活動圏を広がっていききたい	● ● ●	・皆協力的 ・地域の方と交流がもてる ・役員が皆がんばっている
宇 奈 月	・内山、普沢地区と一緒にしている活動がある （宇奈月公園に生息するホタルを守る会） ・まちづくり推進員が中心となって月2回体験教室を開催	・高齢化、若い人が少ない ・地区社協事務員を増やしてほしい	● ●	・活動協力が者が増えるといい ・集まる場をつくっていききたい	● ●	・活動協力が者が多い ・役員が皆がんばっている
普 沢	・宇奈月、内山地区と一緒にしている活動がある （ホタルの会）	・高齢化が進んでいる ・子供がいない ・若い世代も引越していく	● ● ●	・活動圏を広がりたい ・みんなが集まる場づくりをしっていききたい	● ●	・会員が仲良く活動している
内 山	・宇奈月、普沢と一緒にしている活動がある （メダカを守る会） ・4つの団体が活動中	・高齢化が進んでいる ・買い物難民が増えている	● ●	・人が集まる企画を試していききたい	●	・皆仲良しで思いやりがある
粟 本	・老人クラブの参加、協力あり ・3世代交流を深める活動、男性参加者も多い	・世代交代するための次の世代が少ない ・若い会員が少ない ・独身高齢者の孤立が心配 ・活動場所が遠方で継続していきけるか不安	● ● ● ● ●	・にぎやかな過疎地域を目指したい ・元気な活動高齢者でいたい ・地域のみんなが集まる関係づくり	● ● ●	・活動協力が者が多い
下 立	・女性活動者が多く、男性参加者が徐々に減少 ・世代間交流につながる活動が活発 （金刀毘羅山ウォーク） ・介護予防教室やサロン活動のお手伝いをしている ・若い人や親子参加できる活動を開催している	・若い世代とのつながりが少ない ・声がかかるまで待っている人もいる ・お隣に来る人が少なく、出ていく人が多い ・女性の負担が大き、高齢化	● ● ● ● ●	・若い人が参加し、つながりができる地区に ・他の地区と情報共有できる場づくり	● ●	・活動協力が者が多い ・地域でのつながりを感じる
浦 山	・人材は豊富である ・助けてくれる人がたくさんいる ・仕事を分担し使命感をもって活動に取り組んでいる	・拒否する人との関わり ・認知症の方への対応、地域住民の理解	● ●	・ボランティア活動に対する交通費負担などのしくみ ・健康寿命を延ばすための取り組み、データ化 ・福祉活動が充実し、住みやすい地域に	● ● ●	・皆協力的 ・連帯感がありチームワークがよい ・役員が皆がんばっている

※②、③については、3つ（人…● / 場・しくみ…● / 資金・資源…●）の課題に分類した

【まとめ】

今回のヒアリング調査で見えてきたこととして、地区によって活動の実態は様々であったが、今後の不安や課題においては、どの地区も「人」の問題、中でも若い人員、男性の参加を多く求める声があった。また、組織を活性化していく上でのしくみづくりに関する提案を多く上げていた。その他、世帯数が多い地区においては、活動の財源不足も課題となっていた。そのような課題がある中で、今後、目指すべきありたい姿としても、やはり、若い世代の参加、活躍を期待する声が多く求められていた。さらには、情報共有できる場づくりが必要であり、様々な世代、分野、活動者との意見交換ができるよう、集まれる場、関係づくりができる地域を目指していきたいと感じていることがわかった。

平成 30 年度 黒部市社会福祉法人連合会  
『ふくしの暮らしアンケート』

調査報告書

黒部市社会福祉法人連合会

【事務局】社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



## 1 アンケート調査目的

平成 29 年 11 月に設立した黒部市社会福祉法人連合会（黒部市内に事業所を持つ社会福祉法人：全 11 法人）は社会福祉法人の使命として行う地域貢献事業として今年度、「ふくし丸ごと合同相談会」を開催する。

この調査では、各会員法人より、専門職員が集まり、保育、介護、障がいなど、様々な相談に答えることのできる体制をとり、アンケートの実施を手法として悩みや相談に関する聞き取りや、黒部市社会福祉法人連合会組織について及び市内の社会福祉法人の場所や事業内容等を具体的に知ってもらうこと、また、今後の地域における公益活動に向けてどのような形で取り組むべきか等を検討することを目的としている。

## 2 調査対象

一般市民 100 名（黒部市福祉センター年越しまつり来場者）

## 3 調査実施期間

平成 30 年 12 月 15 日

## 4 アンケート調査方法

黒部市福祉センター年越しまつり（12 月 15 日）と同日開催した黒部市社会福祉法人連合会「ふくし丸ごと合同相談会」に来場された方にアンケートを依頼し、相談員と共に回答してもらう。

回収： 回収—100 枚

対象者数	有効回答者数	有効回答率
100 枚	100 名	100.0%

## 5 調査結果まとめ

※別紙調査結果参照

# 黒部市社会福祉法人連合会『ふくしの暮らしアンケート』調査結果

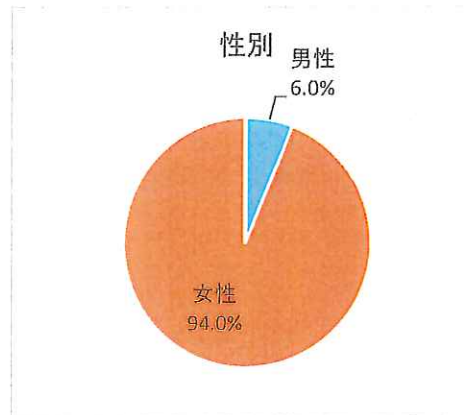
調査依頼者総数…100名 回収枚数…100枚 回収率…100.0%

## ◎ 属性

### 1. 性別

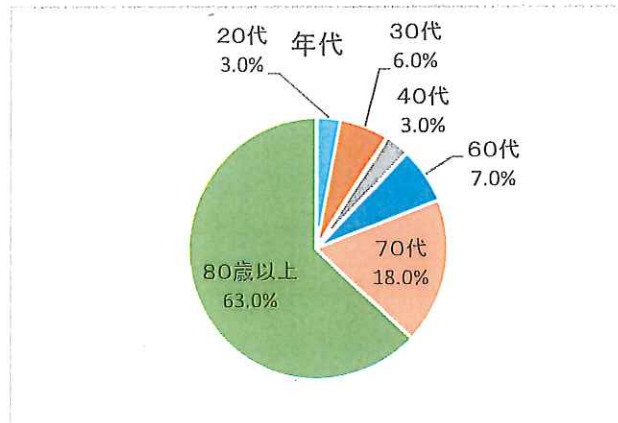
	回答(人)	%
男性	6	6.0
女性	94	94.0
全体	100	100.0

回答者の性別は、女性が94.0%、男性が6.0%と圧倒的に女性が多かった。相談会と同日開催していた福祉センター年越しまつりの来館者の割合もこの男女比にほぼ等しいことがうかがえる。



### 2. 年代

	回答(人)	%
20代	3	3.0
30代	6	6.0
40代	3	3.0
50代	0	0.0
60代	7	7.0
70代	18	18.0
80歳以上	63	63.0
全体	100	100.0

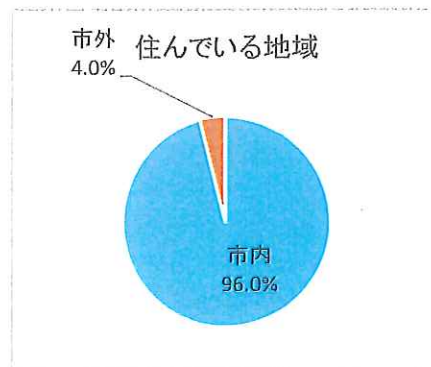


回答者の年代は、80歳以上が63.0%と最も高く、次いで70代が18.0%、60代が7.0%であった。また、20代、30代の若い世代からも9.0%の回答を得ることができた。

### 3. 住んでいる地域

	回答(人)	%
市内	96	96.0
市外	4	4.0
全体	100	100.0

※市外：入善、朝日



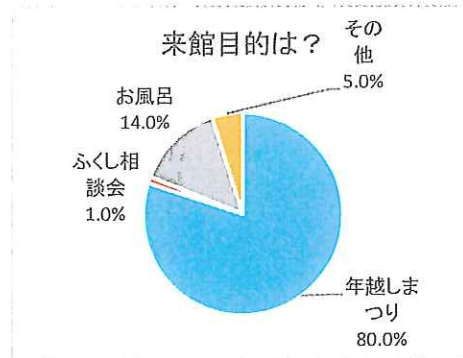
市内から来られた方が96.0%、市外から来られた方が4.0%と、約9割が市内在住であった。



4. 今日来られた1番の目的は

	回答(人)	%
年越しまつり	80	80.0
ふくし相談会	1	1.0
お風呂	14	14.0
その他	5	5.0
全体	100	100.0

【その他】 演芸発表、保育所発表、囲碁

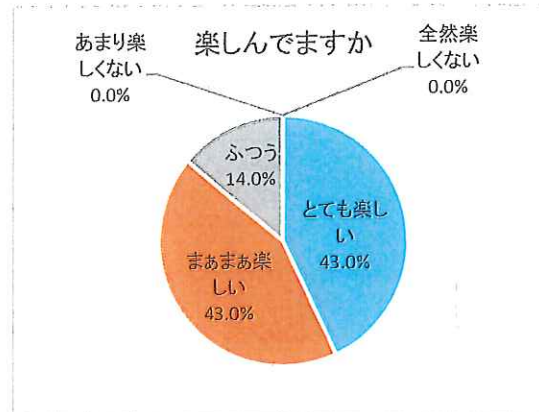


1番の来館目的は、8割が「年越しまつり」であった。ふくし合同相談会を目的として来館した人はほとんどなく、その他の2割は、通常営業しているお風呂利用や趣味を目的に来館していた。

◎ 生活について

5. 毎日楽しんでますか

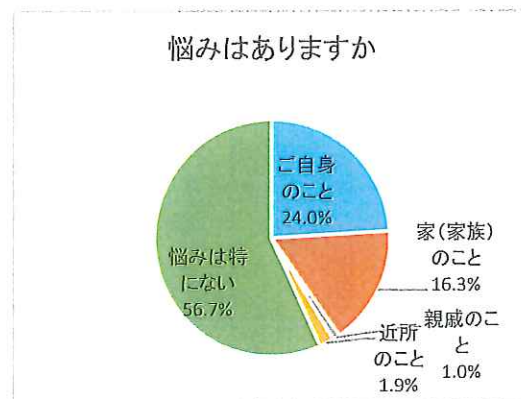
	回答(人)	%
とても楽しい	43	43.0
まあまあ楽しい	43	43.0
ふつう	14	14.0
あまり楽しくない	0	0.0
全然楽しくない	0	0.0
全体	100	100.0



毎日の生活を「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」と感じているが同率で43.0%、「ふつう」が14.0%、「あまり楽しくない」、「全然楽しくない」と答えた人はいなかった。

6. 今、悩みありますか(複数回答)

	回答(人)	%
ご自身のこと	25	24.0
家(家族)のこと	17	16.3
親戚のこと	1	1.0
近所のこと	2	1.9
その他	0	0.0
悩みは特にない	59	56.7
全体	104	100.0

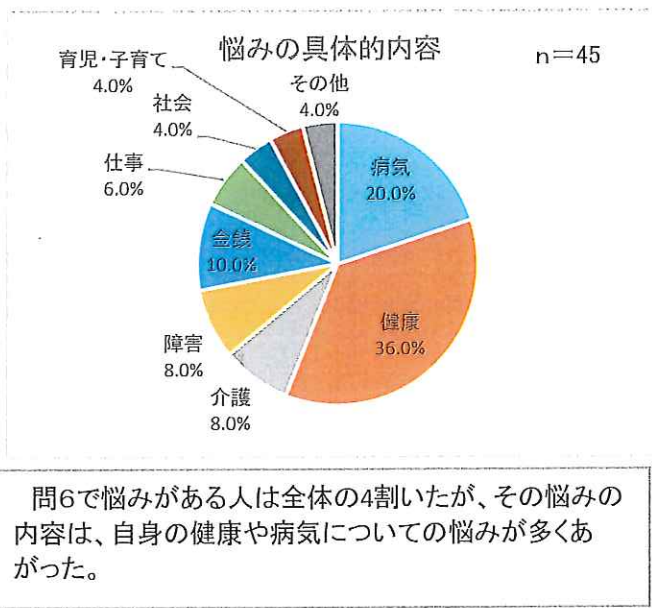


悩みのある人は全体の4割で、その内容は、「自身のこと」が最も多く24.0%、次いで、「家(家族)のこと」が16.3%、親戚、近所のことについても少数ではあるが、回答があった。しかしながら、「悩みは特にない」と回答した人が約6割あり、この結果からも、専門員につなげるような大きな悩みを抱えている人は、来館されていないことがうかがえる。



7. 悩みの内容(複数回答)

	回答(人)	%
病気	10	20.0
健康	18	36.0
介護	4	8.0
障害	4	8.0
金銭	5	10.0
仕事	3	6.0
社会	2	4.0
育児・子育て	2	4.0
その他	2	4.0
全体	50	100.0

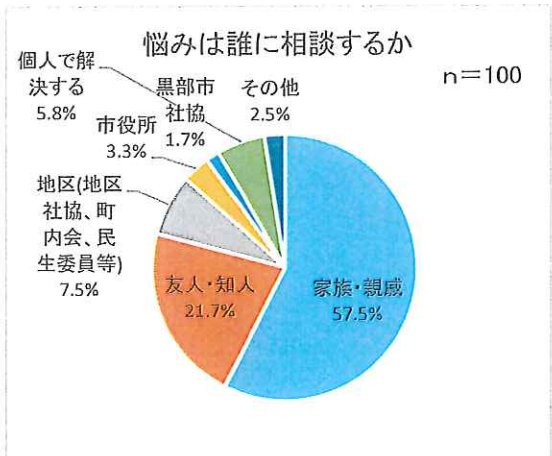


【具体的な内容】

- 体のこと、膝の痛み、足痛い、腰曲がる、置き忘れがある、聞いても忘れてしまう
- 体力の低下、足が少し不自由、足膝に痛みがあり心配、リウマチ
- 5月に肺がん手術との間調べたら転移していなかったのが喜んでます。今後どうなるか心配
- 1人暮らしなので健康のことが心配
- 夫(支援1)の介護について、夫の健康状態について、今後の家族の健康のこと
- 孫の結婚、孫の幸せ、子供の結婚、子供のこと
- 自分の人生の最終の「住み慣れた地域」を前住地、現住地との選択に日々悩んでいます。
- 仕事が忙しいこと
- 交通機関(バス)が不便、センターの風呂入りたいけど朝のバスが早いので乗れない。
- 台風の時の雨風、断捨離について

8. 悩みは誰に相談するか(複数回答可)

	回答(人)	%
家族・親戚	69	57.5
友人・知人	26	21.7
地区(地区社協、町内会、民生委員等)	9	7.5
市役所	4	3.3
黒部市社協	2	1.7
相談する人がいない(相談はしない)	0	0.0
個人で解決する	7	5.8
その他	3	2.5
全体	120	100.0



【その他】医師、病院

悩みに対して誰に相談しているかは、「家族・親戚」が57.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が21.7%、「地区」、「市役所」、「黒部市社協」は合わせて12.5%であった。地区と回答した人のほとんどが民生委員と答えていた。

## 9 楽しみや生きがいを感じる時は（キーワード別にまとめた）

### 趣味

- ・ 編み物（2名）
- ・ 囲碁
- ・ 踊り（2名）
- ・ カラオケ（3名）
- ・ コンサートに出かける時
- ・ 体操（4名）、水中ウォーキング
- ・ ドライブ（2名）
- ・ 縫物をして自分の洋服を作ること
- ・ パークゴルフ
- ・ 野菜づくり（2名）
- ・ 旅行
- ・ 旅行、お風呂、温泉、孫
- ・ 老人会、明日温泉、畑
- ・ 食事、お話
- ・ 美味しいものを食べている時（3名）
- ・ 自分の趣味を楽しんでいる時

### 外出

- ・ 福祉センターに来ること（26名）  
（友人と話をする、体操、お風呂他）
- ・ メルシー行くのが楽しみ
- ・ センター、メルシーが楽しみ
- ・ 買い物
- ・ 週2回たかおかやに行くこと
- ・ 地域の方に声を掛けていただいて世代をこえて交流している時
- ・ センター（1/w）、池田リハ（2/w）
- ・ 介護予防教室や生涯学習教室参加
- ・ 地域交流イベントに参加すること

### 仕事・ボランティア

- ・ シルバーで働く時
- ・ 畑仕事（7名）野菜よくとれたら幸せ
- ・ ボランティア参加（3名）
- ・ どんな会にも積極的に参加している時
- ・ ボランティアで踊りをしている時
- ・ 仕事が楽しい

### 健康・暮らし

- ・ 自宅でテレビを見ている時
- ・ 自分のことを自分で出来ていること（2名）
- ・ 自分の時間を好きなように使っている時
- ・ 1人の時間
- ・ あまり深刻に考えず、自分で何とかやれている
- ・ 元気であること（早寝・早起き）
- ・ 健康であること（3名）
- ・ 飲んでいる時
- ・ ワクワクした時
- ・ 人に感謝された時
- ・ 人の役に立つことができた時

### 家族・子供・孫

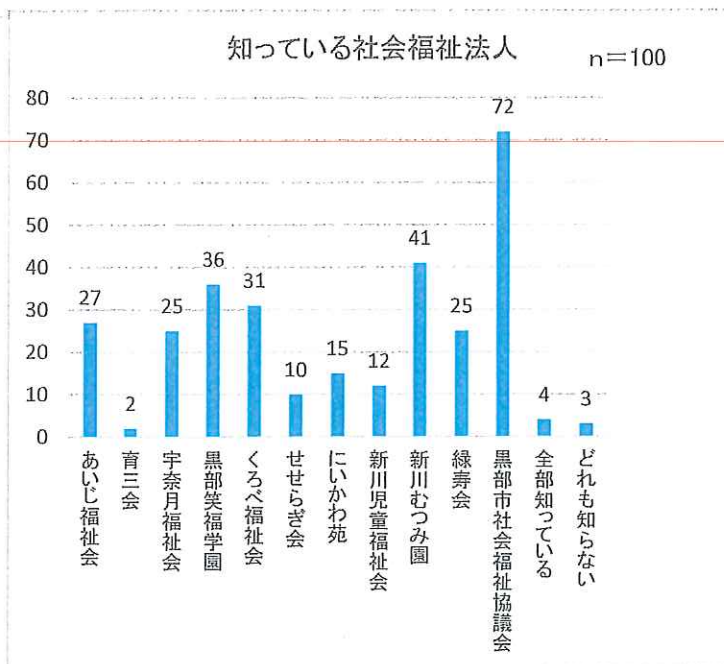
- ・ 家族が笑顔である時
- ・ 家族とお正月に会うこと
- ・ 家族との絆
- ・ 子供達がたまに買い物してくれる
- ・ 子供達と話をすること
- ・ 子供とおしゃべり（2名）
- ・ 子供と過ごすこと（2名）
- ・ 子供との触れ合い（学童保育・囲碁）
- ・ 子どもの笑顔を見た時
- ・ 子供の成長を感じる時
- ・ ひ孫を見る楽しみ

### 友人

- ・ 友達が誘ってくれるので楽しく過ごしている
- ・ 友達と会う事とお風呂に入る時
- ・ 友達と会える時（3名）
- ・ 友達とおしゃべり（2名）
- ・ 友達と趣味を楽しむ
- ・ 友人がたくさんいるから楽しみ
- ・ 友人と社協に来たり食事に行ったり
- ・ 友人と話をする時（2名）
- ・ デイサービス行った時に友達と話ができる時が1番楽しい
- ・ おでかけして友達の顔をみる時
- ・ 喫茶店に行って友人と話をすること
- ・ 皆さんと話をする時

10. 黒部市内の社会福祉法人で知っている法人は

No.	法人名	回答数
1.	あいじ福祉会	27
2.	育三会	2
3.	宇奈月福祉会	25
4.	黒部笑福学園	36
5.	くろべ福祉会	31
6.	せせらぎ会	10
7.	にいかわ苑	15
8.	新川児童福祉会	12
9.	新川むつみ園	41
10.	緑寿会	25
11.	黒部市社会福祉協議会	72
12.	全部知っている	4
13.	どれも知らない	3



回答者のほとんどが黒部市社会福祉協議会主催の年越しまつりに参加されていることもあり、その会場となった福祉センター(黒部市社協)のことを知っている人が全体の7割と多く、その他の法人についても、保育、高齢、障害ともに全体の1割～4割程度の認知度があることがわかった。

【まとめ】

「ふくし丸ごと合同相談会」の会場にて実施したアンケートは、黒部市福祉センター年越しまつりと同日開催ということもあり、来場者(回答者)は、高齢の方が多く、その年代も全体の約6割は80歳以上であった。個別相談を希望される人はいなかったが、「アンケートを通じて専門員と話をすることができ気持ちがすっきりした」との声も一部聞かれた。

悩みごとについては、半数の人が悩みが「ない」と答えていたが、悩みが「ある」と答えた方は年代問わず、自身の健康や家族の健康についてがほとんどであった。生きがいや楽しみなことの約3割は、福祉センターでの体操やお風呂、友人とのおしゃべりが上げられ、施設全体が介護予防に大きな影響をもたらしていることが改めてわかった。また、人と会い、話すことが楽しみと感じている人が大多数であった。

黒部市社会福祉法人連合会の認知度に関しても、回答者の9割が年越しまつりを目的とする高齢者であったことから、黒部市福祉センターを運営している黒部市社協の認知度は高かった。しかしながら、高齢者分野に限らず、保育分野、障害分野の法人も1～4割程度の認知度があった。

今後取り組む地域における公益活動においても「黒部市社会福祉法人連合会」及び11の会員法人の認知度を高めることを1つの目標とし、活動内容もより充実したものを検討していきたいと考える。

## 黒部市社会福祉法人連合会『ふくしの暮らしアンケート』

日頃より、本会の事業に対し格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
さて、本会では地域のニーズや課題を受け止め、市民の福祉の向上を図ることを  
目的とし、年越しまつりにご来場いただきました皆様方を対象に調査を実施させて  
いただきたく、ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

### ◎ あなた自身の情報について

問1 あなたの性別に○をしてください。

1. 男性            2. 女性

問2 あなたの年代に○をしてください。

1. 20代    2. 30代    3. 40代    4. 50代  
5. 60代    6. 70代    7. 80歳以上

問3 あなたの住んでいる地域はどちらですか。

1. 市内            2. 市外 (                    )

問4 今日来られた1番の目的はなんですか。

1. 年越しまつり                    3. お風呂  
2. ふくし相談会                    4. その他 (                    )

### ◎ 生活について

問5 毎日を楽しんでいますか

1. とても楽しい                    4. あまり楽しくない  
2. まあまあ楽しい                    5. 全然楽しくない  
3. ふつう

問6 今、悩みはありますか、あてはまるものすべてに○をつけてください

1. ご自身のこと                    5. その他 (                    )  
2. 家(家族)のこと                    6. 悩みは特にな  
3. 親戚のこと  
4. 近所とのこと

裏面に続きます →

問7 その悩みはどのようなことですか

- |       |       |            |
|-------|-------|------------|
| 1. 病気 | 4. 金銭 | 7. 障害      |
| 2. 健康 | 5. 仕事 | 8. 育児・子育て  |
| 3. 介護 | 6. 社会 | 9. その他 ( ) |

※具体的にあればお書きください

問8 悩みがある時、どなたに相談しますか  
あてはまるものすべてに○をつけてください

1. 家族・親戚
2. 友人・知人
3. 地区（地区社協、町内会、民生委員等）
4. 市役所
5. 黒部市社協
6. 相談する人がいない（相談はしない）
7. 個人で解決する
8. その他 ( )

問9 楽しみや生きがいを感じる時はどんな時ですか

◎ 市内の社会福祉法人について

問10 掲示パネルを参考に、あなたが知っている社会福祉法人  
すべてに○をつけてください

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 1. あいじ福祉会 | 8. 新川児童福祉会     |
| 2. 育三会    | 9. 新川むつみ園      |
| 3. 宇奈月福祉会 | 10. 緑寿会        |
| 4. 黒部笑福学園 | 11. 黒部市社会福祉協議会 |
| 5. くろべ福祉会 | 12. 全部知っている    |
| 6. せせらぎ会  | 13. どれも知らない    |
| 7. にいかわ苑  |                |

ご協力ありがとうございました  
黒部市社会福祉法人連合会

平成 30 年度 黒部市社会福祉法人連合会  
『ふくし暮らしアンケート』調査報告書

発 行 平成 31 年 1 月

編集・発行 黒部市社会福祉法人連合会

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp



# 第3次黒部市地域福祉活動計画

Kurobe Social Welfare Action Plan 2019年度—2023年度

お互いさまの社会の実現にむけて



黒部市地域福祉活動計画策定委員会

【事務局】 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会



## はじめに

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまち」をつくっていくためには、自助、互助、共助、公助が横断的につながり、包括的に支え合う体制が必要です。黒部市内には16地区があり、その中には128町内という単位、そして約15,400世帯という家族の単位があります。それぞれには、それぞれの課題がありますが、文化、伝統、生活環境などその特性があり、課題解決のための手段も違ってきます。

そのような中で、「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」という住民主体の活動が今後より一層求められます。緩やかな近所の顔見知りの関係性を保ちつつ、災害時のような緊急で突発的な時に支え合い助け合う体制をつくっていく必要もあります。

そのためには、大変さや煩わしさも感じることもあるかもしれませんが。しかしながらそのような時にも、共に黒部や同じ地域に住む人々が「お互いさまですよ」と言い合える関係性をつくっていくことが理想だと考えました。「お互いさま」と言うのではなく、「ありがとう」と伝えたときに「お互いさまですよ」と言葉が返ってくる社会になった時、本当の意味での地域共生社会が実現するのだと思っています。

そんな社会を実現するために、民間の福祉に関わる多くの団体や人々にご協力いただきながら今回の第3次黒部市地域福祉活動計画を作成することが出来ました。個別の事業をどのように推進していくかではなく、みんなが共に目指す目標を定め、その目標に向かってそれぞれが取り組んでいくという新たな形でこの計画のつくりこみを行いました。

私たちが目指す「お互いさまの社会の実現」この言葉に大きな想いをこめて、ここからの黒部の地域福祉を共に進めていきましょう。

2019年3月

第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 松原 宗一

## 目次

第1章 第3次黒部市地域福祉活動計画の意義 .....	1
1 地域福祉活動計画の意味と位置づけ .....	1
2 地域福祉を取り巻く社会動向 .....	2
3 第3次黒部市地域福祉計画（行政計画）との関連性 .....	2
4 計画の期間 .....	3
第2章 第3次黒部市地域福祉活動計画の策定経過 .....	3
1 計画策定の体制 .....	3
2 計画策定までの経過 .....	3
第3章 黒部市の地域福祉の現状と課題 .....	5
1 地域を取り巻く現状と課題 .....	5
2 地域（地区）における現状と課題 .....	10
3 福祉サービスを取り巻く現状と課題 .....	10
4 第2次黒部市地域福祉活動計画の分析と評価 .....	10
5 新しい地域福祉活動計画のあり方 .....	11
6 アンケート・ヒアリング調査から見えてきた現状と課題 .....	14
第4章 第3次黒部市地域福祉活動計画における事業展開 .....	15
1 基本理念 .....	15
2 活動方針 .....	15
3 重点目標 .....	21
4 地域福祉活動計画の体系図 .....	25
5 第3次地域福祉活動計画の進行管理 .....	26
第5章 第3次黒部市地域福祉活動計画を推進する基盤強化 .....	28
1 黒部市社会福祉協議会の組織基盤強化 .....	28
2 共同募金会活動の強化 .....	28
資料編 .....	29
1 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱 .....	29
2 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員名簿 .....	30
3 用語解説 .....	31

## 第1章 第3次黒部市地域福祉活動計画の意義

### 1 地域福祉活動計画の意味と位置づけ

公的な機関や制度だけでは解決できない課題に対し、地域や住民と行政などの公的機関等が協働して、自助、互助、共助、公助が一体となる包括的な体制と共に、「助け合い」や「支え合い」を「お互いさま」としての気持ちを育みながら、地域福祉の推進を図る必要があります。

第3次地域福祉活動計画は、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指し、民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標（ゴール）にどんなこと（ターゲット）に力を入れて取り組んでいくかを示すものです。

そして、この計画は次の3つを実現することが大きな柱となります。

#### (1) ゴールイメージの明確化

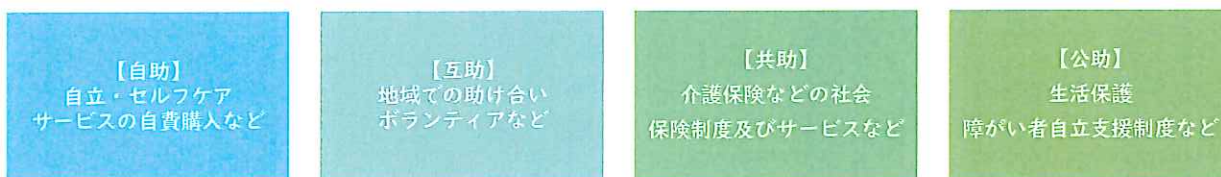
複雑多様化する地域福祉課題の解決に向けてそれぞれが活動し、取り組んでいくためには、みんなで「ゴール」を共有し、進むべき方向性を決めること。

#### (2) 住民主体

共助や公助だけに頼らず、「自分たちのまち（地域）を自分たちで良くしていく」自助、互助の力を最大限に生かした地域づくりを目指すこと。

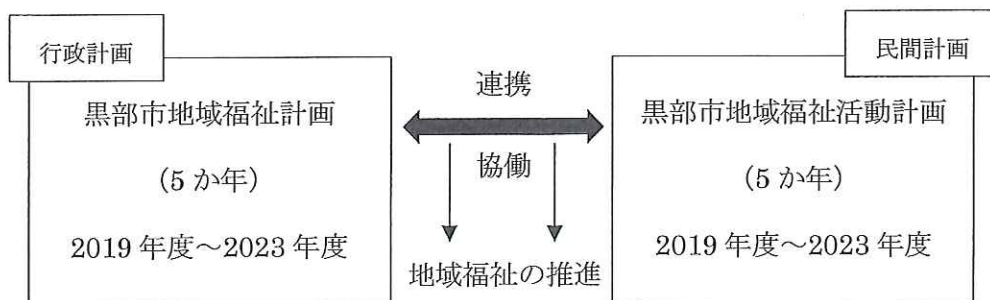
#### (3) 連携と協働

住民や地域、行政、福祉関係機関・団体がそれぞれの役割分担を明確にし、様々な場面で連携・協働していける体制が取れること。



地域福祉活動計画は、社会福祉法（第107条）で定められた行政計画である黒部市地域福祉計画を、より具体的な活動や事業として進めていく計画として位置づけしています。

黒部市社会福祉協議会が中心となりこの計画を策定するのは、社会福祉法（第109条）で地域福祉を推進することを目的とする福祉団体として位置づけられているためです。



## 2 地域福祉を取り巻く社会動向

かつて我が国では、地域の相互扶助や家族同士の助け合いなど、地域・家庭・職場と  
いった人々の生活の様々な場面において、支え合いの機能が存在しました。社会保障制  
度は、これまで、社会の様々な変化が生じる過程において、地域や家庭が果たしてき役  
割の一部を代替する必要性が高まったことに対応して、高齢者、障がい者、子どもなど  
の対象者ごとに、また、生活に必要な機能ごとに、公的支援制度の整備と公的支援の充  
実が図られ、人々の暮らしを支えてきています。

しかし、我が国では、高齢化や人口減少が進み、地域・家庭・職場という人々の生活  
領域における支え合いの基盤が弱まってきています。暮らしにおける人と人とのつなが  
りが弱まる中、これを再構築することで、人生における様々な困難に直面した場合でも、  
誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立  
せずにその人らしい生活を送ることができるような社会としていくことが求められてい  
ます。

また、人口減少の波は、多くの地域社会で社会経済の担い手の減少を招き、それを背  
景に、耕作放棄地や、空き家、商店街の空き店舗など、様々な課題が顕在化しています。  
地域社会の存続への危機感が生まれる中、人口減少を乗り越えていく上で、社会保障や  
産業などの領域を超えてつながり、地域社会全体を支えていくことが、これまでも増  
して重要となっています。

さらに、対象者別・機能別に整備された公的支援についても、昨今、様々な分野の課  
題が絡み合って複雑化し、個人や世帯単位で複数分野の課題を抱え、複合的な支援を必  
要とするといった状況がみられ、対応が困難なケースが浮き彫りとなっています。

このような社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの『縦割  
り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画  
し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らし  
と生きがい、地域とともに創っていく社会「地域共生社会」を目指しています。

「地域共生社会」の実現に向けた今後の改革の骨格

1. 地域課題の解決力の強化
2. 地域丸ごとのつながりの強化
3. 地域を基盤とする包括的支援の強化
4. 専門人材の機能強化・最大活用

資料：厚生労働省「地域共生社会の実現」一部参照

## 3 第3次黒部市地域福祉計画（行政計画）との関連性

第3次黒部市地域福祉計画は、高齢者、障がい者、児童、生活困窮、健康といった福  
祉分野別、対象別に対する福祉サービスだけでは十分に対応できない課題について、住

民・地域福祉団体・福祉施設関係者などが相互に連携し支援していく方向性を行政として示すものです。

第3次黒部市地域福祉活動計画は、黒部市地域福祉計画と基本理念を共通のものとし、整合性を取りながら具体的な活動や事業によって取り組みを進めるための活動計画としていきます。また、その取り組みから得られた住民、地域の求めやサービスの必要性について黒部市への提案に努め、柔軟に事業を進めていきます。

#### 4 計画の期間

本計画の期間は、2019年度から2023年度までの5年間を計画期間とします。この期間は、行政計画である黒部市地域福祉計画の計画期間と同一期間とします。なお、住民の求めや課題に対する必要なことや法改正・制度改正に対応して、必要な見直しを随時行います。

## 第2章 第3次黒部市地域福祉活動計画の策定経過

### 1 計画策定の体制

#### (1) 黒部市地域活動計画策定委員会

委員数 15名

構成：自治振興会連絡協議会、地区社会福祉協議会、商工会議所、青年会議所、老人クラブ、ボランティア部会協議会、NPO法人（自立支援）、社会福祉法人（保育・高齢・障がい福祉）、小中学校長会、障害者協会、行政、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会（理事）、公募委員

#### (2) 第3次地域福祉活動計画プロジェクトチーム

メンバー数 7名

構成：黒部市社会福祉協議会職員 7名

### 2 計画策定までの経過

#### (1) 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会の開催

実施日	会議名	内容
5月11日	第1回策定委員会	・活動計画策定について ・ロードマップの確認
8月6日	第2回策定委員会	・活動計画の骨子について ・重点事業説明と解説
9月20日	目標設定ワーキング	・調査中間報告 ・活動計画（概要版）について

11月26日	第3回策定委員会	・概要版のイメージについて ・策定後のロードマップについて
2月25日	第4回策定委員会	・全体計画についての最終報告 ・小地域活動計画の強化に向けて

(2) ワーキングの開催

実施日	会議名	対象者	分野
6月13日	平成30年度 第1回ボランティア連絡会	31団体	地域支援
7月24日	黒部市社会福祉協議会職員全体会議	職員21名	地域支援 在宅支援

(3) ヒアリング調査の実施

実施日	実施団体	対象者	分野
3月～6月 随時	地縁型ボランティア活動支援者	16地区	地域支援
7月～9月 随時	地区社会福祉協議会	16地区	地域支援
7月23日	黒部のとびら（移住者団体）	会員8名	移住者
8月30日	NPO法人 宇奈月自立塾	理事長1名	自立支援

(4) 福祉に関するアンケートの実施

実施日	アンケート名	対象者	分野
2017年度 12月～1月	福祉に関する中学・高校生アンケート調査 (県立桜井高等学校、黒部市内中学校4校)	中学生351名 高校生575名	次世代
7月6日	福祉に関わる団体支援者向けアンケート調査 (民生委員児童委員用)	113名	地域支援
7月20日	福祉に関わる団体支援者向けアンケート調査 (ボランティア登録団体用)	60団体	地域支援



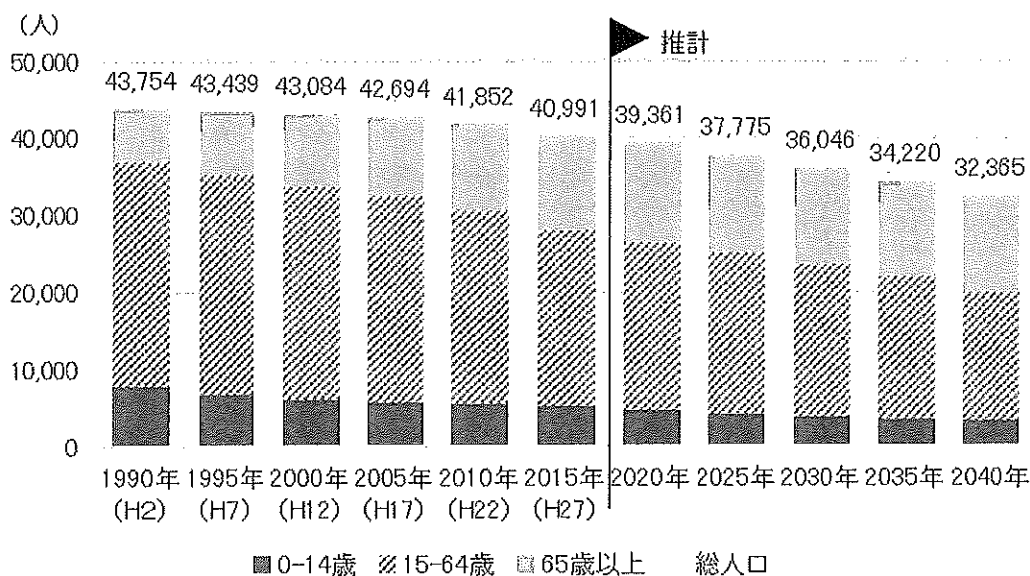
### 第3章 黒部市の地域福祉の現状と課題

#### 1 地域を取り巻く現状と課題

##### (1) 高齢化と少子化の状況

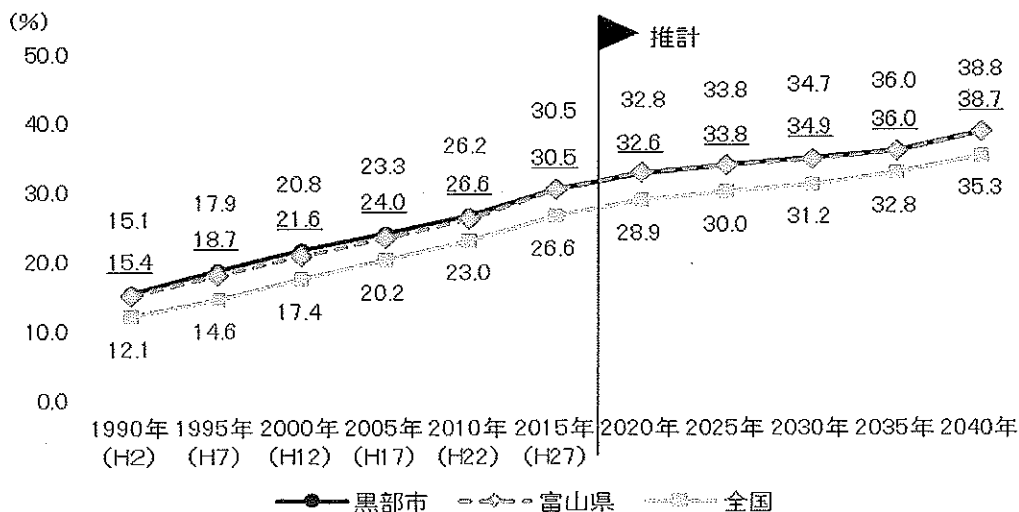
国勢調査によると、本市の人口は、平成27(2015)年は40,991人となっており、年々減少しています。また、本市の高齢化率は30.5%と全国よりも高い数値で、今後の団塊世代層の高齢化とともに急速に少子高齢化が進むものと考えられます。さらに、高齢化率を地区別にみると低いところで22.6%、高いところで49.8%とその差は広く、同一地区内であっても、生活課題は大きく異なっていることが考えられます。

#### ■人口の推移と推計



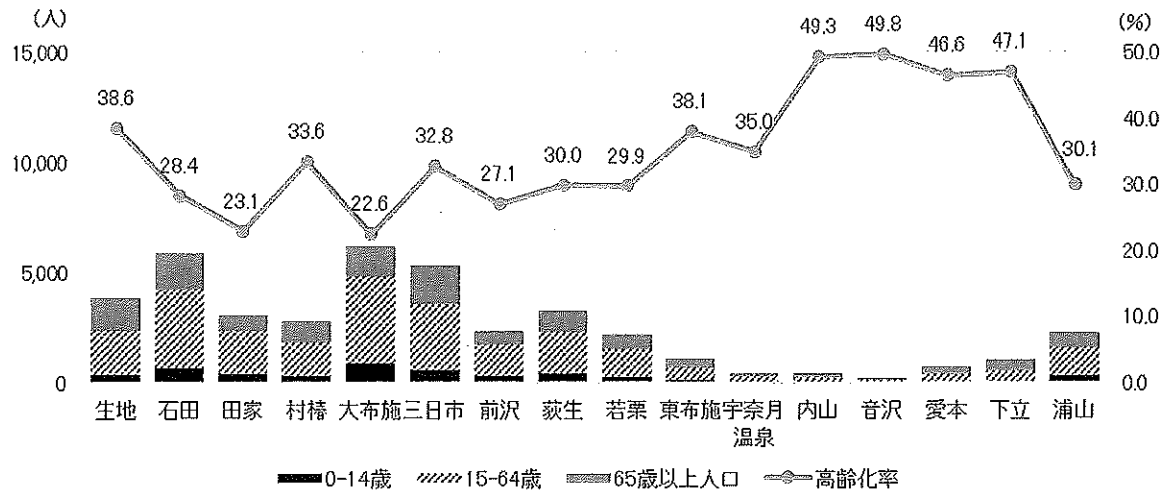
資料：(～2015年)国勢調査、(2020年～)国立社会保障・人口問題研究所

#### ■高齢化率の推移と推計【富山県・全国比較】



資料：(～2015年)国勢調査、(2020年～)国立社会保障・人口問題研究所

■地区別人口【年齢別】

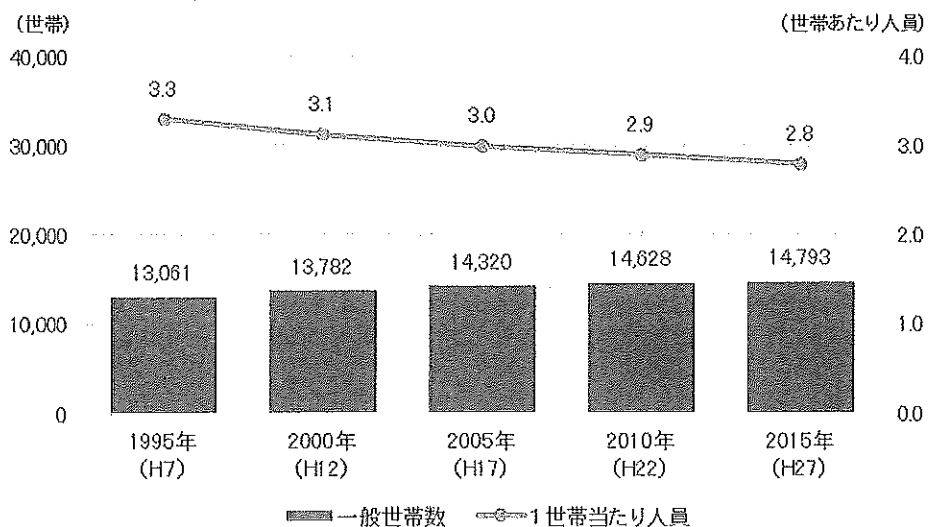


資料：市民環境課（平成 30 年 3 月末現在）

(2) 人口減少と世帯数の増加（世帯員数の減少）の状況

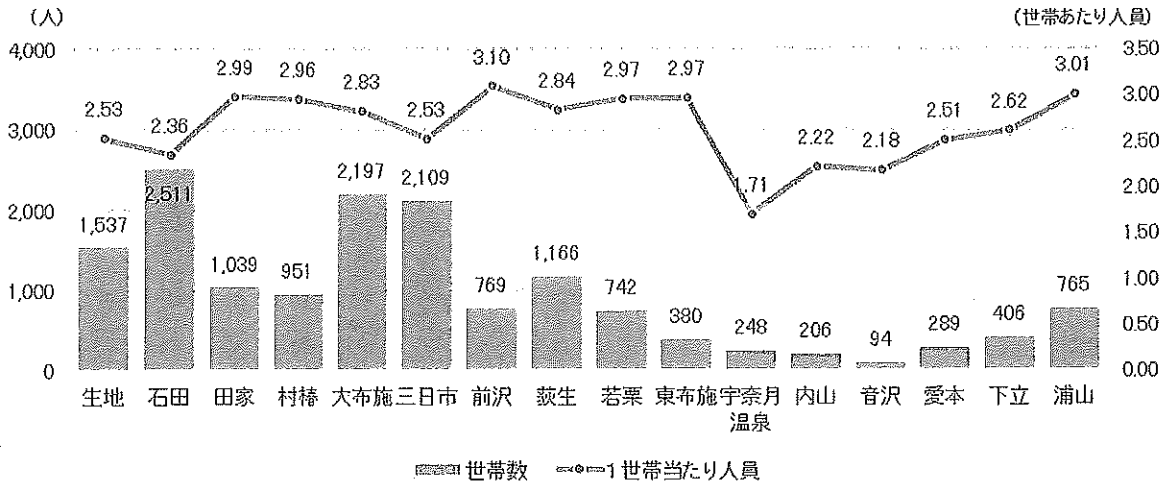
一般世帯数の推移は年々増加している一方で、1 世帯あたりの人員数は年々減少しており、世帯の縮小化が進んでいます。そのような状況からも家族の支え合いの機能がますます低下し、福祉サービスに対する求めや要望が増え、地区ごとに多様化してくると思われられます。また、外国の方の生活課題や要望に応じていくための情報提供手段を考えていく必要があります。

■一般世帯数と 1 世帯あたり人員数の推移



資料：国勢調査

■地区別一般世帯数と1世帯あたり人員数（黒部市の統計）



資料：福祉課（平成30年3月末現在）

■外国人の状況

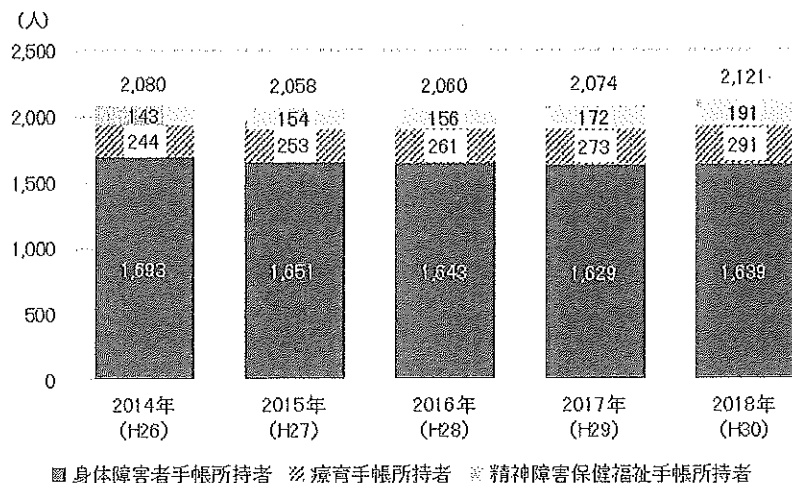
	中国	フィリピン	ブラジル	韓国	米国	その他	合計
人口（人）	153	65	18	16	9	103	364
世帯数（世帯）	111	46	11	14	9	96	287

資料：市民環境課（平成30年3月末現在）

(3) 障がいのある方の状況

障がいのある方（手帳保持者）は、平成30（2018）年度末で2,121人と市の総人口の約5.1%にあたります。障害者手帳保持者は、平成26（2014）年以降、ほぼ横ばいの推移となっていますが、今後、高齢化や社会情勢、労働環境の変化により増加する可能性があると思われます。また、障がい者関連の法整備や制度の充実によりサービスの利用は徐々に増加してくると考えられます。そのような中で、障がい者への理解や障がいのある方が地域で生活する上での課題について、住民・地域が理解を深めていく必要があります。

■障害者手帳保持者の推移（各年度末）

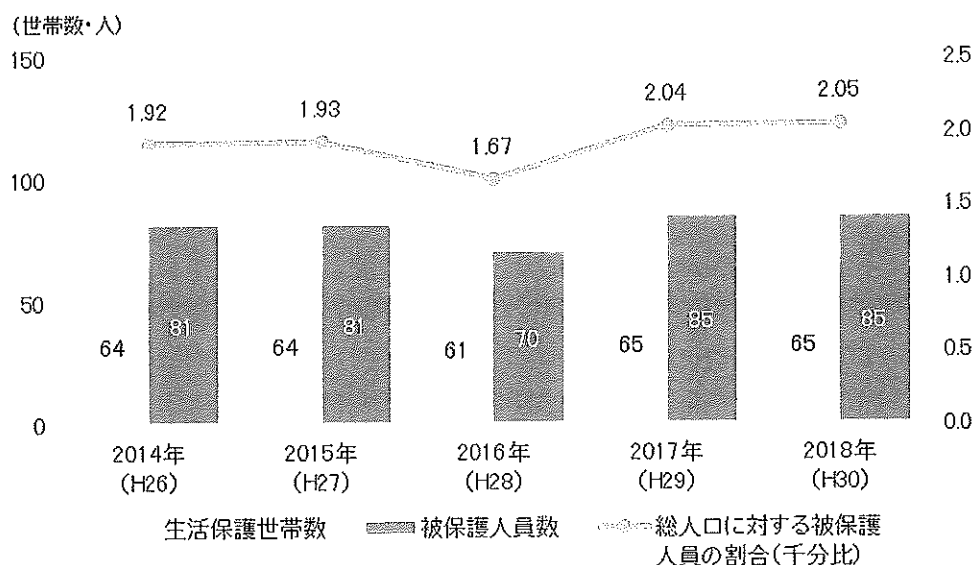


資料：福祉課（各年3月末現在）

#### (4) 生活保護世帯数の状況

生活保護世帯数は、平成 26 (2014) 年以降、横ばいで推移しています。貧困や低所得の問題の多くは、疾病や事故、失業などを起因とした生活困窮があります。さらに債務（借金）や家族の崩壊といった重複した深刻な問題を抱えていることが少なくありません。また、生活困窮者自身においても、社会的な孤立、生活リズムの崩れ、判断能力の不十分さ、自己肯定感が乏しい、コミュニケーションがうまくとれないなどの課題があります。そのため、金銭的な支援のみに限らず、「住宅確保」、「就労支援」、「家計相談支援」、生活困窮家庭の子どもへの「学習支援」など地域社会と関係機関の連携による伴走型の自立支援が必要になってきています。

#### ■生活保護世帯数・被保護人員数の推移

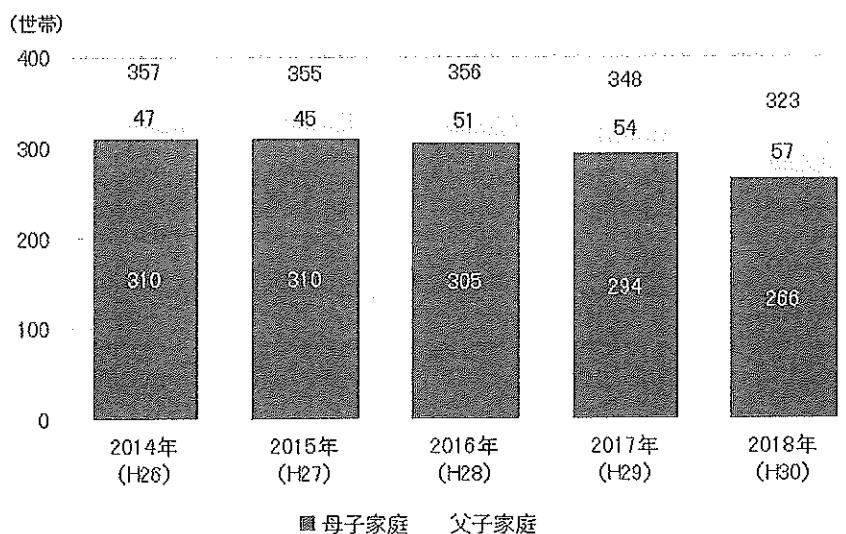


資料：福祉課（各年 3 月末現在）

#### (5) 母子・父子家庭の状況

母子・父子家庭世帯の推移をみると、母子家庭は平成 29 (2017) 年から平成 30 (2018) 年にかけて約 1 割減少しています。父子家庭数は、年により増減がありますが、微増傾向となっています。本市の母子家庭が減少した理由は明確ではありませんが、少子化や未婚者の増加も影響を受けてか、全国的にもひとり親家庭は減少傾向にあります。女性の働く機会が増え、ひとり親に対する行政の支援体制も充実してきましたが、日本のひとり親貧困率は 50.8% (2016 年国民生活基礎調査) と高い水準となっています。それに併せ、子供の貧困も今後さらに対策が必要と考えられます。

■ 母子・父子家庭世帯数の推移

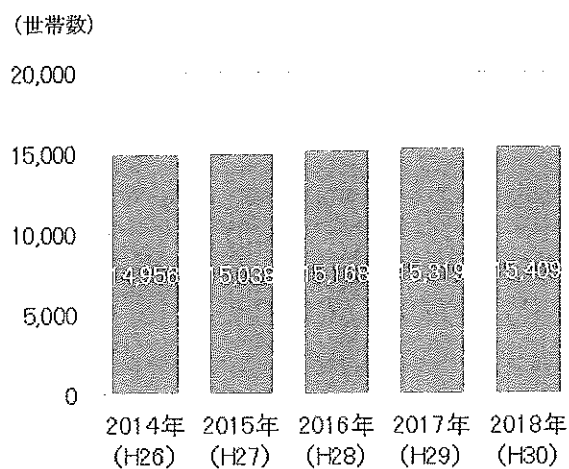


資料：こども支援課（各年3月末現在）

(6) 地域活動等の状況

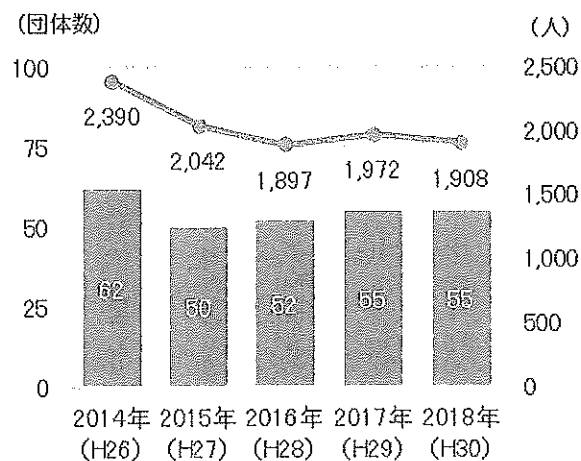
町内会の会員数は微増傾向にあり、ボランティア団体数・活動者数の推移をみると、団体数は平成27年（2015）年から増加していますが、活動者数は減少傾向にあります。今後、人口減少する中、福祉団体活動支援者数を維持していくための取り組みが必要になってきています。

■ 町内会の世帯数の推移



資料：市民環境課（各年3月末現在）

■ ボランティア団体数・活動者数の推移



資料：社会福祉協議会（各年3月末現在）

## 2 地域（地区）における現状と課題

### （1）地区社会福祉協議会

黒部市には、16地区に地区社会福祉協議会があり、地域（地区）単位や小地域（町内）単位での地域福祉活動の大きな役割と機能を果たす存在となっています。しかしながら、地域の生活環境や人口構成、気候など地域性があり、地域間の差はそれぞれにあります。

誰もが安心して暮らせることができる地域を構築するためには、地域の住民が、地域の課題や問題、求めやこれから必要なことなどを自ら把握し、共有することが重要になります。住民が主体となり自治意識をもち、行政、関係機関、専門職と連携し課題や問題の解決に向けた活動が必要です。

## 3 福祉サービスを取り巻く現状と課題

### （1）専門機関（職）の連携

今後、ますます多様化する市民の福祉的求めや必要性への対応を行うためには、専門機関（職）の連携のとれた地域的な受け皿が必要になってきます。また、専門機関（職）が支援を行うためには、自らの専門性を核として住民、行政、自治振興会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、高齢者、障がい者、児童・保育関係等の社会福祉法人・NPO等や学校等の教育機関、司法関係、行政、企業との連携が必要不可欠となってきます。

専門機関（職）は、市民の生活を支える視点に立ち、必要な福祉制度・サービスの調整や組み合わせを行うとともに、多職種と連携を取りながら役割分担し、支援することが重要になってきます。

## 4 第2次黒部市地域福祉活動計画の分析と評価

第2次地域福祉活動計画は、地域福祉の推進役としての黒部市社会福祉協議会の役割と住民・地域、行政、専門機関（職）、福祉活動者（団体）、企業等との連携・協働するための行動計画として位置づけされていました。しかし、実際には黒部市社会福祉協議会が実施する事業を中心に計画がつけられており、幅広い地域福祉に関わる団体や活動者が関わるには、受け身的なものになりがちでした。このようなことから第3次黒部市地域福祉活動計画は、対等な関係性で話し合い（対話）、共に考えて動く体制となることが理想だと考えられます。ついては、住民・地域、行政、専門機関（職）、福祉活動者（団体）、



企業等が連携・協働していけるように、また共に明確な目標の基、それぞれが具体的な活動を進めていけるものをつくる必要があると考えました。

## 5 新しい地域福祉活動計画のあり方

### (1) 持続可能な地域づくり

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（エス・ディー・ジーズ）「2016年から2030年までに達成すべき17の環境や開発に関する国際目標」は、持続可能な世界を実現するために作られたものです。ここ黒部市においても「持続可能な地域づくり」を目指しながら、SDGsとの関連性も検討しました。またSDGsの策定プロセスを参考に計画づくりに取り組みました。



### (2) 共通のゴールづくり

黒部市社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的存在としてその役割と機能を発揮しつつ、それぞれの団体や活動者など地域福祉に関わる全ての人々が共に目指す目標を明確に示すものを策定していくこととしました。また、地域住民を含め分かりやすく、取り組みやすいデザインや広報啓発を行っていきたいと考えました。

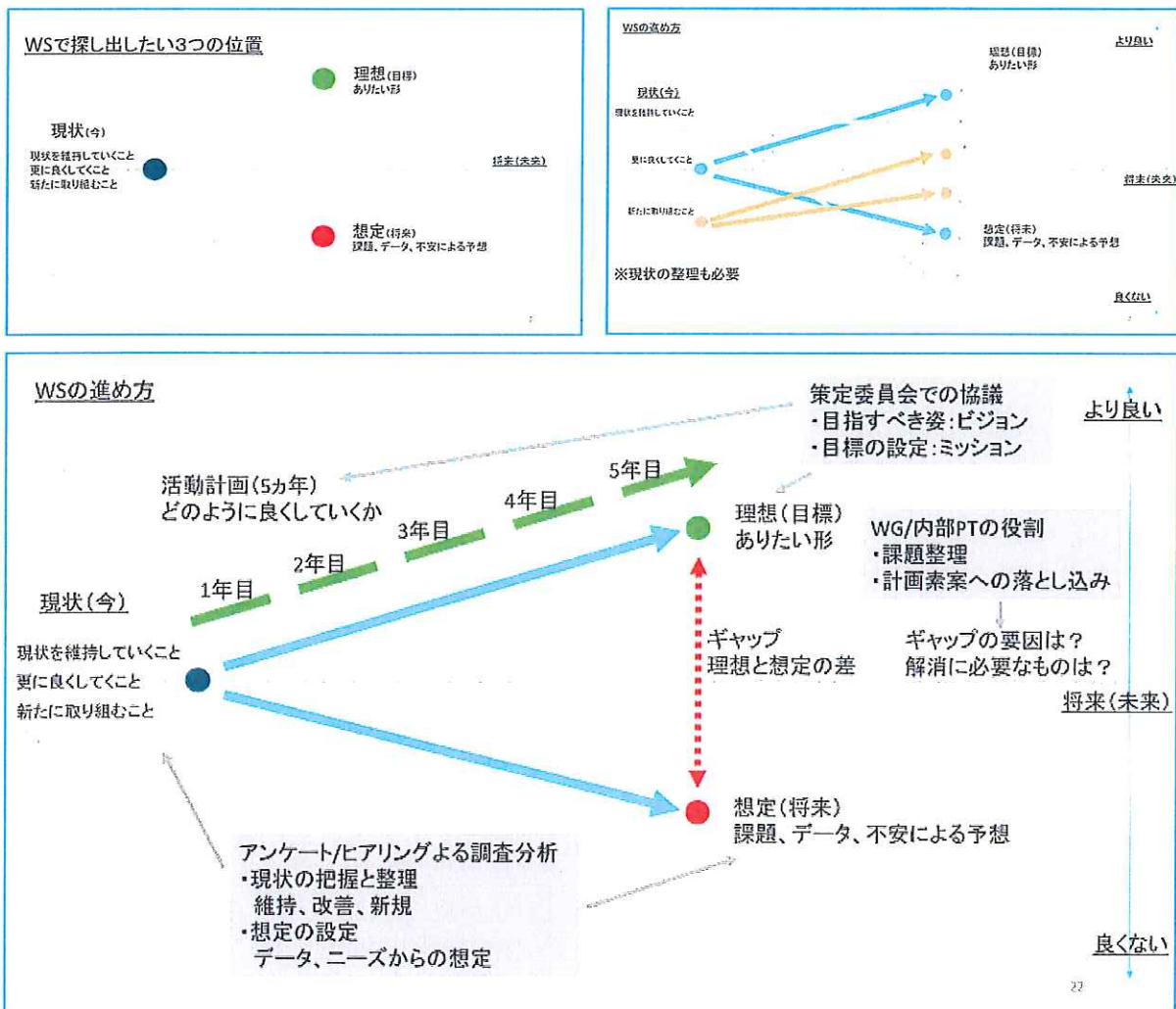
(3) 参加型での課題整理、目標設定

地域福祉活動に関わる様々な団体や活動者からのアンケート調査、ヒアリング調査、並びに地域福祉活動計画策定委員会によるワーキングにより現状を抑えながら、将来の理想（目標）をイメージし、今後想定される将来像とのギャップを導き出し、その課題解決のための取り組むべきことをまとめていきました。

※調査の詳細資料は別冊の「平成30年度黒部市社協シンクタンク事業報告書」に記載



【参考資料】策定委員会でのWS資料





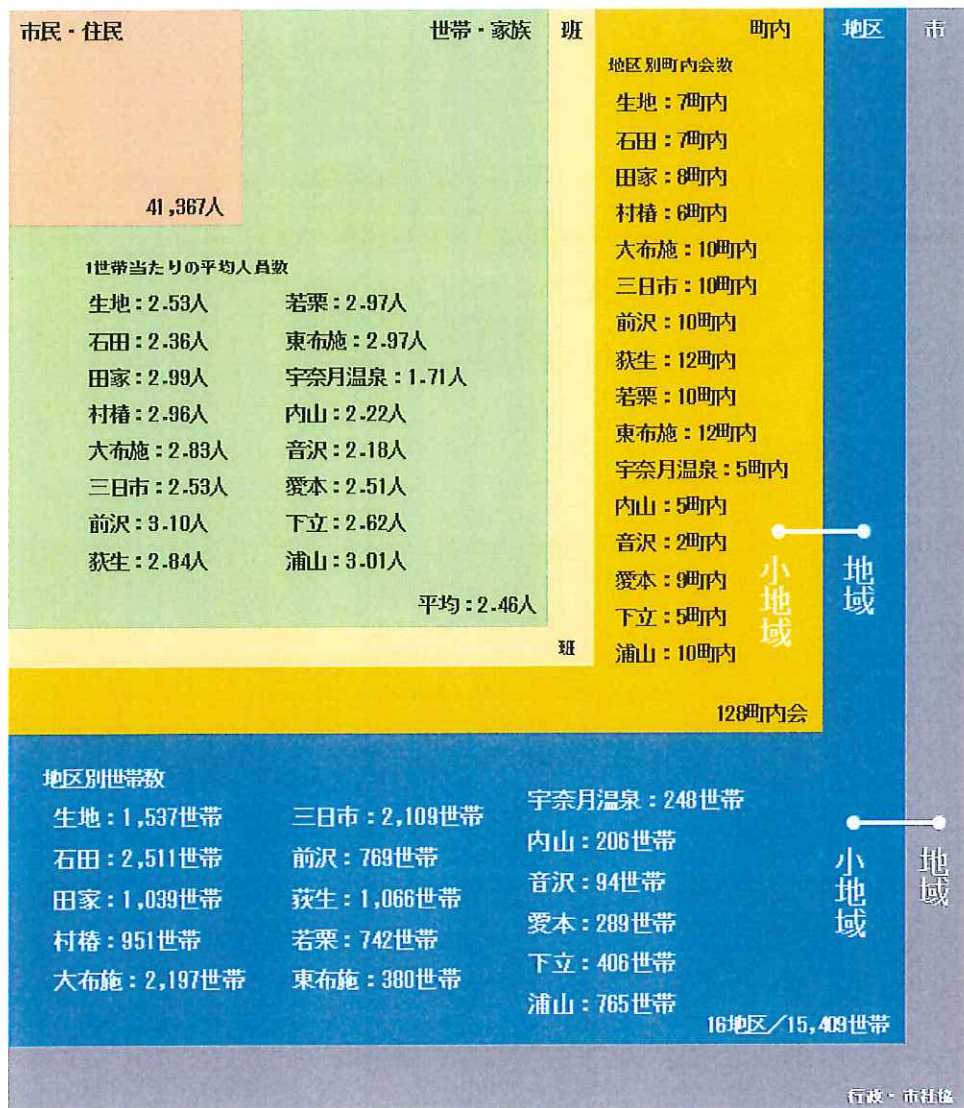
(4) 地域・小地域の範囲

地域の範囲には、「町内会」「自治振興会」「地区社会福祉協議会」「行政（市社会福祉協議会）」などがあげられます。黒部市全域からみる小地域は、16 地区を指し、16 地区はそれぞれの町内会を小地域として捉えています。

世帯（住民）はそれぞれの町内会に所属し、町内会は、自治振興会として16の地区に組織化されています。本計画においても、それぞれの角度で「地域」「小地域」を区分しています。

16 地区の世帯数の差異は大きく、世帯数と町内会の数は必ずしも比例していないことがわかります。また、世帯数の数と1世帯当たりの平均人員数においても同じことが言えることから、小地域単位で見ると、地区ごとの生活課題が違うこと、取り組むべき活動内容もそれぞれの地域特性を活かしていくことが重要であると考えられます。（図1参照）

図1：地域・小地域の範囲



※市民環境課の統計（平成30年3月末現在）を参考に作成しておりますので、実際の町内数と異なる場合もあります。

## 6 アンケート・ヒアリング調査結果から見えてきた現状と課題

### (1) 課題の複雑化

年々、地域課題が複雑化し、高い専門性が必要とされています。そのような中で、作業も複雑化し、デジタル化についていけない、学ぶ時間がない、すべがないといった課題が多くあげられています。

### (2) 連携・協働の難しさ

課題が多くある中でどこを頼ればよいかわからないとの声や、行政や社会福祉協議会との連携の不足が問題に挙がっています。また、家族支援（自助）が薄れ、制度やサービス（公助）に頼りすぎている傾向にあります。

### (3) 担い手不足

リーダー不足、福祉人材の不足、地域活動者の減少、福祉専門職の不足といった担い手の不足が人口減少と共に大きな課題としてあげられています。

### (4) 地域での孤立、孤独の進行

近所づきあいの希薄化、核家族化と共に老々介護、2025年問題、8050問題などの課題により、地域での孤立、孤独の進行がうかがえます。

### (5) 人口減

黒部市の人口は、41,367人（平成30（2018）年3月末の住基基本台帳）で、平成27年（2015）年度の国勢調査を基に策定した黒部市人口ビジョンでは、2060年の目標人口を33,000人としています。このことから今後も人口減少と少子化、高齢化が続くことが予測されます。

### (6) 地域福祉活動の「良い点」や「やりがい」

地域活動支援者が支援していく中でさまざまな課題があげられる中、一方で、地域支援活動に関わって良かったと感じることも多くあげられています。いろんな世代とつながるきっかけがつけられ、ネットワークが広がること、学びが多く、感謝されるなどがやりがいや生きがいにつながると感じています。

## 第4章 第3次黒部市地域福祉活動計画における事業展開

### 1 基本理念

# 「お互いさまの社会の実現に向けて」

～誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの推進～

この基本理念は、行政計画である第3次黒部市地域福祉計画と民間計画である第3次黒部市地域福祉活動計画が連携・協働し活動を進めるため第3次黒部市地域福祉活動計画の基本理念として位置づけました。

基本理念の趣旨は、市民一人ひとりが地域社会に積極的にに関わり、年齢や障がいの有無、性別、国籍などの違いを超えて誰もが互いに支え合いながら安心して暮らせるお互いさまの社会づくりを目指すものです。

### 2 活動方針

この活動計画は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標（ゴール）にどんなこと（ターゲット）に力を入れて取り組んでいくかを示すものです。

## 黒部の福祉を良くする活動計画

Kurobe Social Welfare Action Plan

2019年度 — 2023年度





## (1) 活動人口を増やそう



黒部市人口ビジョン(2015年策定)では、今後の人口は減少し、一方で高齢者の増加が見込まれます。そのような中で、地域活動を発展的また

は、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口(地域活動に参加する人)を増加させていくことを目指します。

### 地域で活動する人を増やし 地域の担い手を育てる

- 1 小さな地域で出番を増やす
- 2 住民主体の意識を育てる
- 3 世代間交流事業に取り組む

### 地域で活動する人を増やし、地域の担い手を育てる

#### ■ターゲット①「小さな地域で出番を増やす」

市民活動やボランティア活動、企業の社会貢献活動などが地区単位での地域福祉活動とつながり、地元での活動の場を増やすことで地域を支える、関わる担い手を増やすことにつながります。それぞれが自分たちの強みと得意なことを活かし、地域づくりに参加する、出番をつくります。

##### ◎具体的なアクション

- ・町内単位での集いの場を町内の住民で立ち上げます。

#### ■ターゲット②「住民主体の意識を育てる」

これからの人口動態を知り、活動人口という概念を知ることによって意識改革を図り、行政や制度などだけに頼らない、自分たちでできることをやっていく住民主体の意識を育てます。

##### ◎具体的なアクション

- ・地区ごとの住民座談会を開催し、話し合いの場をつくります。
- ・地区、町内単位の人口動態社会環境の変化などを情報公開(可視化)します。

#### ■ターゲット③「世代間交流事業に取り組む」

核家族化や単身世帯の増加が見込まれる中において、多様な世代がつながり交わる場を意図的に作り出す必要があります。その中で相互理解や連携・協力、地域でのきずなを深めていきます。

##### ◎具体的なアクション

- ・もともとあるイベントや行事に世代間を意識したプログラムを盛り込みます。



## (2) 話すことから始めよう



話すことから  
はじめよう

人と人とのつながり、信頼関係を構築するためには、知る場、学ぶ場、話し合う場、そして当事者同士が支え合う場づくりが必要です。話し合

い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからの自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

ICT(インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)…… 情報通信技術の略。パソコンやスマートフォン、スマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

話し合う場、学び合う場、  
支え合う場をつくる

- 1 市内で学び合う場をつくる
- 2 新しい話し合いの場をつくる
- 3 ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる」場をつくる

### 話し合う場、学び合う場、支え合う場をつくる

#### ■ターゲット①「市内で学び合う場をつくる」

支援者や活動者が集い、思いや悩みを共有したり、活動のヒントを得たり、お互いに学びあう場づくりを進めることで住民が主体となるまちづくりを目指します。

◎具体的なアクション

- ・ ボランティア活動者が集まる場づくり (黒部市ボランティア連絡会)
- ・ 市内社会福祉法人のネットワーク (黒部市社会福祉法人連合会)
- ・ 福祉専門職/関係者の緩やかな交流とネットワーク (ケアカフェ)

#### ■ターゲット②「新しい話し合いの場をつくる」

A か B かを決める話し合いではなく、共に考え導き出していく新しい答え C を生み出す対話の場づくりを目指します。

◎具体的なアクション

- ・ 市民の声、福祉関係者の声を集める (黒部市社会福祉大会)

#### ■ターゲット③「ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる」場をつくる」

ICT の力を活用し、新たな情報の受発信とオンライン上でつながる場をつくり出し、

◎具体的なアクション

- ・ 地域福祉分野への ICT 利活用研究
- ・ WEB や SNS による福祉関係情報の受発信
- ・ 市民向けの福祉情報スマホアプリ開発

### (3) すべての人々に福祉を



誰もが安心して地域で生活していきることができる地域共生社会を実現するためには、「お互いさまの助け合い」の心を育てていく必要があります。

また、声なき声を拾い、時代の変化と共に生まれ続けるマイノリティーな立場にある人々を「誰ひとり取り残さない」の精神のもと支えていく社会の実現を目指します。

マイノリティー……社会的少数者または社会的少数集団。社会的少数派とは、その社会の権力関係において、その属性が少数派に位置する者の立場やその集団を指す。

誰もが安心して暮らせる  
社会的孤立の無い  
地域をつくる

- 1 「お互いさまの支え合い」を実現する
- 2 「声が届く地域、声を見つける地域」を目指す
- 3 小地域単位での地域課題解決力を高める

#### 誰もが安心して暮らせる、社会的孤立の無い地域をつくる

##### ■ターゲット①「お互いさまの支え合い」を実現する」

黒部市全体で地域の生活を支え合う「くろベネット」事業を推進していくことで、住民、地区、市社協、企業、行政、専門職が連携協働し、それぞれの強みを活かしながらお互いに支え合う地域共生社会の実現を目指します。

##### ◎具体的なアクション

- ・黒部市全域による包括的な見守り体制「くろベネット」の推進

##### ■ターゲット②「声が届く地域、声を見つける地域」を目指す」

誰ひとり取り残さない社会の実現のためには、マイノリティーな課題や悩みを持つ人たちが声を上げられるような環境、また、声を上げることの出来ない人たちを見つけられるよう、制度の狭間やサービスで対応しきれない課題について支援する体制を整備します。

##### ◎具体的なアクション

- ・地区社会福祉協議会を中心とした小地域単位の福祉活動強化

##### ■ターゲット③「小地域単位での地域課題解決力を高める」

地域課題の解決や相談の窓口を身近にある地区単位でキャッチできる力を高めていくことで、初期の段階での対応や地域のボランティアや住民主体の活動で、きめ細やかな支援を行うことが出来ることを目指します。

##### ◎具体的なアクション

- ・市社会福祉協議会からの地区へのアウトリーチ支援強化
- ・伴走型支援の強化

#### (4) U-40代の力を活かそう



地域を支える支援者の高齢化が深刻な課題として挙げられている中、次世代に引き継ぐしくみとして、地域での話し合いの場面において若

者の声を意識して入れていく必要があります。人生100年時代を見据えて、40代以下が地域づくりに関心を持つ機会をつくり出し、参加する場を提供することで次世代の社会参加を促すことを目指します。

U-40代(アンダー40代) ……「U(ユー)」はアンダー(under)の頭文字で、「下の」、「下に」を意味する。この場合は49歳以下を指す。

U-40代に  
地域福祉への関わりや  
参加の機会を増やす

- 1 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす
- 2 10代、20代、30代、40代の声を入れる
- 3 全世代で福祉体験教育に取り組む

#### U-40代に地域福祉への関わりや参加の機会を増やす

##### ■ターゲット①「小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす」

児童/生徒がボランティア活動や地域活動に関わる機会を増やすことで福祉教育を推進し、「自分たちの地域を自分たちでつくっていく」という意識を育てていきます。

##### ◎具体的なアクション

- ・学校における福祉教育プログラムへの福祉専門職の派遣マッチング事業

##### ■ターゲット②「10代、20代、30代、40代の声を入れる」

年上世代が物事を決めていくのではなく、全世代が参画した対話と検討の場が必要です。「共に考え、共につくる」には若者の声を聴くことから始めます。

##### ◎具体的なアクション

- ・会議の構成メンバーに世代、男女のバランスを意識する。
- ・10代(児童・生徒)の声をアンケートやヒアリングで集める。

##### ■ターゲット③「全世代で福祉体験教育に取り組む」


これからの地域福祉を支えるには、全世代の総合力が必要です。特に災害時などの緊急時は、すべての人々が協力し助け合い、支え合うことが必要になります。普段からのつながり「お互いさま」の意識を高めていきます。

##### ◎具体的なアクション

- ・全世代対象の災害時をテーマにした研修



## (5) パートナリシップで目標を達成しよう

**5** 

**パートナーシップで目標を達成しよう**

複雑多様化する地域課題を解決していくためには、それぞれの強みや利害を明確に連携協働していくことが必要不可欠です。異業種や異分野でつながる多職種の場づくりや市内16地区間での連携体制の強化を目指します。

---

パートナーシップ……協力関係。共同。提携。  
プラットフォーム……動かすために必要な、土台となる環境、土台となっているもの。  
コラボレーション……共に働く、協力するという意味で、共演、合作、共同作業、利的協力を指す語である。

**様々な連携・共同で  
地域課題を  
解決していく力をつける**

- 1 つなぐプラットフォームを整備する
- 2 異業種/異分野が  
コラボレーションする場づくり
- 3 地区同士の助け合い、連携を強化する

### 様々な連携・共同で地域課題を解決していく力をつける

#### ■ターゲット①「つなぐプラットフォームを整備する」

市民活動やNPO法人などの支援、企業の社会貢献、SDGsの推進なども行えるよう、現在のボランティアセンターとしての機能を強化し、様々な人や団体、活動をつなぐ場をつくります。

##### ◎具体的なアクション

- ・コミュニティサポートセンター（仮称）の設置（ボランティアセンターからの進化・機能強化）

#### ■ターゲット②「異業種/異分野がコラボレーションする場づくり」

「課題」や「思い」をベースに業種や分野を問わず関心がある人、団体が集まり、そのテーマについての解決策を考え、アイデアを出し、コラボレーションし実行していく場と機会をつくります。

##### ◎具体的なアクション

- ・課題解決のプラットフォーム「課題解決ラボ」（仮称）の開設

#### ■ターゲット③「地区同士の助け合い、連携を強化する」

それぞれの地区（16地区）の特性を活かした地域づくりを支援する一方で、地区間の連携による効率化や生活圏域を考えた支援策など地区のエリアにとらわれない連携と協働を促進しています。

##### ◎具体的なアクション

- ・16地区間の交流とネットワーク強化（くろべミニサミット）

### 3 重点目標

5つのゴールと共に、市社会福祉協議会が中心となり3つの重点的な事業を進めます。

#### 私たちが取り組む3つの重点事業 [5カ年推進]

##### くろベネット

誰もが安心して暮らせる包括的な見守り支援体制の強化

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、ご近所や地域単位での普段の見守りを大切にしながら、黒部市全域で住民と企業や行政、専門職などが連携することで市民総参加の地域共生社会の実現に取り組んでいきます。



##### 地域福祉分野でのICTの利活用

ICTを利活用した地域福祉事業の効率化、発展的な継続

人口減少や福祉の担い手不足、複雑多様化する地域課題に対して、ICTの力を活用することにより、効率や利便性を高め、福祉活動支援者の環境や活動を間接的に支援し、地域福祉推進力を強化していきます。



##### 小地域福祉活動の強化

それぞれの地域特性に対応した地域福祉推進の計画づくり

黒部市全体を考えながらも、それぞれの小地域(16地区)の地域特性や実情にあった活動や事業を考えることが必要です。地域単位で調べ、考え、話し合う機会をつくり「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」住民主体の活動をつくりだします。



(1) 「くろべネット」事業

誰もが安心して暮らせる包括的な見守り体制の強化

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、ご近所や地域単位での普段の見守りを大切にしながら、黒部市全域で住民と企業や行政、専門職などが連携することが連携することが実現に取組み組んでいきます。





## (2) 「地域福祉分野でのICTの利活用」

ICTを利活用した地域福祉事業の効率化、発展的な継続

人口減少や福祉の担い手不足、複雑多様化する地域課題に対して、ICTの力を活用することにより、効率や利便性を高め、福祉活動支援者の環境や活動を間接的に支援し、地域福祉推進力を強化していきます。

**黒部の福祉・くらし**  
**のあるあるを集めて**  
**みんなでその場で一気に**

**くろべふくし知恵袋LINEbot**  
**をつくらう！その名も「ライタン」開催決定**

ライタン (Tanaka-Ihara) とは、Wako (和歌) と Hamamochi (浜茂) のことから、和歌山県や、あるあるを出したり、質問を出したり、回答を出したりするLINEbotです。  
 当時は、100人の地域福祉関係者で、2週間を予定して「くろべふくし知恵袋LINE bot」を作成されました。

**日時** 2019年3月8日(金)  
 18時00分~20時30分

**会場** 黒部市福祉センター  
 大広間 (黒部市庁舎464・1)

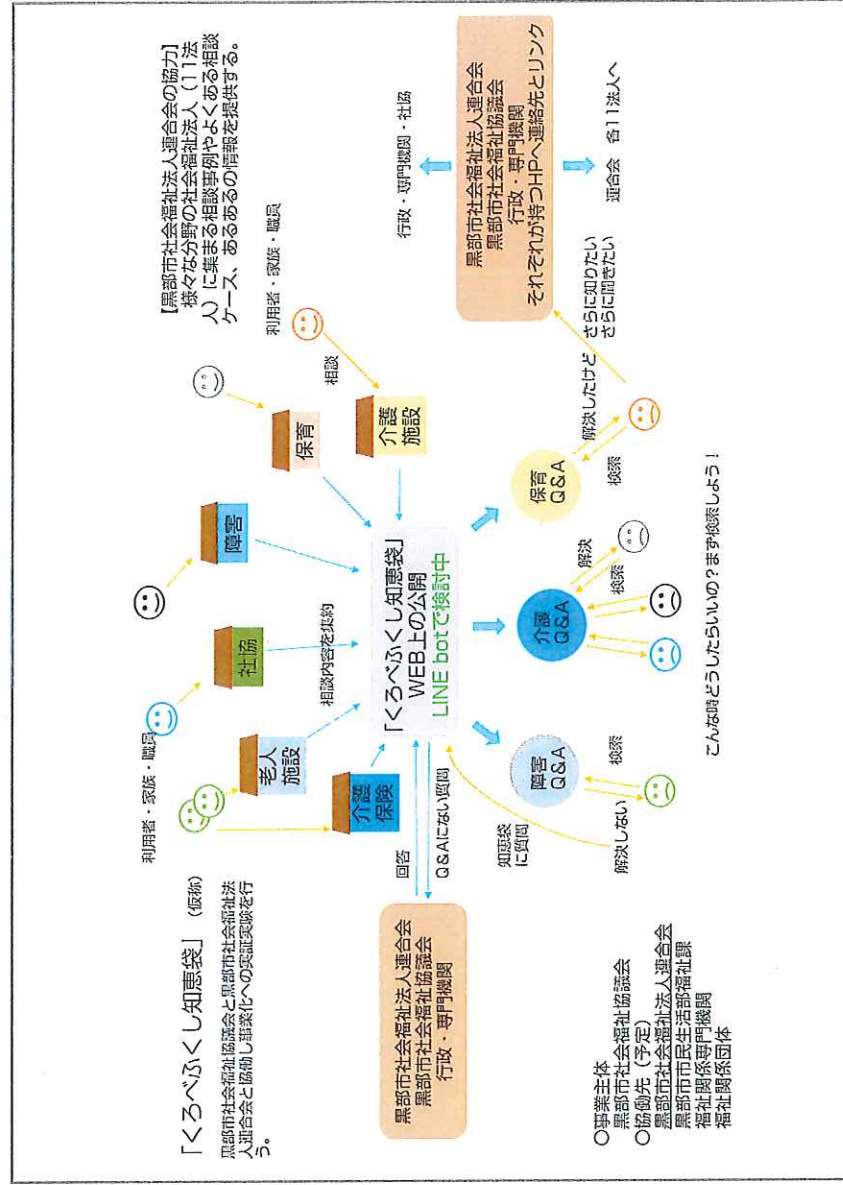
**定員** 先着100名

LINE BOTとは、LINEで動く、ネット上で動くチャットボットのことです。LINEbotは、LINEのチャット画面からメッセージを送ると、LINEbotが自動で返答してくれます。

黒部市社会福祉協議会  
 黒部市民生部福祉課  
 福祉関係団体



ICT利活用イベントの開催

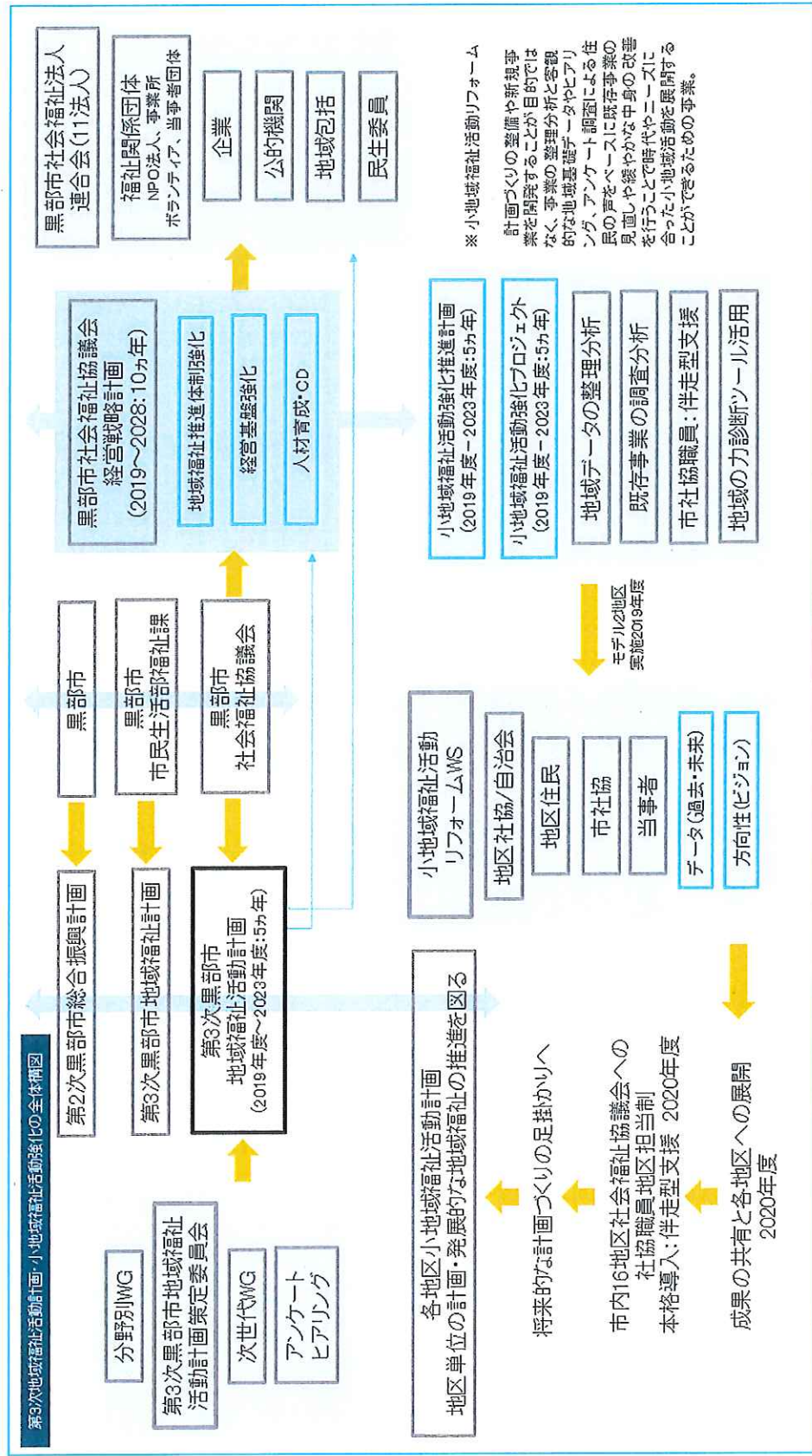


LINEbotの開発への取り組み

(3) 「小地域福祉活動の強化」

それぞれの地域特性に対応した地域福祉推進の計画づくり

黒部市全体を考えながらも、それぞれの小地域（16地区）の地域特性や実情にあった活動や事業を考えることが必要です。地域単位で調べ、考え、話し合う機会をつくり「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」住民主体の活動をつくりだします。

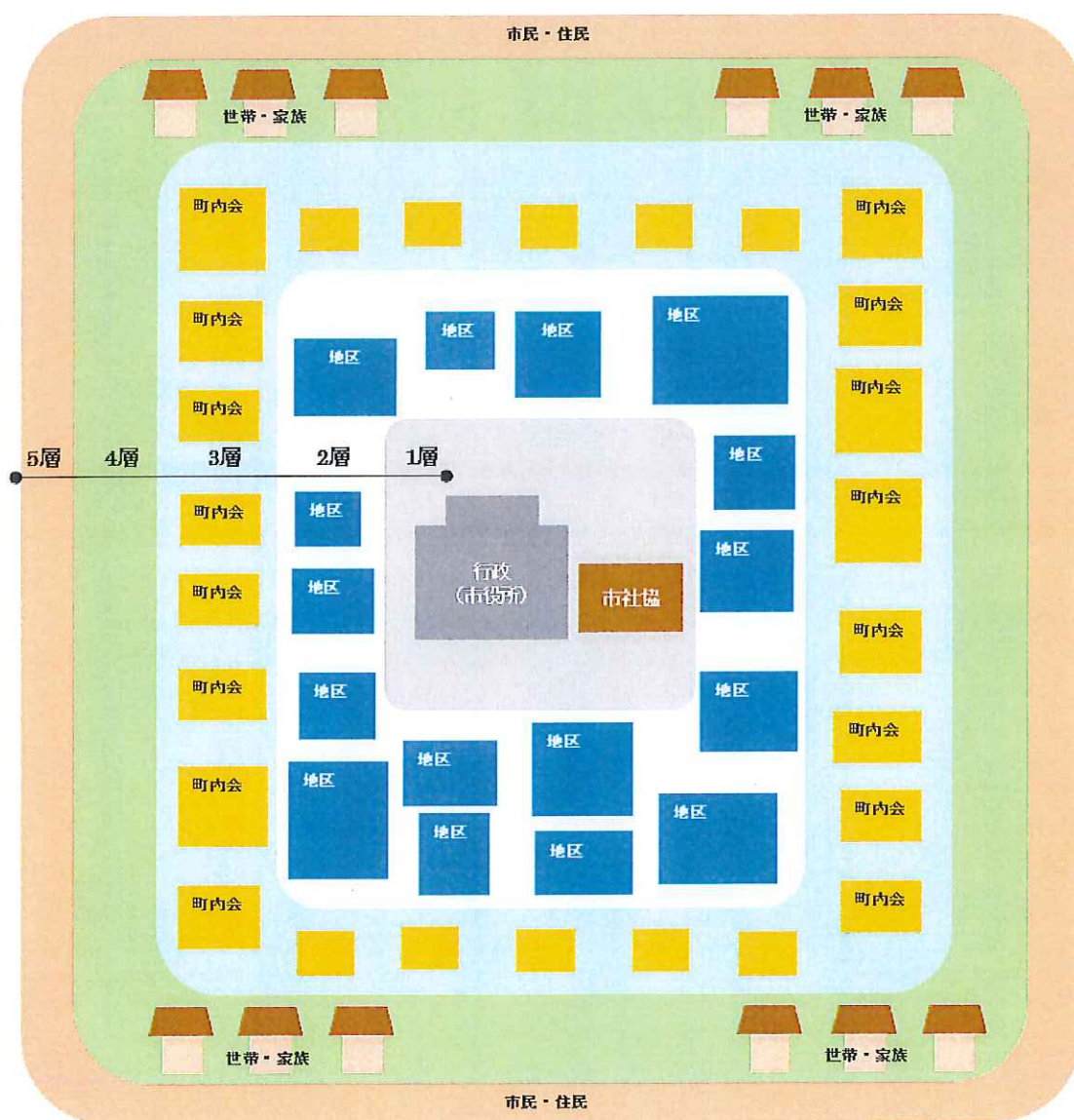




#### 4 地域福祉活動計画の体系図

事業・活動の推進については、黒部市地域福祉計画との連動性・整合性を保つため地域福祉計画（行政計画）で策定された施策体系を軸に具体的な事業を推進していきます。また、事業の推進にあたっては、世帯・個人から市内全域とのつながりと事業の焦点を意識するため事業の範囲を5層の圏域として明確にして実施していきます。（図2参照）

図2：5層の圏域



5 第3次黒部市地域福祉活動計画の進行管理

(1) 活動計画の公表と周知

活動計画を進めるためには、住民一人ひとりの参加と活動が必要です。また、住民の生活や福祉に関わるさまざまな関係機関・団体の理解が重要になってきます。多くの住民や関係機関・団体に広く周知するため、黒部市社会福祉協議会のホームページやSNS等WEBを活用した情報発信、広報や地域イベント、会合の機会を通じ市民の理解と活動につなげていきます。

5 GOALS for黒部  
1年間の黒部での取り組み

PDCAサイクルの段階的計画

【1年目】

- ・どのくらいの団体、企業が取り組んでいるか？
- ・既存事業のマーキング
- ・5 goalの意識啓発と参加呼びかけ
- ・SDGsや総合振興計画との関連
- ・目標指標や数値の検討

【2年目】

- ・目標数値の設定
- ・市民、個人でも参加できるしくみづくり
- ・評価、改善プラン

【3年目～】

評価・改善・推進のサイクル

5 GOALS for黒部  
広報啓発、推進 (例①)  
名刺の裏面を利用し、  
個人が応援する(一押し) goalを選ぶ

1 11111  
活動人口を増やそう

私は、黒部の福祉を良くするために  
goal1を応援します。

5 5  
パートナースキップで目標を達成しよう

私は、黒部の福祉を良くするために  
goal5を応援します。

広報啓発、推進 (例②)  
シールの作成、データでの提供  
事務所、店舗、計画書や報告書へ

平成30年度実施事業

ボランティア活動体験普及事業

---

黒部市社会福祉法人連合会

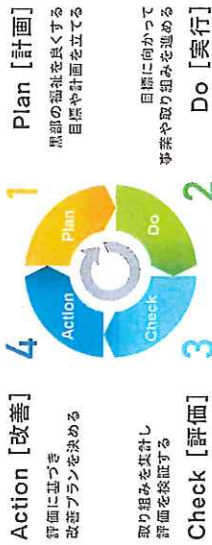
職員研修会



(2) 活動計画の評価

黒部市地域福祉活動計画評価委員会を設置し、活動計画の進行や評価を行うとともに、また、新たに発見された求めや課題、法・制度改正に対応し必要な見直しを行うなど柔軟に対応していきます。

PDCAサイクルで  
ビジョンを実現しよう



計画を実行していくための方法PDCAサイクル

Do (実行)

それぞれが5つの目標に向かって事業や取  
り組みを進めていく  
中間支援団体、社会福祉法人、公益法人、  
福祉関係団体、NPO法人、ボランティア  
団体、企業、住民等

(例)

- 黒部市社会福祉協議会
- くろべネットワーク推進事業
- ボランティアセンター事業
- 日常生活自立支援事業
- ...etc.
- 黒部市民生委員児童委員協議会
- 市民生委員児童委員研修
- 子育てすくすくネットワーク
- ...etc.
- 日本語教室IN黒部
- 外国人へのやさしい日本語教室
- 北日本新聞販売店
- 「くろべネット」企業版へ協力
- 黒部商工会議所若年部
- 生活困窮者への生活環境整備の協力

市社会福祉協議会は、活動計  
画の実行と推進を図るための  
活動を行う。

## 第5章 地域福祉活動計画を推進する基盤強化

### 1 黒部市社会福祉協議会の組織基盤強化

#### (1) 地域福祉活動推進のプラットフォーム機能

黒部市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）は、黒部市の地域福祉を推進する中核的団体として経営理念である「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進を目指しています。まさに、地域福祉活動計画を推進していくためには市社協がそのプラットフォーム的な役割を果たし、様々な団体を有機的につなぐことが必要となってきます。

#### (2) 組織基盤の強化

市社協の活動財源である市補助金や会費の確保と共に、複雑多様化する地域福祉課題に対して、専門性を備えた職員の育成が急務となってきます。また、将来を見越した先駆的な課題へのアプローチや投資的課題へも積極的に取り組むための体制強化を図る必要があります。

### 2 共同募金会活動の強化

#### (1) 地域福祉推進の財源

地域福祉推進のためには、地域の活動の基盤となる財源も必要となってきます。共同募金は地域福祉推進の財源として、じぶんのまちを良くしようがんばっている団体を財源ベースで支える市民の寄付による財源です。

#### (2) ボランティア・市民活動を支える役割

地域福祉活動の担い手は、従来の社会福祉法人や福祉団体に加えて、NPO法人やボランティア、市民団体などへの期待が高まっています。先駆的に取り組む事業や、活動規模の小さな活動などにも柔軟に助成できるしくみは、ボランティア活動や市民活動を推進するための大きな力となります。

#### (3) 共同募金運動の見える化

黒部市共同募金委員会では、平成20（2008）年度より共同募金改革に取り組み、着実に募金額の増額が続いています。その背景には、助成先の活動が募金者に見えるようにする「ありがとう運動」や地域の行事への参加を積極的に行ってきたことが共同募金への理解と協力につながったと考えています。

今後はより多くの活動へ助成を行い、その活動を募金者（住民、地域、企業）へ伝え、共感してもらえるようなしくみづくりを強化していきます。



## 【資料編】

### 1 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

#### (設置目的)

第1条 地域福祉活動計画は、行政が策定する地域福祉計画と連携・協働し、地域住民及び福祉・保健等の関係団体が、地域福祉推進に主体的に関わるための具体的な活動の計画である。つまり、地域住民やボランティア、当事者などが主体的に参加し、地域社会を基盤にして進めていく地域福祉をどのように推進していくかをまとめていくものである。その検討と協議を行うために地域福祉に関わる幅広い分野からの委員を選出した第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

#### (検討・協議事項)

第2条 委員会は次に掲げる事項について検討し、計画書をまとめる。

- (1) 黒部市の地域福祉の現状と課題
- (2) これからの地域福祉のあり方
- (3) 地域福祉活動計画における事業展開

#### (委員会の設置)

第3条 委員会の運営は会則として別に定める。

- 2 委員会の庶務は、本会総務課経営戦略係において処理する。

#### (組織)

第4条 委員会の委員は15名以内とする。

- 2 委員は、黒部市社会福祉協議会正副会長会議で検討し、会長が任命する。
- 3 委員の内、2名は公募委員を募集する。

#### (委員の任期)

第5条 委員の任期は、平成30年5月11日から平成31年3月31日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (細則)

第6条 この要綱に定めるものの他、必要な事項は、本会会長が別に定める。

#### 附則

この要綱は、平成30年5月11日より施行し、平成31年3月31日にその効力を失う。

2 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員名簿

	役職名	氏名	選出区分
委員長	社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 副会長	松原 宗一	社会福祉
副委員長	社会福祉法人 あいじ福祉会 黒部愛児保育園 園長	岩井 清美	保育
委員	黒部市立生地小学校 校長	佐竹 康子	児童生徒
委員	黒部商工会議所 専務理事	島 武夫	商工
委員	黒部市地区ボランティア部会協議会 会長	村井 圭子	ボランティア
委員	NPO 法人宇奈月自立塾 理事長	牟田 光生	NPO 自立支援
委員	社会福祉法人 緑寿会 特別養護老人ホーム越之湖 施設長	堀内 進	福祉施設
委員	黒部市 市民生活部 次長 福祉課長	霜野 好真	行政
委員	公益社団法人 黒部青年会議所 黒部青年会議所 理事長	島 大樹	青年
委員	村椿自治振興会 会長 村椿地区社会福祉協議会 会長	大上戸 久雄	地区
委員	黒部市身体障害者協会 会長	伊東 高志	障害福祉
委員	黒部市老人クラブ連合会 副会長	立野 富子	高齢福祉
委員	黒部市民生委員児童委員協議会 副会長	中田 美智子	民生委員
委員	公募委員	橋詰 真知子	公募
委員	公募委員	原 恵美	公募

【事務局】第3次地域福祉活動計画プロジェクトチーム

事務局長	事務局長/各課長・班長（兼務）	林 高好
地域福祉課／施設運営班	主幹	小倉 博和
地域福祉課	課長補佐	瀧松 一美
総務課	経営戦略係長	小柴 徳明
地域福祉課	主事	坪崎 めぐみ
総務課	主事	高村 彩加
総務課	嘱託	高村 千恵美

### 3 用語解説

この用語の解説は、本計画に使用している言葉のうち、専門用語、外来語などの一般的にわかりづらい用語に解説をつけています。

#### 【あ行】

##### ICT (アイシーティ)

Information and Communication Technology (情報通信技術) の略。PC だけでなくスマートフォンやスマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

##### アクション

演技・行為・行動・動作などを意味する。

##### U-40 代 (アンダー40代)

「U (ユー)」はアンダー (under) の頭文字で、「下の」、「下に」等を意味する。この場合は 49 歳以下を指す。

##### SNS (エスエヌエス)

social networking service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の略。Web 上で社会的ネットワーク (ソーシャル・ネットワーク) を構築可能にするサービスのこと。

##### SDGs (Sustainable Development Goals (エス・ディー・ジーズ) = 持続可能な開発目標)

2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ (計画)」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っている。発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

この計画では、お互いさまの社会の実現に向け、誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進に取り組むことで、国際目標である SDGs の一部とつながるものとする。



## NPO（エヌピーオー）

NonProfit Organization の略で一般的には民間非営利組織と略され、営利追求を目的としない社会的な目的を持つ民間組織をいいます。社会福祉活動では、サービスの新たな供給主体として期待されている。

## 【か行】

### 活動人口

職業の有無に拘らず、「社会的・生産的活動」を行っている人口を意味する。

この計画では、地域活動に参加する人を指す。

### くろベネット事業

小地域（黒部市は 16 地区）を単位として、福祉課題を持つ世帯に対し地域の人ができる見守りや話し相手などの支援活動を通じて、住民の相互の支え合いをつくとともに、医療・保健・福祉など生活を支える関係者ともネットワークを図ることで、だれもが安心して生活できる地域づくりを進めようとする活動のこと。

（くろベネット活動目的）

- （1）孤立孤独をなくす。
- （2）住民、専門職（機関）、企業などが協力して課題解決をする。
- （3）活動を通じて住民主体の地域づくりを進める。

### 協働

複数の個人や集団が対等性を基に、共通目的に対し役割分担を明確にし、共に力を合わせて活動すること。

### コーディネーター

社会福祉の援助においては、他の職種とのチームワークが不可欠であり、その際に関係する施設、機関、団体の人たちと連携し、全体の調整を行う者のこと。

### コミュニティ

居住地を同じくしている共同体のこと。通常、地域社会と訳される。生産、風習習慣などにおいて結びついている人々の集まり（社会）であり、共通の価値観を所有していることが特徴である。

### コラボレーション

共に働く、協力するという意味で、共演、合作、共同作業、利的協力を指す語である。

## 【さ行】

### 社会福祉協議会（社会福祉法 109 条）

市町村社会福祉協議会1又は同一都道府県内の2以上の市町村の区域において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であつて、その区域内における社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ、指定都市にあつてはその区域内における地区社会福祉協議会の過半数及び社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が、指定都市以外の市及び町村にあつてはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が参加するものとする。

- 一 社会福祉に関する活動への住民の参加のための企画及び実施
- 二 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- 三 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- 四 前3号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

### 社会福祉法 107 条（市町村地域福祉計画）

市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として事項を一体的に定める計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者その他社会福祉に関する行動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

- 一 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 二 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 三 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

## 【た行】

### 地域共生社会

少子高齢・人口減少、地域社会の脆弱（もろくて弱いこと）化等、社会構造の変化の中で、人々が様々な生活課題を抱えながらも住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

## 地域包括ケアシステム

厚生労働省において、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制のこと。

## 【な行】

### 2025年問題

2025年に現在、約800万人いるとされる団塊の世代が後期高齢者になり、超高齢化社会へ突入する問題。

## 【は行】

### 8050問題

子どもの引きこもりの状態が長期化すれば親も高齢となり、収入や介護などの問題が生じる。これは80代の親と50代の子の親子関係が問題であることから「8050問題」と呼ばれる。

### パートナーシップ

協力関係。共同。提携。

### PDCA（ピーディーシーイー）サイクル

「Plan=計画」「Do=実行」「Check=評価」「Action=改善」の4つの英単語の頭文字から、「PDCAサイクル」と呼ばれている。4つの段階を循環的に繰り返し行うことで、仕事を改善・効率化することができる継続的改善手法。

### プラットフォーム

動かすために必要な、土台となる環境、土台となっているもの。

### Vision（ビジョン）

将来の構想。展望。また、将来を見通す力。洞察力。

## 【ま行】

### マイノリティー

社会的少数者または社会的少数集団。社会的少数派とは、その社会の権力関係において、その属性が少数派に位置する者の立場やその集団を指す。



Mission (ミッション)

任務。使命。

【ら行】

ラボ

ラボラトリー (laboratory) の略。研究所、研究機関にあたるもの。

# 黒部の福祉を良くする活動計画

## Kurobe Social Welfare Action Plan

2019年度 — 2023年度



この活動計画は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標(ゴール)にどんなこと(ターゲット)に力を入れて取り組んでいくのかを示すものです。なお、本計画は「第3次黒部市地域福祉活動計画」をわかりやすくまとめたものです。

作成: 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会 事務局: 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



Vision

# お互いさまの社会の実現に向けて

Mission

## 誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの推進

地域福祉に関わる全ての団体や人々と共に目指す5の目標と15の取り組み



### 活動人口を増やそう

黒部市人口ビジョン(2015年策定)では、今後の人口は減少し、一方で高齢者の増加が見込まれます。そのような中で、地域活動を発展的または、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口(地域活動に参加する人)を増加させていくことを目指します。

は、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口(地域活動に参加する人)を増加させていくことを目指します。

### 地域で活動する人を増やし 地域の担い手を育てる

- 1 小さな地域で出番を増やす
- 2 住民主体の意識を育てる
- 3 世代間交流事業に取り組む



### 話すことから はじめよう

人と人とのつながり、信頼関係を構築するためには、知る場、学ぶ場、話し合う場、そして当事者同士が支え合う場づくりが必要です。話し合い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからを自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからを自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

### 話し合う場、学び合う場、 支え合う場をつくる

- 1 市内で学び合う場をつくる
- 2 新しい話し合いの場をつくる
- 3 ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる」場をつくる

ICT(インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)…… 情報通信技術の略。パソコンやスマートフォン、スマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。





3



すべての  
人々に福祉を

誰もが安心して地域で生活していくことができる地域共生社会を実現するためには、「お互いさまの助け合い」の心を育てていく必要があります。

また、声なき声を拾い、時代の変化と共に生まれ続けるマイノリティーな立場にある人々を「誰ひとり取り残さない」の精神のもと支えていく社会の実現を目指します。

マイノリティー …… 社会的少数者または社会的少数集団。社会的少数派とは、その社会の権力関係において、その属性が少数派に位置する者の立場やその集団を指す。

誰もが安心して暮らせる  
社会的孤立の無い  
地域をつくる

- 1 「お互いさまの支え合い」を実現する
- 2 「声が届く地域、声を見つける地域」を目指す
- 3 小地域単位での地域課題解決力を高める

4



U-40代の  
力を活かそう

地域を支える支援者の高齢化が深刻な課題として挙げられている中、次世代に引き継ぐしくみとして、地域での話し合いの場面において若

者の声を意識して入れていく必要があります。人生100年時代を見据えて、40代以下が地域づくりに関心を持つ機会をつくり出し、参加する場を提供することで次世代の社会参加を促すことを目指します。

U-40代(アンダー40代) …… 「U(ユー)」はアンダー(under)の頭文字で、「下の」、「下に」を意味する。この場合は49歳以下を指す。

U-40代に  
地域福祉への関わりや  
参加の機会を増やす

- 1 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす
- 2 10代、20代、30代、40代の声を入れる
- 3 全世代で福祉体験教育に取り組む

5



パートナー  
シップで目標を  
達成しよう

複雑多様化する地域課題を解決していくためには、それぞれの強みや利害を明確に連携協働していくことが必要不可欠です。異業種や異分野

でつながる多職種の間づくりや市内16地区間での連携体制の強化を目指します。

パートナーシップ …… 協力関係。協働。提携。  
プラットフォーム …… 動かすために必要な、土台となる環境、土台となっているもの。  
コラボレーション …… 共に働く、協力するという意味で、共演、合作、共同作業、利的協力を指す語である。

様々な連携・協働で  
地域課題を  
解決していく力をつける

- 1 つなぐプラットフォームを整備する
- 2 異業種／異分野が  
コラボレーションする場づくり
- 3 地区同士の助け合い、連携を強化する



## Kurobe Social Welfare Action Plan

黒部の福祉を良くする活動計画

### 私たちが取り組む 3つの重点事業 [5カ年推進]

#### くろベネット

誰もが安心して暮らせる包括的な見守り支援体制の強化

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、ご近所や地域単位での普段の見守りを大切にしながら、黒部市全域で住民と企業や行政、専門職などが連携することで市民総参加の地域共生社会の実現に取り組んでいきます。



#### 地域福祉分野でのICTの利活用

ICTを利活用した地域福祉事業の効率化、発展的な継続

人口減少や福祉の担い手不足、複雑多様化する地域課題に対して、ICTの力を活用することにより、効率や利便性を高め、福祉活動支援者の環境や活動を間接的に支援し、地域福祉推進力を強化していきます。



#### 小地域福祉活動の強化

それぞれの地域特性に対応した地域福祉推進の計画づくり

黒部市全体を考えながらも、それぞれの小地域(16地区)の地域特性や実情にあった活動や事業を考えることが必要です。地域単位で調べ、考え、話し合う機会をつくり「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」住民主体の活動をつくりだします。



#### PDCAサイクルで ビジョンを実現しよう

##### Action [改善]

評価に基づき  
改善プランを決める

取り組みを集計し  
評価を検証する

##### Check [評価]



##### Plan [計画]

黒部の福祉を良くする  
目標や計画を立てる

目標に向かって  
事業や取り組みを進める

##### Do [実行]

この詳細は、黒部市社会福祉協議会のホームページ(<http://www.kurobesw.com/>)「第3次黒部市地域福祉活動計画」からダウンロードできます。

[編集・発行] 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会 事務局：社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会  
〒938-0022 富山県黒部市金屋464-1 TEL.0765-54-1082(代表) FAX.0765-52-2797

黒部市社会福祉協議会  
ホームページ



第3次黒部市地域福祉活動計画

2019年（平成31）年度～2023年度

発行 2019年3月

編集・発行 黒部市地域福祉活動計画策定委員会

事務局 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp



平成 31 (2019) 年度

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 事業計画

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

# 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会事業計画の全体構成

## I 基本構想（法人の経営理念）



○社会福祉協議会が目指す社会：ビジョン

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進

○実現のための重点項目：ミッション ※黒部市社会福祉大会決議 重点3項目

- 1 人材育成・組織強化の環境整備
- 2 地域福祉推進の場づくりと拠点整備
- 3 財源の確保

## II 基本計画（＝黒部市への要望事項）

大会決議並びに「第2次黒部市地域福祉活動計画（平成26年度～平成30年度）」の〈第5章地域福祉活動計画を推進する組織基盤の強化〉に基づく黒部市社会福祉協議会の1期を3ヵ年とする事業計画

第1期事業計画	平成27年度(2015)～平成29年度(2017)
第2期	平成30年度(2018)～平成32年度(2020)
第3期	平成33年度(2021)～平成35年度(2023)
最終期	平成36年度(2024)～平成38年度(2026)

## III 基本設計

平成31年度（2019年度）黒部市社会福祉協議会

予算編成方針 第2期基本計画（3ヵ年の1年目・**2年目**・3年目の位置づけ）

## IV 事業計画

平成31年度（2019年度）黒部市社会福祉協議会

事業計画・予算 第2期基本計画（3ヵ年の1年目・**2年目**・3年目の単年）

## I. 基本構想（法人の経営理念）

### ○社会福祉協議会が目指す社会（ビジョン）

経営方針やすべての事業計画は、

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」

の推進を図るために行われるものとする。

### ○実現のための重点項目（ミッション）

重点3項目：第13回黒部市社会福祉大会決議に基づく

第13回黒部市社会福祉大会において、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指し、参加者一同の連携協働をもって推進するために次の事項の決議を行った。



#### 1 人材育成の環境整備

地域福祉推進の要となる「人」に主眼を置き、地域の担い手、リーダーの育成を行い住民主体のまちづくりを目指す。また、地域課題解決のための専門職の資質向上と関係機関同士のネットワークづくりを進める。



#### 2 地域福祉推進の場づくりと拠点整備

地域福祉推進のために、多様な団体が集い話し合いのできる場づくり、連携できる拠点整備の早期実現を目指す。さらに今ある機能の効率化、機能面の充実と共に、これからの地域課題解決の体制づくりを進める。



#### 3 財源の確保

様々な課題解決に向け、公的な資金を活用した安定的なサービスを提供すると共に、市民の善意による募金や寄付、民間財源などを活かしながら地域ニーズに合った事業に取り組むため、黒部市全体の地域福祉推進を後押しする財源の確保を図る。

## II 基本計画

基本構想並びに「第2次黒部市地域福祉活動計画（平成26年度～平成30年度）」の〈第5章地域福祉活動計画を推進する組織基盤の強化〉及び「第3次黒部市地域福祉活動計画（平成31年度【2019】～平成35年度【2023】）」で目標とした5goalと15targetに基づく、黒部市社会福祉協議会の1期を3ヵ年とする事業計画

### 第2期基本計画（平成31年度2年目） 平成30年度～平成32年度（3ヵ年計画）

社会福祉協議会の定款に定められた経営の原則に基づき、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的、かつ適正に行うため、自主的に経営基盤の強化を図るとともにその提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性を図る。そして、市民に対してのサポート（支援）と組織・団体をつなぐプラットフォーム機能の充実を進めていく。

#### 1 人材育成・組織強化の環境整備

活動の主体となる人を育て、組織を強くする。

地域福祉推進の要となる「人」に主眼を置き、地域の担い手、リーダーの育成を行い住民主体のまちづくりを目指す。また、地域課題解決のための専門職の資質向上と関係機関同士のネットワークづくりを進める。



#### 2 地域福祉推進の場づくりと拠点整備

集える場、連携できる拠点整備と体制づくりを進める。

地域福祉推進のために、多様な団体が集い話し合いのできる場づくりと連携できる拠点「(仮称)新総合福祉会館」建設の早期実現を目指す。さらに今ある機能の効率化、機能面の充実と共に、これからの地域課題解決の体制づくりを進める。



#### 3 財源の確保

市の財政的支援は基より、自ら資金確保に努める。

様々な課題解決に向け、公的な資金を活用した安定的なサービスを提供すると共に、市民の善意による募金や寄付、民間財源などを活かしながら地域ニーズに合った事業に取り組むため、黒部市全体の地域福祉推進を後押しする財源の確保を図る。



### Ⅲ.Ⅳ 基本設計・事業計画

平成 31 年度（2019 年度）社会福祉法人黒部市社会福祉協議会  
基本設計・事業計画

第 2 期 3 ヲ年（1 年目・2 年目・3 年目）

黒部市社会福祉協議会は、個人の尊厳保持と自立支援を基本理念とする福祉サービスを提供し「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を実現するため、次の事項を地域の住民及び関係団体の参画と協働をもって、平成 30 年度（2019 年度）から第 2 期 3 ヲ年の計画を順次、段階的に実施し、2026 年度までに達成することを目標とする。（基本計画に基づく）

#### I 人材育成・組織強化の環境整備

活動の主体となる人を育て、組織を強くする。

##### 1 黒部市社会福祉協議会の基盤強化計画の推進

社会情勢や福祉政策の動向を見極めながら、黒部市社会福祉協議会としての使命を明確にし、長期（10 年）、中期（5 年）、短期（3 年）の目標設定となる基盤強化計画とその進捗状況の確認と修正をチェックする体制を構築する。

##### 2 小地域福祉活動の中核となる地区社会福祉協議会の基盤強化

地区単位で行われる自助・共助の力を最大限に活かした地域づくりを推進していくために、その活動の中核的役割を担う地区社会福祉協議会の基盤強化を図る。また、各地区へ住民座談会や地域アセスメントを実施し、将来的に地区ごとの小地域福祉活動計画の策定につなげていく。



##### 3 シンクタンク機能の強化（継続発展）

地域福祉推進の中心となる社協の機能向上として、知識や情報を組織として蓄積し、その集まったものの分析と研究を行い、より効果的に事業や施策を実施できる体制を構築し、専門機関としての機能を高めていく。





## II 地域福祉推進の場づくりと拠点整備

集える場、連携できる拠点整備と体制づくりを進める。

### 1 話し合いの場づくり（継続強化）

地域福祉推進や地域課題解決のために、多様な団体が集い話し合いのできる場づくり（マルチステークホルダープロセス）を様々な場面でつくり出す。



### 2 第3次黒部市地域福祉活動計画の推進（5カ年計画）

多様な組織、団体と連携・協働し策定した活動計画の評価、推進を図る委員会の設置や、地区ごとの小地域福祉活動計画整備に向けての体制づくりを行う。

### 3 活動拠点となる場の検討・調査・実施（継続発展）

地域福祉推進のために必要な拠点整備の必要性と地域の現状調査を継続的に進め、市社会福祉大会での決議や行政に対して建設要望していくとともに、必要なソフト事業についても検討と実施を行う。

## III 財源の確保

市の財政的支援は基より、自ら資金確保に努める。

### 1 市民活動への資金供給（継続強化）

ボランティア活動や非営利活動の身近な財源となる赤い羽根共同募金を活用し、市民活動の財源を供給し団体の活動を活性化していく。そのための資金調達強化や資金循環の仕組みを市民に可視化し、「自分たちの町を自分たちで良くしていく」意識を浸透させていく。



### 2 先駆的事業への投資（継続強化）

国、県、または民間の助成金やモデル事業などの活用や社協の自主財源を投入し、先駆的事業への取り組みも積極的に行い、制度の狭間にある課題の解決を図る。また、そのための自主財源の確保について、会費制度や寄付を効果的に活用し、共感から寄付へつなぐしくみを構築していく。



# 平成 31 年度（2019 年度）重点事業

## 1 「くろベネット」を中心とした包括的な見守り体制推進事業

基本設計との関連：【地域福祉推進の場づくり】



【集える場、連携できる体制づくり】

本会の事業の中心に「くろベネット」を位置付けし、担い手の育成、活動の体制、様々な地域資源の活用などを多角的に検討し、包括的な見守り体制を整備していく必要がある。この事業では、平成 30 年度に策定した 3 カ年の「くろベネット推進計画」を基に、市全域、地区単位での包括的な見守りの体制を推進し、個別支援から地域づくりまでの幅広い事業とも連動した包括的な地域の支え合い体制を構築していく。

また、第 2 次黒部市総合振興計画にも記載されている重要事業として、行政や関係機関との連携をより一層の強化を図る。

○具体的事業

- ・くろベネット運営委員会の開催
- ・広報、PR 活動による認知度 UP
- ・企業との連携による活動推進

○予算 1,980,000 円

財源：黒部市補助金 1,700,000 円（前年度比±0） 自主財源 280,000 円

くろベネット体制整地区補助 1,000,000 円（継続）  
事業推進研修会 280,000 円（継続発展）

2019 年度強化

PR・広報ツール作成費 300,000 円（継続）  
運営委員会設置費 100,000 円（継続）  
企業との連携協働 100,000 円（継続）  
モデル地区活動支援費 200,000 円（継続）

※くろベネット推進事業計画（別紙）に基づき事業を進めていく。

## 2 地域福祉分野での ICT 利活用



基本設計との関連【先駆的事业への投資】

ICT の利活用については、平成 29 年度より調査研究を行ってきた。その結果に基づき、地域福祉分野での利活用とその活動基盤となる法人内部への利活用を実験的に行い、その効果を検証し、これからの ICT 利活用の方向性を定めていく。また、その事業を調査研究していくための場づくりを行うと共に平成 31 年度（2019 年度）に地域福祉分野における ICT 利活用推進計画（3 カ年）



の策定を行う。

○具体的事業

- ・地域住民、福祉関係団体等の ICT リテラシー向上のためのフォーラム開催
- ・ボランティア団体の立ち上げ支援
- ・新たな相談体制の構築、WEB を通じての相談支援「くろべふくし知恵袋」の運用

○予算 500,000 円

財源：黒部市補助金 200,000 円（シンクタンク事業内での予算組み替え）  
市社協自主財源 300,000 円

内訳：講師謝金、業務委託費、研修にかかる経費等

※「くろベネット」への ICT 導入の検討（2020 年度予算へ反映）

### 3 小地域福祉活動の強化



基本設計との関連：【市社会福祉協議会の基盤強化計画の推進】

【小地域福祉活動の中核となる地区社協の基盤強化】

地区単位で行われる自助・共助の力を最大限に活かした地域づくりを推進していくために、その活動の中核的役割を担う地区社会福祉協議会の基盤強化を図る。平成 30 年度末までに小地域福祉活動推進計画（3 ヶ年）の土台を作り、成 31 年度（2019 年度）から策定と実施を行う。また、以前より調査研究を共に行ってきた一般財団法人 CSO ネットワークと協働で実施する地域診断調査と、地域単位で行われている事業の現状調査などを組み合わせながら地域との話し合う対話の場づくりを行い、地域福祉活動事業のリフォーム（見直しや改善）を行っていく。

○具体的事業

- ・モデル地区での伴走型支援による地域福祉活動のリフォーム
- ・小地域福祉活動支援の在り方の研究（コミュニティサポートプログラムの開発）

○予算 400,000 円+α

財源：黒部市補助金 200,000 円（シンクタンク事業内での予算組み替え）  
市社協自主財源 200,000 円

内訳：調査経費、会議費、アドバイザー派遣費、印刷製本費等

※モデル地区を選定し伴走型の支援を行う。次年度以降は検証を踏まえ、地区担当制の本格的な導入とともに全地区へ広めていく。

※民間助成金や県社協助成金を活用し、小地域福祉活動の強化方法として「コミュニティサポートプログラム（CSP）の体系化」をまとめた調査研究として助成申請を行う予定である。

## 第3次黒部市地域福祉活動計画の推進と

### 黒部市社会福祉協議会実施事業の関連性について

#### 1 第3次黒部市地域福祉活動計画の推進と関連性

本会は、黒部市の地域福祉の推進を図る中核的組織として、第3次黒部市地域福祉活動計画の推進と共に、黒部市の様々な福祉関係団体と連携協働を行いこの計画のPDCAサイクルを回していく存在である。

また、黒部市の社会福祉法人として、本会の実施計画にも反映し、各事業が活動計画のどの部分に関連があるかを明らかにして取り組む必要がある。

#### 2 具体的な実施事業

##### (1) 市社会福祉協議会事業計画への反映

- ・ 既存事業ごとの関連性の確認
- ・ 新規事業の企画立案
- ・ 事業計画書へのマーキング（5goalのロゴを付ける）

##### (2) 第3次黒部市地域福祉活動計画推進評価委員会の設置

- ・ 推進評価を行うための体制として委員会を設置
- ・ 福祉関係団体及び地域福祉活動者への周知と啓発

##### (3) 第3次黒部市地域福祉活動計画に掲げる重点事業の推進

本会の重点事業と同じく黒部市全体で推進を図る3つの事業の取り組み

- ・ くろベネット  
誰もが安心して暮らせる包括的な見守りの強化
- ・ 地域福祉分野でのICTの利活用  
ICTを利活用した地域福祉事業の効率化、発展的な継続
- ・ 小地域福祉活動の強化  
それぞれの地域特性に対応した福祉推進の計画づくり

#### 黒部の福祉を良くする活動計画

Kurobe Social Welfare Action Plan

2019年度—2023年度



## 黒部の福祉を良くする活動計画

### Kurobe Social Welfare Action Plan

2019年度 — 2023年度



この活動計画は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標（ゴール）にどんなこと（ターゲット）に力を入れて取り組んでいくのかを示すものです。なお、本計画は「第3次黒部市地域福祉活動計画」をわかりやすくまとめたものです。

作成：第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会 事務局：社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



第3次黒部市地域福祉活動計画概要版「黒部の福祉を良くする活動計画」②



Vision

お互いさまの社会の実現に向けて

Mission

誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの推進

地域福祉に関わる全ての団体や人々と共に目指す5の目標と15の取り組み



1 活動人口を増やそう

黒部市人口ビジョン(2015年策定)では、今後の人口は減少し、一方で高齢者の増加が見込まれます。そのような中で、地域活動を発展的または、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口(地域活動に参加する人)を増加させていくことを目指します。

は、維持していくためには、一人ひとりが2役、3役と様々な「出番と役割」を持つ必要があります。地域活動に参加する機会を増やし、人口減に反比例するように活動人口(地域活動に参加する人)を増加させていくことを目指します。

地域で活動する人を増やし  
地域の担い手を育てる

- 1 小さな地域で出番を増やす
- 2 住民主体の意識を育てる
- 3 世代間交流事業に取り組む



2 話すことから  
はじめよう

人と人とのつながり、信頼関係を構築するためには、知る場、学ぶ場、話し合う場、そして当事者同士が支え合う場づくりが必要です。話し合い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからを自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

話し合い、相互理解、情報を共有することから、新たな手立てが導き出され、それが行動促進へつながります。地域のこれからを自分たちで考える対話の場づくりを増やし、住民主体のまちづくりを目指します。

話し合う場、学び合う場、  
支え合う場をつくる

- 1 市内で学び合う場をつくる
- 2 新しい話し合いの場をつくる
- 3 ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる」場をつくる

ICT(インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)……情報通信技術の略。パソコンやスマートフォン、スマートスピーカーなど、さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。



3   
すべての  
人々に福祉を

誰もが安心して地域で生活  
していくことができる地域共  
生社会を実現するためには、  
「お互いさまの助け合い」の  
心を育てていく必要がありま

す。また、声なき声を拾い、時代の変化と共に  
生まれ続けるマイノリティーな立場にある人々  
を「誰ひとり取り残さない」の精神のもと支え  
ていく社会の実現を目指します。

マイノリティー……社会的少数者または社会的少数集団、社会的少数  
派とは、その社会の権力関係において、その属性が少数派に位置する者  
の立場やその集団を指す。

誰もが安心して暮らせる  
社会的孤立の無い  
地域をつくる

- 1 「お互いさまの支え合い」を実現する
- 2 「声が届く地域、声を見つける地域」を目指す
- 3 小地域単位での地域課題解決力を高める

4   
U-40代の  
力を活かそう

地域を支える支援者の高齢  
化が深刻な課題として挙げ  
られている中、次世代に引き  
継ぐしくみとして、地域での  
話し合いの場面において若

者の声を意識して入れていく必要があります。  
人生100年時代を見据えて、40代以下が地域  
づくりに関心を持つ機会をつくり出し、参加す  
る場を提供することで次世代の社会参加を  
促すことを目指します。

U-40代(アンダー40代)……「U(ユー)」はアンダー(under)の頭文字  
で、「下の」、「下に」を意味する。この場合は49歳以下を指す。

U-40代に  
地域福祉への関わりや  
参加の機会を増やす

- 1 小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす
- 2 10代、20代、30代、40代の声を入れる
- 3 全世代で福祉体験教育に取り組む

5   
パートナ  
ーシップで目標を  
達成しよう

複雑多様化する地域課題を  
解決していくためには、それ  
ぞれの強みや利害を明確に  
連携協働していくことが必要  
不可欠です。異業種や異分野

でつながる多職種の間づくりや市内16地区  
間での連携体制の強化を目指します。

パートナーシップ……協力関係、協働、提携。  
プラットフォーム……動かすために必要な、土台となる環境、土台となっ  
ているもの。  
コラボレーション……共に動く、協力するという意味で、共演、合作、共  
同作業、利発協力を指す語である。

様々な連携・協働で  
地域課題を  
解決していく力をつける

- 1 つなぐプラットフォームを整備する
- 2 異業種／異分野が  
コラボレーションする場づくり
- 3 地区同士の助け合い、連携を強化する

第3次黒部市地域福祉活動計画概要版「黒部の福祉を良くする活動計画」④  
(黒部市社会福祉協議会の重点事業と整合性)



私たちが取り組む 3つの重点事業 [5カ年推進]

くろベネット



誰もが安心して暮らせる包括的な見守り支援体制の強化

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、ご近所や地域単位での普段の見守りを大切にしながら、黒部市全域で住民と企業や行政、専門職などが連携することで市民総参加の地域共生社会の実現に取り組んでいきます。

地域福祉分野でのICTの活用



ICTを活用した地域福祉事業の効率化、発展的な継続

人口減少や福祉の担い手不足、複雑多様化する地域課題に対して、ICTの力を活用することにより、効率や利便性を高め、福祉活動支援者の環境や活動を間接的に支援し、地域福祉推進力を強化していきます。

小地域福祉活動の強化



それぞれの地域特性に対応した地域福祉推進の計画づくり

黒部市全体を考えながらも、それぞれの小地域(16地区)の地域特性や実情にあった活動や事業を考えることが必要です。地域単位で調べ、考え、話し合う機会をつくり「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」住民主体の活動をつくりだします。

PDCAサイクルで  
ビジョンを実現しよう



この詳細は、黒部市社会福祉協議会のホームページ(<http://www.kurobasw.com/>)「第3次黒部市地域福祉活動計画」からダウンロードできます。

【編集・発行】第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会 事務局：社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 〒938-0022 富山県黒部市金屋464-1 TEL.0765-54-1082(代表) FAX.0765-52-2797

黒部市社会福祉協議会  
ホームページ





# 平成 31 年度（2019 年度）社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

## 実施事業計画

### 総務課

地域福祉推進を図る中核的組織としての基盤強化を更に図り先駆的な事業にも取り組んでいく。また職員一人ひとりがやりがいをもって働ける職場環境の充実を目指していく。

#### 1 経営戦略

法人全体の横断的な事業の企画立案と内部での調整を円滑に行う。また ICT の利活用など将来を見据えた先駆的な事業を進めていく。

##### (1) 経営戦略会議の開催

理事会、評議員会、運営協議会、部会、専門委員会、法人内の連携調整

##### (2) 法人内の連携会議の開催（体制強化）

##### (3) シンクタンク（調査・研究）の設置並びに強化

##### (4) 黒部市社会福祉法人連合会による地域での公益的な活動の推進

##### (5) 地域福祉分野と法人内部への ICT 利活用の実証実験と運用

##### (6) ⑧第 3 次黒部市地域福祉活動計画の推進と評価委員会の設置

##### (7) ⑧黒部市社会福祉協議会経営戦略計画の策定（重点事業計画の整備）

##### (8) ⑧小地域福祉活動強化のための CSP（コミュニティーサポートプログラム）の実施



#### 2 法人運営

事業の多様性や専門性が求められるのに伴い、それに対処できる人材の育成、柔軟な対応等により、円滑かつ迅速な法人運営を行えるようにする。

##### (1) 広報誌「福祉くろべ」「災害マニュアル」の発行

##### (2) 黒部市社会福祉大会の開催

##### (3) 黒部善意銀行との連携事業

##### (4) 関係機関との事業交流、人事交流の推進



- (5) 職員の資質向上（資格の取得、研修プログラムの体系化）
- (6) 会員サポート事業（会員拡充）
- (7) 法人の経営基盤強化
- (8) ㊦労働環境の整備（規程の見直し、働きやすい職場づくり）
- (9) ㊦（仮称）新黒部市総合福祉会館の建設に向けての要望と調整



## 施設運営班

黒部市民の健康や生きがい、仲間づくりを目的に施設の利用の向上を図るとともに、耐用年数に伴う施設整備の更新を順次行い、施設の管理運営を行う。

### 3 施設運営

施設において介護予防活動などを行い、施設利用者の向上を図り、施設整備においては耐用年数に応じ老朽化設備の順次更新を行う。

- (1) 黒部市福祉センターの運営
- (2) 黒部市宇奈月老人福祉センターの指定管理（平成 31(2019)年～2023 年）



## 地域福祉課

住民一人ひとりを支える個別支援体制の強化と地区社会福祉協議会を中心とした住民主体のまちづくりを推進する。

### 4 生活支援

地域課題解決のための包括的な支援体制づくりを推進すると共に、個人の基本的な人権を尊重し寄り添いながら自立支援を行う。

- (1) 地域総合福祉活動・ふれあい型事業・ケアネット型事業の推進
- (2) 総合相談センター事業の推進
- (3) 日常生活自立支援事業の推進
- (4) 地域ケア会議への参画





## 5 地域支援

地区社会福祉協議会を中心とした地域づくりの推進を図るために職員の派遣や各種研修会を行う。また地域の担い手となる人材育成やボランティア活動の推進を図る。

- (1) 地区社会福祉協議会への伴走型支援
- (2) 地区社会福祉協議会事業への職員派遣及び研修会の開催
- (3) 「くろベミニサミット」の開催
- (4) ボランティア活動の推進
  - ・ ボランティア団体の育成と組織化の推進
  - ・ 児童生徒のボランティア活動の普及と福祉教育の推進
  - ・ 災害ボランティア活動の推進
  - ・ ボランティア養成研修会の開催
- (5) 介護予防教室の開催
- (6) 高齢者の生きがいと健康づくり事業の推進
- (7) 介護予防活動普及員設置事業・元気はつらつ体操教室事業の推進
- (8) 黒部市共同募金委員会との連携事業
- (9) 黒部市民生委員児童委員協議会との連携事業
- (10) 福祉団体の育成



## 6 共生推進

「くろベネット」を中心とした包括的支援体制構築のためのネットワークづくりと意識づくりを進め、共生社会の実現を目指す。また地域包括ケアシステムや国が将来的に実施する「我が事、丸ごと」事業（厚生労働省）について研究を進めていく。

- (1) 「くろベネット」事業の推進（くろベネット事業推進計画：3ヵ年）
- (2) ⑧くろベネット定期事例検討会の実施（法テラス魚津との連携事業）
- (3) 災害時要援護者地図情報事業の実施



## 地域包括支援班

### 7 地域包括支援センター

介護・医療・福祉の専門職がそれぞれの視点を活かし、地域住民の多様なニーズに対応するために、多職種との連携・協働を図りながら、総合的な支援を行う。

#### (1) 黒部市東部地域包括支援センターの運営



- ・ 総合相談支援業務
- ・ 包括的・継続的ケアマネジメント業務
- ・ 虐待防止・早期発見等権利擁護業務
- ・ 介護予防ケアマネジメント業務

#### (2) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み



- ・ 市や関係機関との連携
- ・ 地域ケア会議の開催
- ・ 地区社会福祉協議会や地区民生委員児童委員等との連携
- ・ ICT 利活用（「あんしん在宅ネットにいかわ Net4U」）

#### (3) 認知症施策推進に向けた取り組み

- ・ 認知症初期集中支援の実施
- ・ 認知症サポーター養成講座開催



## 在宅福祉課

介護を必要としている方やその家族が豊かな在宅生活を送れるように支援し、介護サービスを提供できる介護職員の質の向上を図る。また将来につなぐ新たな人材確保と育成、更に ICT を活用し、多職種との連携を積極的に図りながら在宅介護の推進に取り組む。

### 8 居宅介護支援



医療と介護の連携の強化を図るため、質の高いケアマネジメントの推進、地域資源の有効活用ができるよう専門職としての質の向上を図る。

- (1) 介護保険ケアマネジメント事業
- (2) 介護予防ケアマネジメント委託事業
- (3) ICT 利活用（「あんしん在宅ネットにいかわ Net 4 U」）

## 9 居宅訪問介護



介護職員の研修体制の拡充を図り質の向上を図ると共に、介護職員処遇改善の拡充、事務効率化により業務改善を図る。

- (1) 介護保険事業
- (2) 障害者総合支援事業
- (3) 介護予防・日常生活支援総合事業
- (4) 総合事業訪問型サービスA事業
- (5) ファミリーサービス事業
- (6) ICT 利活用（「あんしん在宅ネットにいかわ Net 4 U」）

## 10 在宅福祉



子供から高齢者までベッド・車椅子等の日常生活用具の必要な方に器具を貸出し、利用者および家族の在宅生活支援の充実を図る。

- (1) 日常生活用具貸出事業
- (2) 介護保険請求業務

## 内部プロジェクトチーム（PT）の設置

内部 PT は、横断的な事業や法人全体として検討する事業等について必要に応じ、期間とメンバーを定め設置する。

### 1 介護保険事業に関する PT

期間：平成 29 年 5 月～ 継続 3 年目

内容：人材確保、経営体制、業務効率改善の ICT 利活用

構成：事務局長、在宅福祉課 3 名、総務課 2 名、地域福祉課 1 名

2 第3次黒部市地域福祉活動計画推進評価PT

期間：平成31（2019）年3月～2020年3月まで

内容：計画推進と評価について検討を進める

構成：事務局長、総務課経営戦略係、地域福祉課を中心に構成予定

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会  
平成 30 年度 シンクタンク事業調査報告書

発 行 平成 31 年 3 月

編集・発行 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 経営戦略係

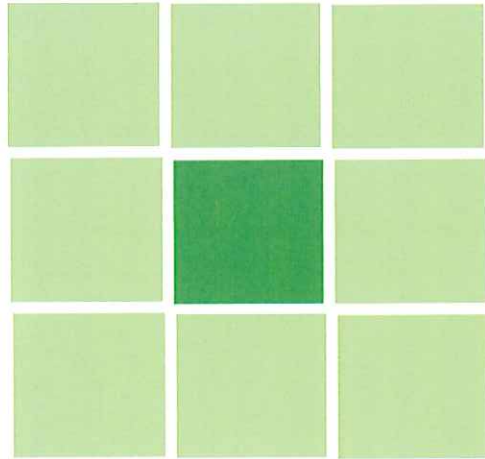
〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp





 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会